松江市文化財調査報告書 第 176 集

宍道複合施設進入路整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書

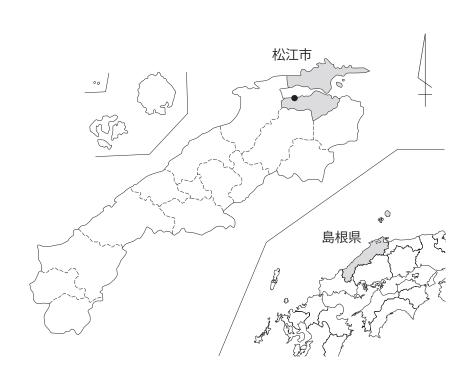
# 森屋敷遺跡

平成 28(2016) 年 7 月

島 根 県 松 江 市 教 育 委 員 会 公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団

宍道複合施設進入路整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書

# 森屋敷遺跡



平成 28(2016) 年 7 月

島 根 県 松 江 市 教 育 委 員 会 公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団

# 例 言

- 1. 本書は、平成 27 年度に本調査を実施した宍道複合施設進入路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査 報告書である。
- 2. 本報告書の作成は、平成28年度に松江市都市整備部土木課から松江市教育委員会が依頼を受け、公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団が実施した。
- 3. 遺跡の名称・所在地、調査面積は以下のとおりである。

名称 森屋敷遺跡

所在地 島根県松江市宍道町宍道 885-3 ほか

調査面積 302.4㎡

4. 現地調査の期間及び報告書作成期間

平成 27 年 10 月 21 日~平成 27 年 11 月 24 日 (発掘調査業務) 平成 28 年 4 月 28 日~平成 28 年 7 月 31 日 (報告書作成業務)

5. 各年度の調査組織

依頼者 松江市都市整備部土木課 主体者 松江市教育委員会 教 育 長 清水 伸夫 [平成27年度] 発掘調査業務 事務局 松江市歴史まちづくり部 長 安田 憲司 部 〃 まちづくり文化財課 課 長 永島 真吾 飯塚 康行 " 専門幹(埋蔵文化財調査室長兼務) 長 赤澤 秀則 " 埋蔵文化財調査室 調査係 係 // // 主 任 徳永 // // 隆 嘱 託 門脇 誠也 調査指導 島根県教育庁 文化財課 主 幹 深田 浩 実施者 公益財団法人松江市スポーツ振興財団 理 事 長 清水 伸夫 長 曽田 埋蔵文化財課 課 健 長 川西 学 調査係 係 調 査 員 徳永 桃代(担当者) // 調查補助員 原 英誉 「平成28年度」報告書作成業務 松江市歴史まちづくり部 事務局 部 長 藤原 亮彦 次 長(まちづくり文化財課課長兼務) 永島 真吾 まちづくり文化財課 専門幹 (埋蔵文化財調査室長兼務) 飯塚 康行 " 埋蔵文化財調査室 調査係 係 長 赤澤 秀則 // 主 任 徳永 // // 隆

託 門脇 誠也

嘱

実施者 公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団 理事長清水伸夫

埋蔵文化財課 課 長 曽田 健

〃 調査係 係 長 川西 学

" " 調 査 員 徳永 桃代(担当者)

" " 調査補助員 原 英誉

- 6. 本書に記載した遺物の復元・実測・浄書、遺構図版の作成は以下の者が行った。 木村由希江
- 7. 調査及び報告書の作成にあたっては、以下の方々から多大なご指導、ご教示、ご協力をいただいた。 記して感謝の意を表したい。

島根大学法文学部 准教授 平郡達哉 (朝鮮系土器)

島根県庁埋蔵文化財調査センター 調査第二課長 守岡正司(中世陶磁器)

島根県庁埋蔵文化財調査センター 調査第二係長 中川 寧 (弥生土器)

- 8. 本書の執筆は第1章を徳永隆(松江市埋蔵文化財調査室)が、第2章第1節と第4章第1節を渡辺正 巳(文化財調査コンサルタント株式会社)が、そのほかを徳永桃代が執筆した。また編集は松江市埋 蔵文化財調査室の協力を得て徳永桃代が行った。
- 9. 本書における土器区分、分類、編年は以下を参照した。

[弥生土器]

松本岩雄 1992「出雲・隠岐地域」『弥生土器の様式と編年 山陽・山陰編』 木耳社

鹿島町教育委員会 1992『講武地区県営圃場整備事業発掘調査報告書 5 南講武草田遺跡』

[土師器]

松山智弘 1991「出雲における古墳時代前半期の土器の様相 - 大東式の再検討 -」『島根考古学会誌 第8集』島根考古学会

[ 須恵器 ]

大谷晃二 1994「出雲地域の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌 第11集』島根考古学会 [奈良・平安時代以降の須恵器、土師器、土師質土器]

島根県教育委員会 2013「史跡出雲国府跡 9 総括編」

[陶器・磁器・中世土師器]

大宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊跡 X V - 陶磁器分類編 -』

八峠 興 1998「山陰における中世土器の変遷について」『中近世土器の基礎研究XⅢ』

九州近世陶磁器学会 2000『九州陶磁の編年 九州近世陶磁器学会 10 周年記念』

- 10. 本書における方位は公共座標北を示し、座標値は世界測地系に準拠した公共座標第Ⅲ系の値である。 また、レベルは海抜標高を示す。
- 11. 本書における遺構記号は以下のとおりである。

SK: 土坑 P: 柱穴 SD: 溝

12. 出土遺物、実測図及び写真等の資料は松江市教育委員会で保管している。

# 本文目次

1-	r —
//	==
נילו	

第	1章	調査	全に至る経緯	·· 1
第2	2章	位置	置と歴史的景観	
	第 ]	1節	遺跡の立地	2
	第2	2節	歷史的景観	3
第:	3章	調査	至の成果	
	第 ]	1節	調査の概要と基本層序	6
	第2	2 節	自然面	10
	第3	3節	第1面	19
第4	4 章	総括	5	
	第	1節	遺物の出土地点と砂州の発達過程	28
	第2	2節	森屋敷遺跡出土の塩町式系土器と朝鮮半島系土器	28
	第3	3節	まとめ	30

遺物観察表 写真図版 報告書抄録

# 挿図目次

第 1 図	砂州の発達とラグーンの分布2	第 19 図	1 区 1 面 遺構配置図19
第 2 図	調査区断面図と粒度分析結果2	第 20 図	1 区 1 面 7・8SP 遺構平面・断面図 20
第 3 図	砂州の発達と粒度の変化3	第21図	1 区 1 面 7・8SP 遺構出土遺物20
第 4 図	森屋敷遺跡の位置と周辺の遺跡5	第 22 図	1 区 1 面 3・4SP 遺構平面・断面図21
第 5 図	調査範囲と開発範囲図6	第 23 図	1 区 1 面 3・4SP 遺構出土遺物21
第 6 図	試掘調査 出土遺物実測図7	第24図	1 区 1 面 1・2SP 遺構平面・断面図22
第 7 図	調査 2 区 平面・断面図8	第 25 図	1区1面1・2SP 遺構出土遺物22
第 8 図	調査1区 平面・断面図8	第 26 図	2 区 1 面より上層出土遺物25
第 9 図	2区遺物包含層出土遺物11	第27図	2 区 1 面より上層出土遺物26
第 10 図	2 区遺物包含層出土遺物12	第 28 図	2 区 1 面より上層出土 金属製品26
第 11 図	2 区遺物包含層出土遺物13	第 29 図	2 区 1 面より上層出土 石製品26
第 12 図	2 区遺物包含層出土 朝鮮半島系土器14	第 30 図	1 区 1 面より上層出土遺物27
第 13 図	2 区遺物包含層出土 金属製品14	第31図	1 区 1 面より上層出土 古銭27
第 14 図	1 区遺物包含層出土遺物15	第 32 図	調査スパン毎の遺物の出土状況28
第 15 図	1 区遺物包含層出土遺物16	第 33 図	森屋敷遺跡出土の塩町式系土器と朝鮮半島系土器 29
第 16 図	1 区遺物包含層出土遺物17	第 34 図	塩町式系土器と朝鮮半島系土器出土遺跡の分布図 … 30
第 17 図	1 区遺物包含層出土 朝鮮半島系土器18	第 35 図	そのほかの遺跡出土の塩町式系土器と朝鮮半島系土器 …31
第 18 図	1 区遺物包含層出土 金属製品18		
表 2. 表 3.			33
	写真図	瓜日う	^
本文中写			
写真 1.	調査地周辺の様子	••••••	1
図版 1.	調査開始前状況 (1 区東端から ) 調査終了状況 (2 区西端から )	図版 7.	2 区遺物包含層出土遺物 (3) 2 区遺物包含層出土遺物 (4)
図版 2.	2区 4SP 土層堆積状況 (北壁)	図版 8.	1 区遺物包含層出土遺物 (1)
	2区7SP土層堆積状況(北壁)	図版 9.	1 区遺物包含層出土遺物 (2)
	1区8SP土層堆積状況(北壁)		遺物包含層出土 朝鮮半島系土器
図版 3.	2 区 1SP 検出状況 (南西から)		遺物包含層出土 金属製品
F52      1	1 区 5SP 検出状況 (南東から)	図版 10.	1区1面7・8SP 遺構出土遺物
凶版 4.	1 区 1 面 SK05 完掘状況 (北から)		1区1面1・2SP遺構出土遺物
	1 区 1 面 P9 検出状況 (南から) 1 区 1 面 集石検出状況 (北西から)	lΩ4 (1 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	2 区 1 面より上層 出土遺物 (1)
図版 5	1 区 7 回 衆行機品状況 (記題がら) 1 区 7SP1 面 完掘状況 (南から)	<b>巡版 11.</b>	2区1面より上層 出土遺物 (2)
<u>⊢</u> 1/1/X ∪•	1 区 3SP1 面 完掘状況 (東から)		1区1面より上層 出土遺物 2区1面より上層出土 石製品
図版 6.	試掘調査出土遺物		2 区 1 囲より工層出工 石製品 1 面より上層出土 金属製品
	2区遺物包含層出土遺物 (1)		1 叫のソエ眉山工 亚周教吅
	2 区遺物包含層出土遺物 (2)		

## 第1章 調査に至る経緯

松江市宍道町宍道地内において、老朽化により施設の刷新が必要とされた松江市宍道支所及び宍道公民館を併設する新たな「宍道複合施設」の建設が、平成28年3月の竣工を目途に計画された。これに先立ち、この施設への北側からの進入路や災害時の避難路等を確保するため、地元要望もあったことから、松江市により施設に接続する市道の新設工事が併せて計画された。

この市道新設計画範囲において、平成27年6月に埋蔵文化財の有無照会が松江市教育委員会へなされた。これを受けた松江市まちづくり文化財課において、当該事業範囲における遺跡の有無を判断するため、同月に試掘調査を実施したところ、事業予定範囲に設定した試掘調査トレンチの各所において古代~中世の遺物が多数検出され、当該地の全域には遺跡が存在することが確認された。このため、平成27年7月に隣接する「森屋敷遺跡」の範囲の広がりが確認されたものとして、当該地も周知されることとなった。

この結果を受け、事業者と協議を行ったが、事業計画の変更は困難であるとの判断に至り、平成 27年8月に松江市から発掘通知が提出され、この内容について、県教育委員会と協議した結果、事 業範囲について発掘調査の勧告を受けたことから、同年10月から当該遺跡の本発掘調査を実施する に至ったものである。



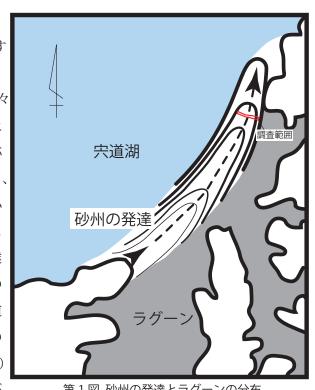
写真 1. 調査地周辺の様子 (手前が宍道駅、左奥は宍道湖)南から

# 第2章 位置と歴史的景観

## 第1節 遺跡の立地

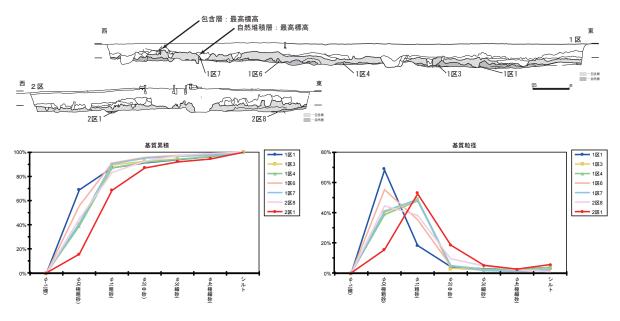
森屋敷遺跡は、宍道町宍道 885-3 ほかに所在す る。

本遺跡は、地形分類図(第4図)によれば、佐々 布川と小川の成す、南西から北東に延びる砂州上 に立地する。今回の調査では、遺物包含層から弥 生時代中期以降の遺物が検出されていることから、 湾口砂州(あるいは海底砂州)上面が「弥生の小 海退」期に完全に陸化し、土壌化を受けることに よって、クロスナ(ここでは遺物包含層)が発達 したものと考えられる。また、佐々布川と小川の 流域に広がる谷底平野は、この砂州によって宍道 湖から隔離されたラグーンが埋まってできたもの である(第1図)。さらに、調査区断面(第2図) で明らかなように、現地表面、包含層上面、及び

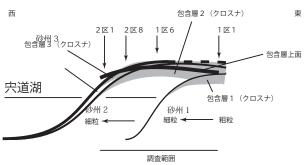


第1図 砂州の発達とラグーンの分布

自然堆積層上面の標高が1区西部で高く、1区東方向、2区西方向に向かい低くなる。したがって、 丘陵地に近い遺跡の東側には、ある時期までラグーンの端部が存在していたことが予想される。また、 砂州の西側に「昭和」の地名があるように、昭和期の干拓(埋め立て)地が広がっており、干拓(埋 め立て)以前には、砂州(あるいは遺跡)の西端がそのまま宍道湖に接していたことが示唆される。



第2図調査区断面図と粒度分析結果



第3図砂州の発達と粒度の変化

基質(砂粒部)の粒度分析結果では、何れの地点も、砂丘(あるいは河口部)で特徴的に認められる粒度特性である、1 つの鋭角なピークを持つ (第3図)。これらのピークの位置を概観すると、調査区域の東部が粗粒で、西部ほど細粒を示す傾向にある。更にピークの推移を詳細に見ると、粗粒~細粒の推移が少なくとも3度(1区1~、1区6~と2区8~)認められる。一般に砂州の中心部は粗粒で、縁辺部が細粒を示すことから、調査範囲内では砂州に少なくとも3回の発達時期があり、砂州が西側に発達していったことが示唆される (第3図)。

## 第2節 歴史的景観(第4図)

縄文時代における森屋敷遺跡は、このころの海進によって広がった古宍道湖の湖岸付近、あるいは湖底であったと考えられる。 周辺に縄文時代の遺跡は少なく、森屋敷遺跡の南東側の丘陵地 II において標高約90mのところに位置する野津原 II 遺跡 (59) で縄文草創期の有舌尖頭器が出土しているほか、落とし穴が見つかっている程度である。

弥生時代では、前期の遺跡は確認されておらず、もっとも古いもので丘陵地 I に位置する上野 II 遺跡 (93) があり、後期の土器とともに松本 II -1 様式にあたる中期前葉の土器が加工段 (標高約 56m) から 1 点出土している。また、丘陵地 II の縁辺部に位置する白石大谷 I 遺跡 (17) では、段状遺構 (標高約 10~ 15m 付近) などから中期後葉から後期の土器が出土している。平成 26 年度に宍道複合施設の建設に伴い調査をした森屋敷遺跡 (2) でも、松本 III~IV 期にあたる中期後半の土器が数点出土 (標高 2m 付近) しているが、現在までに確認されている中期にかけての遺跡はわずかである。後期になると、丘陵地 II にあたる野津原 II 遺跡 (59)、山守免遺跡 (60)、上野遺跡・上野 I 遺跡 (87)、上野 II 遺跡 (93) などで、竪穴建物跡などが確認され、集落の明らかな存在が判明している。以上のように、後期を中心に標高の高い位置に集落跡が多く確認されている。

古墳時代の遺跡は、丘陵地 II を中心に古墳、集落跡が確認されている。森屋敷遺跡周辺の古墳では、宍道要害山古墳 (47)、随音寺横穴墓群 (42)、横町横穴墓群 (44) などが存在する。集落跡は、堤平遺跡 (63)、上野 II 遺跡 (93)、矢頭遺跡 (69)、山守免遺跡 (60) で見つかっている。また、能登堀遺

跡 (40) では、集中的に土器が廃棄された溝状遺構を検出しており、祭祀跡の可能性が指摘されている。古代においては、『出雲国風土記』に宍道の地名伝承や祭祀遺跡の犬石・猪石 (14) の記述が見られる。また、佐々布付近に意宇郡宍道駅が置かれ、古代山陰道が宍道湖岸に平行するように存在したことが推察されている。荻田遺跡 (106)、堤平遺跡 (63) では、鉄滓と鞴羽口の出土から、鉄鍛冶を行っていたことが判明し、さらに仏教関連遺物の出土も確認され、地方への仏教の浸透を示すものである。中世では、白石大谷 I 遺跡 (17) で、古道やピットなどから 12 世紀から 14 世紀にかけての貿易陶

中世では、白石大谷 I 遺跡 (17) で、古道やピットなどから 12 世紀から 14 世紀にかけての貿易陶 磁器や国産陶器などが出土している。また、白石大谷 II 遺跡 (19) では、建物跡と思われる加工段から中世土師器が出土しており、貿易陶磁を伴わないことから豪族の居館ではなく、一般集落跡と考えられている。この二つの遺跡は、弥生時代から存在している。能登堀遺跡 (40) では、石組遺構のなかから中国製青磁碗片とともに石製の硯が出土しており、何らかの有力者の施設が存在したことを示唆するものである。

戦国時代には、宍道湖沿岸は尼子と毛利の戦場となり、宍道氏の本拠地とされる金山要害山城後 (74) を始め、多くの山城が築かれている。佐々布川のある谷底平野に沿って存在する丘陵地Ⅱ、丘陵地Ⅰに山城が築かれている。

江戸時代は、松江藩領となってからは、山陰道 (116) と宍道尾道街道 (117) の合流点にあたることから、雲南・山陽方面から陸路運搬されてきた物資を宍道で船に積み替え、宍道湖を通じて松江城下や各地に運ばれ水運が発達したようである。また、山陰道の街道沿いには「本陣」が設けられ、宿場町が形成された。現在も宿場町の町割りが残っており、調査範囲の西側 (2区) が、この町割りに該当する。

- 註 1) 中村唯史 宍道町教育委員会 1995 『宍道町ふるさと文庫 9 宍道湖のおいたち 人と海の交わるところ -』
- 註 2) 松江市教育委員会 公益財団法人松江市スポーツ振興財団 2015『松江市文化財調査報告書第 162 集 宍道複合施設整備事業に伴う発掘調査報告書 森屋敷遺跡』
- 註 3) 池橋達雄 宍道町教育委員会 1998「宍道町西部の古代山陰道をめぐって」 『宍道町歴史叢書 2』
- 註 4) 西尾克己・稲田信・木下誠 宍道町教育委員会 1998「出土品からみた荻田遺跡の性格」『宍道町歴史叢書 3』
- 註 5) 林健亮 日本道路公団中国支社 島根県教育委員会 2000 「第 4 章 第 4 節 第 2 項 中世の白石大谷 II 遺跡について」 『勝負廻 I 遺跡・白石大谷 II 遺跡・シトギ免遺跡・野津原 II 遺跡・山守免遺跡・石地蔵遺跡』
- 註 6) 松江市教育委員会 財団法人松江市教育文化振興事業団「V. 小結」『松江市文化財調査報告書第 126 集 能登堀遺跡発掘調査報告書』

#### 参考文献

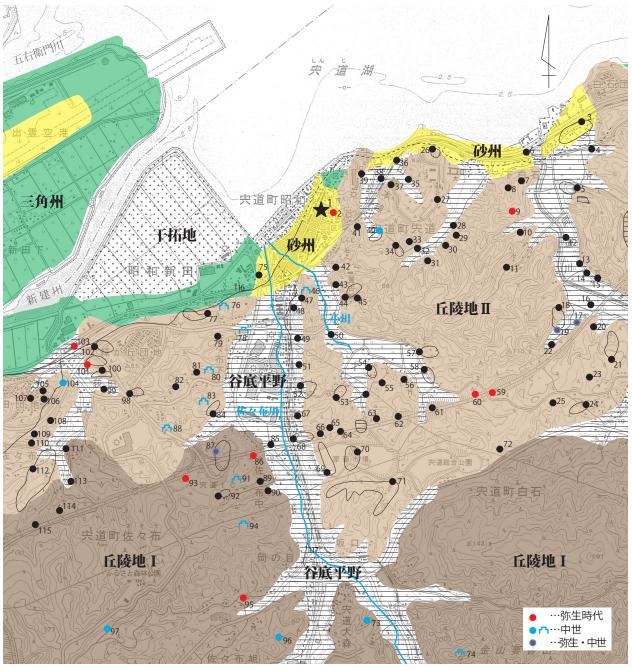
1. について

島根県 1973 「恵曇・今市」 『5 万分の 1 都道府県土地分類基本調査 (地形分類図)』

中村唯史 2006「山陰中部地域における完新世の海面変化と古地理変遷」『第四紀研究』 45(5), 407-420.

2. について

島根県教育委員会 2003 『増補改訂 島根県遺跡地図 I (出雲・隠岐編)』



第4図 森屋敷遺跡の位置と周辺の遺跡 (1:25,000)

1	森屋敷遺跡	21	椎山古墳群	41	上野原遺跡	61	墓崎遺跡	81	中屋敷遺跡	<b>1</b> 01	屋敷古墳群
<b>0</b> 2	森屋敷遺跡 (H26)	22	シトギ免遺跡	42	随音寺横穴墓群	62	香田遺跡	82	大畑ヶ遺跡	102	椎ノ木廻古墳群
3	下白石遺跡	23	上後ヶ市遺跡	43	八斗久保遺跡	63	堤平遺跡	<b>8</b> 3	土居郭群跡	<b>0</b> 103	北ヶ市遺跡
4	平井廻遺跡	24	鴨田遺跡	44	横町横穴墓群	64	舟川原遺跡	84	西屋敷遺跡	<b>1</b> 04	長廻古墳群
5	伊賀見古墳群	25	下倉横穴墓群	45	横町遺跡	65	君廻遺跡	85	石地蔵遺跡	105	小界古墳群
6	後原遺跡	26	香の木遺跡	<b>9</b> 46	宍道要害山城跡	66	女夫岩遺跡	<b>86</b>	竹ノ崎遺跡	106	萩田遺跡
7	奥遺跡	27	伝塩冶高貞首塚	47	宍道要害山古墳	67	OM 公園横穴墓	<b>9</b> 87	上野遺跡・上野   遺跡	107	灘平遺跡
8	萩古墳	28	カシャク古墳	48	榎廻遺跡	68	女夫岩西遺跡	<b>88</b>	城山城跡	108	佐々布森遺跡
<b>9</b>	萩遺跡	29	小昭廻遺跡	49	西代遺跡	69	矢頭遺跡	89	矢谷下遺跡	109	小佐々布古墳群
	熊江遺跡	30	後谷横穴墓	50	六反田遺跡	70	清水谷古墳群	90	敷手遺跡	110	鹿田遺跡
		31	元薬師遺跡	51	長廻古墳	71	水溜古墳群	<b>9</b> 1	上野城跡	111	北ノ廻遺跡
12	長畑遺跡	32	山の神谷横穴墓	52	篠原遺跡	72	女ノ峠横穴墓	92	矢谷上遺跡	112	ソラ田遺跡
13	坪の内古墳	33	岩穴口横穴墓	53	才横穴墓群	<b>0</b> 73	金山五輪塔群	<b>9</b> 3	上野    遺跡	113	野添遺跡
	犬石・猪石	34	打越遺跡	54	向原遺跡	<b>-</b> 74	金山要害山城跡	<b>9</b> 4	佐々布要害山城跡	114	御崎谷遺跡
	坪の内遺跡	35	深坪遺跡	55	才古墳	75	加茂分遺跡	<b>9</b> 5	平田遺跡	115	センガ遺跡
	沓形遺跡	36	小宮田遺跡	56	佐賀利遺跡	<b>o</b> 76	掛屋山城跡	<b>9</b> 6	大森経塚	116	近世山陰道
	白石大谷 遺跡	37	庄遺跡	57	外垣内遺跡	77	佐々布下古墳群	<b>9</b> 7	普門院跡	117	宍道尾道街道
	イナエソ遺跡	38	向野原遺跡	58	原田遺跡	<b>9</b> 78	海部城跡	98	岩穴畑遺跡		
	白石大谷Ⅱ遺跡	39	下野原遺跡	<b>●</b> 59	野津原  遺跡	79	観音寺横穴墓	99	鋤崎遺跡		
20	椎山遺跡	<b>9</b> 40	能登堀遺跡	<b>6</b> 0	山守免遺跡	<b>80</b>	舞屋城跡	100	鋤崎古墳群		

## 第3章 調査の成果

### 第1節 調査の概要と基本層序

#### 1. 調査の概要

#### 試掘調査(第5図)

宍道複合施設への進入路となる開発範囲内で、T-1 から T-5 の 5 か所の試掘調査を行い、その結果に基づき調査範囲を確定している。この試掘調査では、古墳時代から近世の遺物が出土しているが、近世以前のものは細片が多く、図化できないものが多い。中世の須恵器 (東播系) 鉢片や瓷器系陶器片も比較的多く認められたが、細片のため図化していない。試掘調査の詳細をここで述べることは省略するが、ここでは図化できた年代を示す特徴的な遺物について紹介したい。

#### 試掘調査出土遺物(第6図)

6-1 と 6-2 は T-2 出土遺物である。6-1 は古墳時代中期以降の土師器甕である。6-2 は江戸時代後期の肥前磁器の広東碗で、九陶V期にあたる。6-3 と 6-4 は T-3 出土遺物で、 6-3 は古墳時代中期の土師器高坏である。6-4 は古墳時代後期の須恵器高坏である。6-5 は T-4 出土遺物で、古墳時代後期から古代にかけての土師器甕である。6-6 は T-5 出土遺物の石鉢で凝灰岩質砂岩製である。内外面に被熱痕があり、金属の精錬に使用された可能性も考えられる。

#### 調査の方法(第5図)



第5図 調査範囲と開発範囲図 (S=1:1,000)

試掘調査の結果から、地盤が砂地であり、本調査では当初より湧水による調査区の崩落が懸念されていたため、ある程度の範囲を調査、記録し、埋め戻してから次の範囲を調査する方法をとった。調査区を1区と2区に分け、1区の東から任意で1~8SPまでを設定し、1SPから調査を開始した。1区の調査後、2区の西端から1~8SPまで設定し、1SPから調査を開始した。2区の調査では、比較的高い位置からの湧水があり、調査地両側に民家が存在していることもあり、2区では遺構の検出を断念し、土層の確認と遺物の採取を行った。

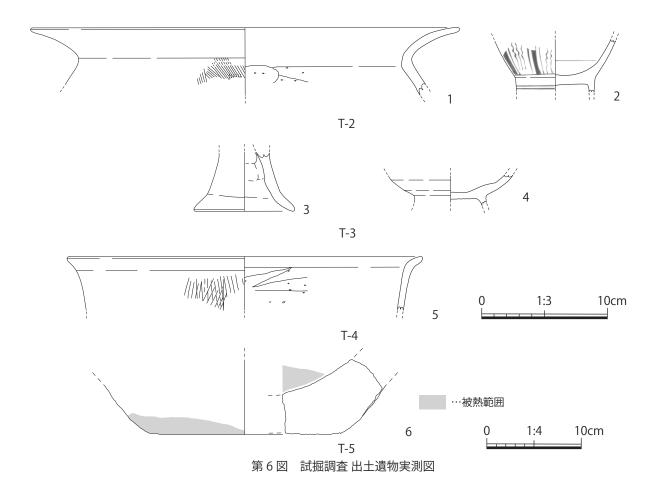
#### 2. 基本層序(第7、8図)

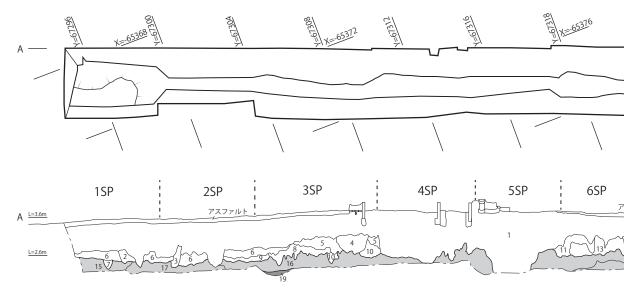
調査区の現地表面の標高は、 $1 \boxtimes 1 \text{ SP}$  が約 3.5 m、西に向かってやや高くなり、 $2 \boxtimes 5 \text{ SP}$  が約 3.7 m である。調査区西端にあたる  $2 \boxtimes 1 \text{ SP}$  ではまた約 3.5 m と低くなっている。

現地表面から約 1m ほど下までは、近現代のかく乱層があり、それを取り除くと古墳時代から近世 にかけての遺物を含む土層の堆積を確認している。この土層の上面では、遺構の検出はできていない。

この土層の下で、弥生時代中期から中世にかけての遺物包含層が認められ、この包含層上面で遺構を検出している。これを第1面と称して調査を行った。1区では遺構をいくつか確認できたが、2区の1SPで第1面の落ち込みを検出したものの、湧水のため、それ以上の確認はできていない。

第1面を形成する遺物包含層の下層は、遺物を含まない黄褐色砂層あるいは灰白砂層となっており、 佐々布川、小川に由来する自然堆積層と考えられる。以下、この自然堆積層の上面を自然面として、 最下層である自然面から説明をしていく。

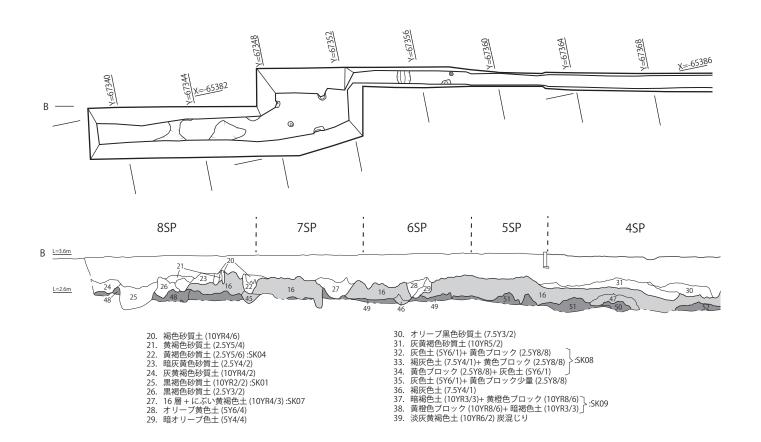




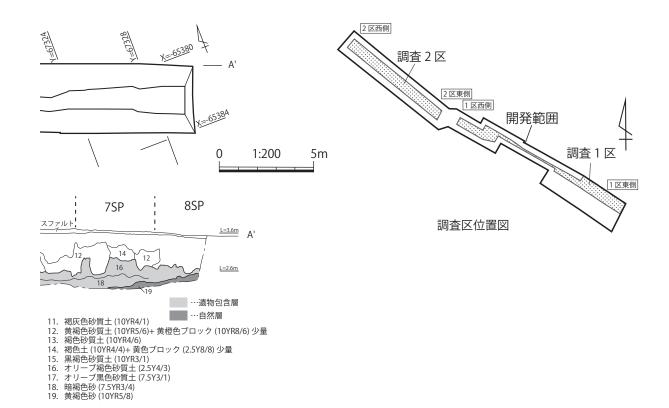
- 1. かく乱層 2. 褐灰色土 (7.5Y4/1) 3. 暗灰黄色土 (2.5Y4/2)+ 黄色ブロック (2.5Y8/6) 礫混じり 4. 黒褐色砂質土 (7.5YR3/1)+ 黄色ブロック (2.5Y7/8) 拳大礫混じり 5. 明黄褐色土 (2.5Y7/6) 炭、焼土混じり

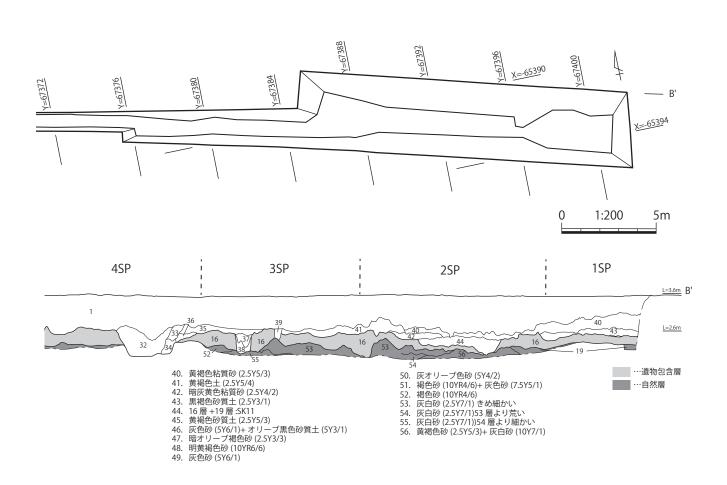
- 6. オリーブ黒色砂質土 (5Y2/1) 7. 黒褐色砂質土 (10YR3/1) 8. 黄褐色土 (2.5Y5/3)+ 黄色ブロック (2.5Y7/8) 炭、焼土混じり 9. 黄色ブロック土 (2.5Y8/8) 10. 暗オリーブ褐色土 (2.5Y3/5)+ 明黄褐色土 (2.5Y6/6)

#### 第7図 調査2区 平面・断面図 (\*断面図は縦S=1/100、横S=1/200)



第8回 調査1区 平面・断面図 (\*断面図は縦S=1/100、横S=1/200)





#### 第2節 自然面(第7、8図)

調査範囲の西側にあたる 2 区では、湧水のため、部分的にしか自然堆積層を確認することができていない。最も西側にあたる 2 SP で標高約 2.1 m、東端にあたる 8 SP で標高約 2.1 ~ 2.5 m と東に向かって標高が高くなっている。 2 区では自然面上面での遺構の検出はできていない。調査範囲の東側にあたる 1 区では、全体的に自然堆積層を確認できている。最東端である 1 SP で標高約 2.3 m、最も標高が高くなるのは 1 区西側にあたる 7 SP で標高約 2.7 m である。さらに西側の 8 SP では標高約 2.6 m を測る。 1 区の自然面では、いくつかの土坑、ピットなどを検出しているが、遺物を含むものはなく、土層の堆積状況から、上層からの遺構の掘り残しである可能性が高い。

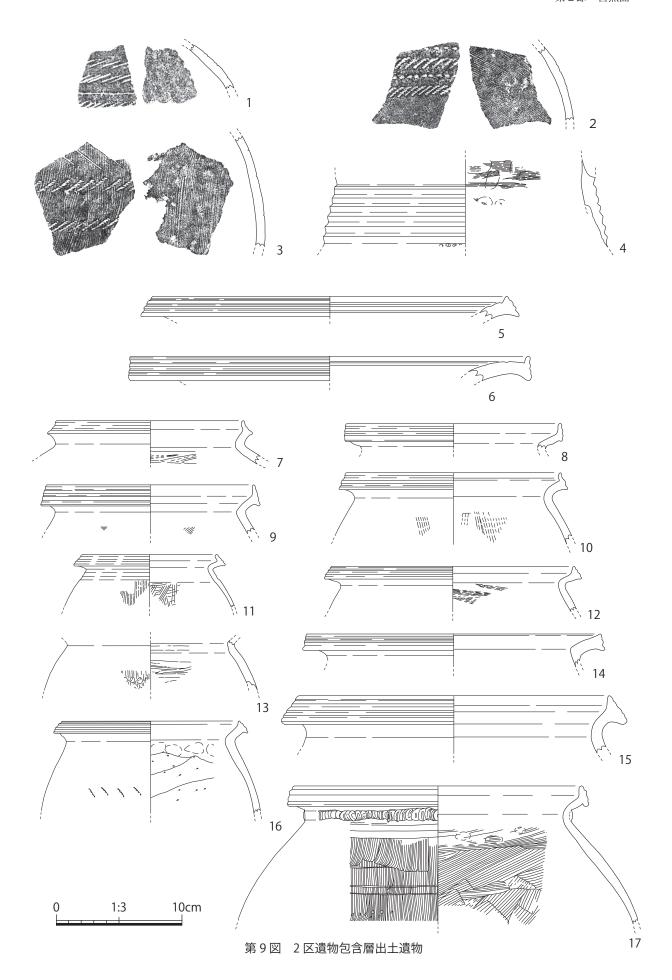
調査1区、2区を通してみると、1区7SPを中心に東西に自然面の標高が下がっており、前章第1節のとおり、1区7SPから東側がラグーンの縁辺、西側が宍道湖の縁辺を示すものと考えられる。

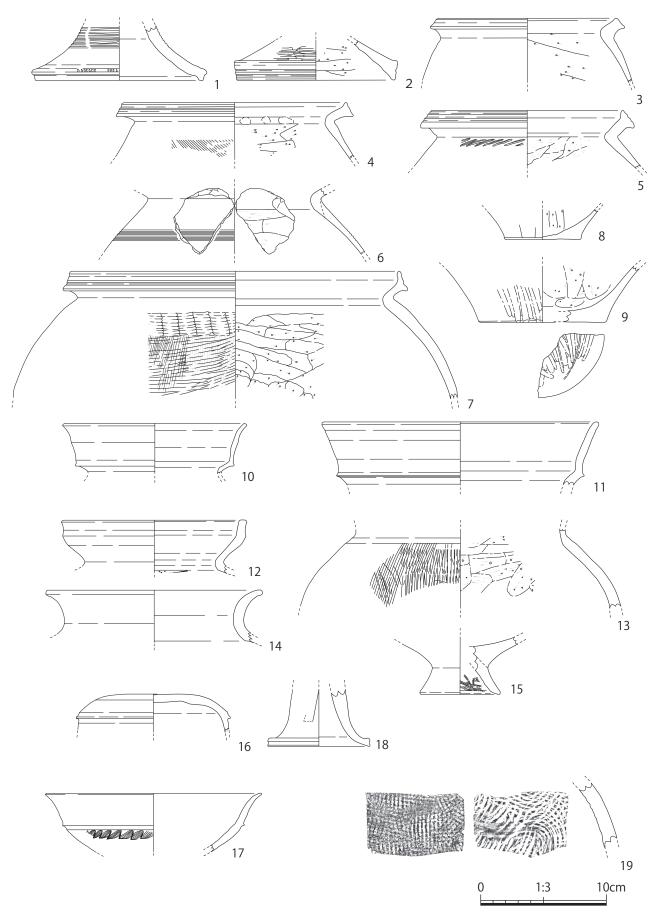
自然面上層に弥生時代中期から中世にかけての遺物包含層が堆積しており、土壌分析の結果、この 堆積層が自然面上に堆積した古土壌と判明している。中世の遺物が、遺物包含層の比較的下層からも 出土するため、この古土壌が自然にこの場所で堆積したものとは断言はできない。

#### **2 区遺物包含層出土遺物** (第 $9 \sim 13 \boxtimes$ )

第9図は弥生中期後葉の壷、甕で、松本IV様式にあたるものである。9-1~3は広口壷の肩部あるいは胴部と思われる。9-1は外面に貝殻原体による斜線文を上下に2列、その下に1条の沈線、さらにその下も斜線文を施す。内面はハケ調整の後ナデている。9-2は外面ハケ目調整の後、上部から刺突文、ハケ目原体による斜線文を施す。内面はハケ目調整で仕上げている。9-3は外面ハケ目調整の後、上部からへラによるおそらく綾杉文が施されたと思われる。その下部はハケ目原体による斜線文が間をあけて2列に施される。内面はハケ目調整で仕上げられる。9-4は広口壷の頚部で、5条の凹線文が施される。9-5~6は広口壷の口縁部で、口縁端部に数条の凹線文が施され、口縁内部にも凹線文が施されている。9-7~17は甕で、いずれも口縁端部に数条の凹線文、内面頚部下部にハケ目が残るものが多い。9-13は外面胴部付近に円形の刺突文が残る。9-16は外面胴部に二枚貝原体による列点文が施される。9-17は頚部外面に指頭圧痕文帯が施され、胴部は縦方向のハケ目調整がされた後、3条の沈線、さらにその下に刺突文が施される。内面は頚部やや下側から斜め方向のハケ目が良く残る。

第 10 図は弥生中期から後期、古墳時代にかけての土器、須恵器である。10-1 は弥生中期後葉の高坏の脚部で、松本IV様式にあたる。10-2 は弥生後期前葉の高坏の脚部で、松本V様式にあたる。脚端部に凹線文が施される。10-3 ~ 7 は弥生後期前葉の甕である。松本V様式にあたる。10-8、9 は弥生土器甕の底部である。外面に縦方向のヘラミガキが施される。10-10、11 は複合口縁をもつ弥生時代後期後葉の甕である。松本V様式で、10-10 は草田編年 4 あるいは 5 期にあたるもの、10-11 は草田編年 3 あるいは 4 期にあたると思われる。10-12 は古墳中期前半の土師器甕で、松山編年ⅡあるいはⅢ期のものである。10-13 も口縁部が欠損しているが、胎土やハケ目の様子から古墳時代中期の土師器甕で良いと思われる。10-14 は単純口縁をもつ古墳時代中期の土師器甕である。10-15 は古墳

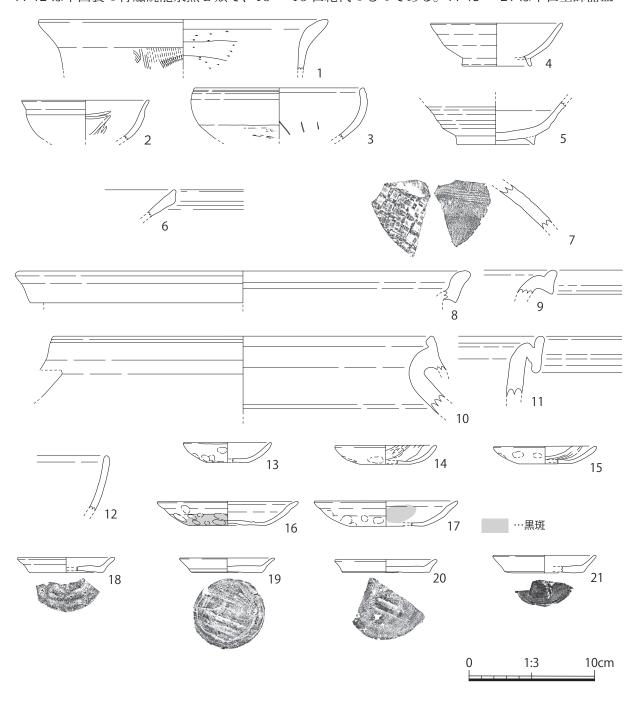




第10図 2区遺物包含層出土遺物

時代の製塩土器と思われる。10-16 は須恵器の蓋坏の蓋で、出雲 1 期の古墳時代中期のものである。 10-17 は須恵器で無蓋高坏の坏部である。出雲  $1\sim2$  期の古墳時代中期のものである。10-18 は須恵器の高坏の脚部である。出雲  $4\sim6$  期で古墳時代後期のものである。10-19 は須恵器の甕である。

第 11 図は古墳時代から中世にかけての土器、須恵器、陶磁器である。11-1 は古墳時代末から奈良時代にかけての土師器甕である。11-2、3 は古代の土師器坏と思われる。11-4、5 は古代から中世にかけての高台付の坏あるいは碗である。11-6 は東播系の中世須恵器である。11-7 は中世須恵器の甕である。11-8~11 は瓷器系陶器の甕である。13 世紀前半から 15 世紀にかけてのものである。11-12 は中国製の青磁碗龍泉窯 E 類で、15~ 16 世紀代のものである。11-13~21 は中世土師器皿



第11図 2区遺物包含層出土遺物

である。 $11-14 \sim 18$  は手づくねの皿、 $11-19 \sim 21$  はロクロ成形の皿である。 $11-19 \sim 20$  は外面底部 に回転糸切痕の上に何らかの工具痕が残るものがある。

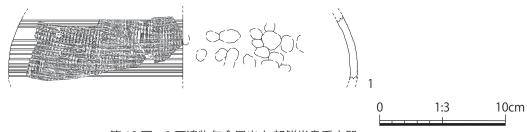
第 12 図は朝鮮半島系土器の壷の胴部である。外面は格子状タタキの上から、横方向の沈線を施し、内面は当て具の痕跡を丁寧にナデ消している。原三国後半期かもしくは三国時代初頭のものと考えられる。弥生後期から古墳前期初頭頃にあたる。

第 13 図は金属製品である。13-1 は帯金具であろうか。13-2、3 は鉄釘である。

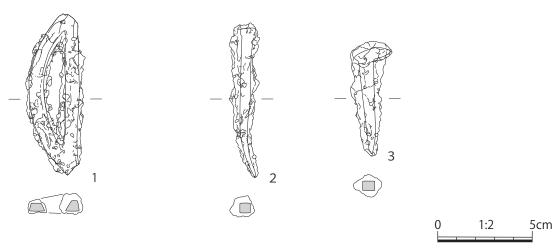
### **1 区遺物包含層出土遺物** (第 14 ~ 18 図)

第 14 図は弥生前期から弥生中期の壷である。14-1 は弥生前期の壷で、松本 I 様式にあたる。弥生前期でも中葉以降のものと思われる。外面胴部上半は上下に配された 2 条の沈線の間を羽状文で埋めるように施文されている。外面胴部下半は横方向のヘラミガキが施され、底部に近くになる部分は縦方向のヘラミガキが認められる。内面はハケ調整の後、ナデている。14-2、3 は弥生中期中葉から後葉の壷で、松本ⅢからⅣ様式のものと思われる。14-4~7 は弥生中期後葉の鉢あるいは壷で、松本Ⅳ様式にあたる。14-4 は外面を目の粗い原体でハケ調整し、小さい原体で押し引きするように沈線を 2 条施すものである。14-5~7 は比較的器厚が薄く、ほかの弥生中期土器に比べると焼成も甘く、やや赤みを帯びたものである。14-8~ 17 は弥生中期後葉の広口壷で、松本Ⅳ様式にあたる。

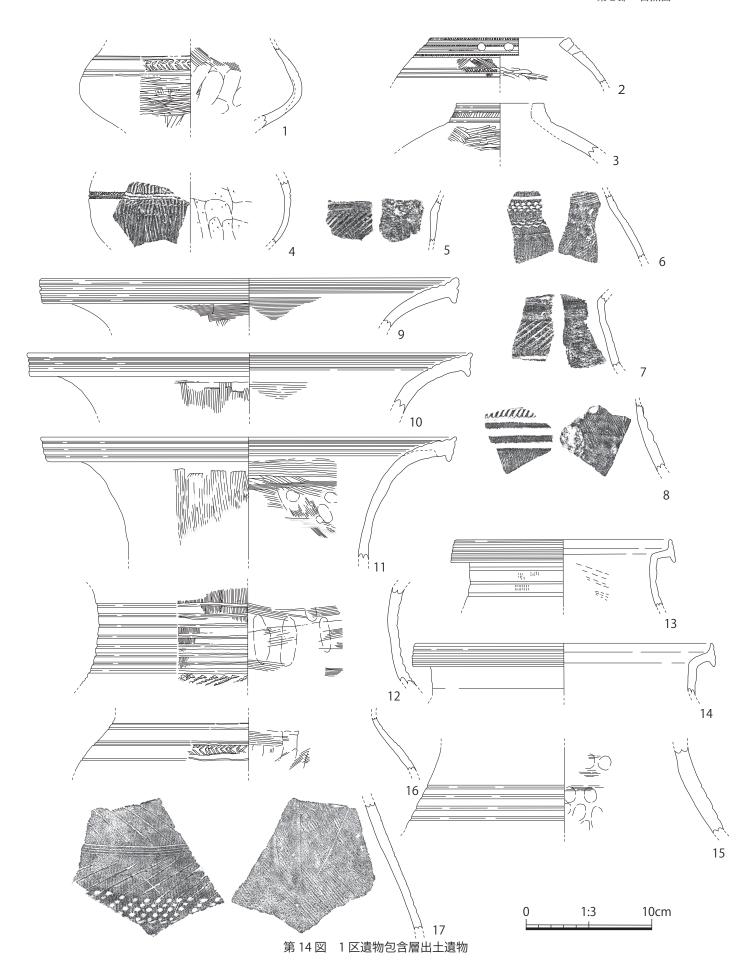
第 15 図は弥生中期の壷、甕である。15-2 は塩町式系の壷あるいは甕で、外面は沈線文との間に刻目が施される。弥生中期後葉にあたる。このほかに掲載していないが、もう 1 点出土している。そのほかも松本IV様式で、弥生中期後葉のものである。15-16 は頚部外面の指頭圧痕文帯が欠損してい

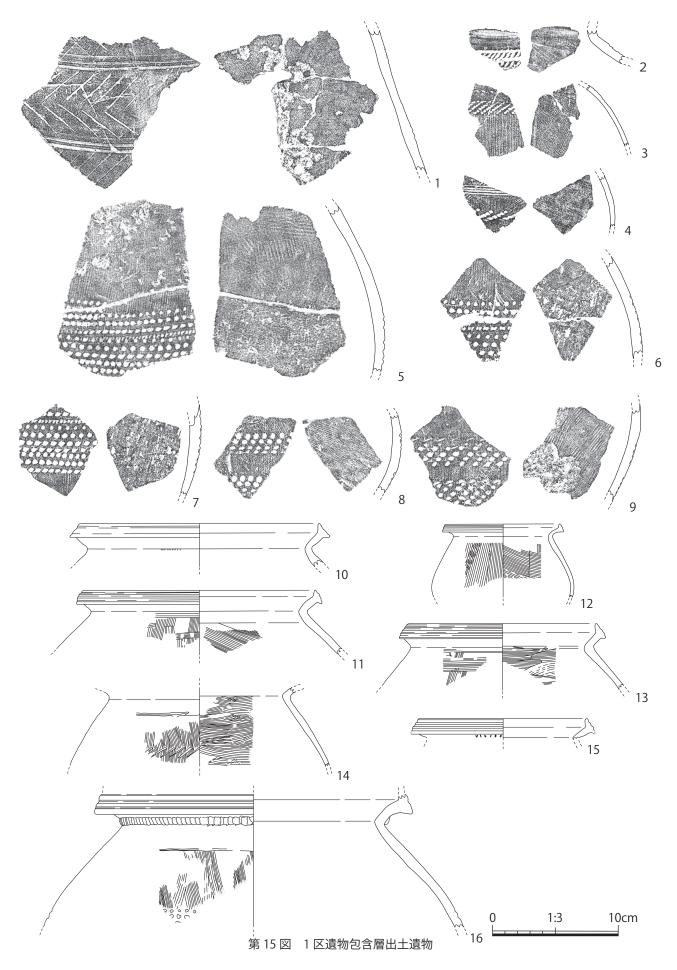


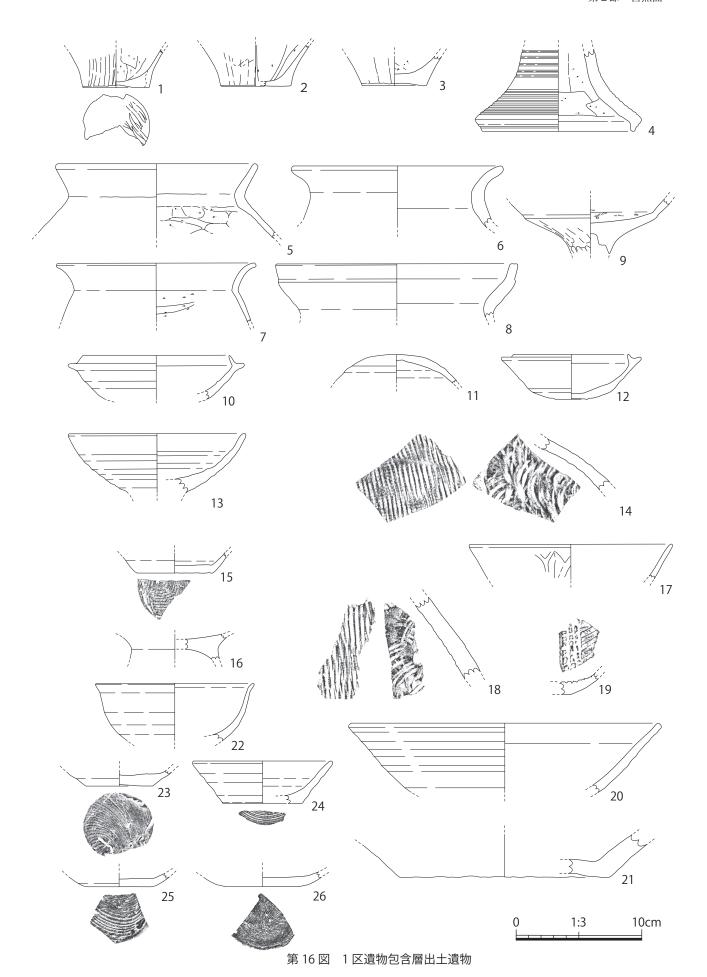
第12図 2区遺物包含層出土朝鮮半島系土器



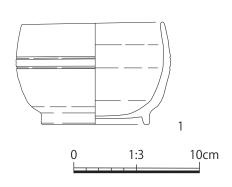
第13図 2区遺物包含層出土金属製品

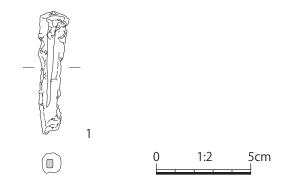






17





第 17 図 1 区遺物包含層出土 朝鮮半島系土器

第18図 1区遺物包含層出土金属製品

る。

第16図は弥生時代から中世にかけての遺物である。16-1~3は弥生土器の底部で、外面にヘラミガキが残る。16-4は弥生中期後葉の高坏で、松本IV様式にあたる。脚部外面に多数の沈線が施される。16-5~16-8は古墳中期の土師器甕である。16-8のみ複合口縁が形骸化したもので、松山編年 II~III期にあたる。そのほかは、同時期の単純口縁をもつものである。16-9は古墳中期の土師器高坏である。16-10~14は古墳時代の須恵器である。16-5は須恵器の無高台坏で、国府編年第6型式9世紀中葉から後葉のものである。16-10は蓋坏の身で出雲5あるいは6期、16-11と16-12は蓋坏の蓋と身で出雲6期、16-13は無蓋高坏で出雲5あるいは6期にあたるものである。16-10~13は7世紀代におさまるものであろう。16-16は古代の足高高台付土師器の皿である。国府第7あるいは第8型式で、10世紀から11世紀前半のものである。16-17は中国製の青磁碗である。龍泉窯I-5類で13世紀前半のものである。16-18は中世須恵器の甕である。16-19は古瀬戸のおろし皿で、14世紀後半~15世紀にかけてのものである。16-20は瓷器系陶器の直縁大皿で15世紀代のものと考えられる。16-21は瓷器系陶器の甕底部である。16-22~26は中世土師器の坏または皿である。すべて底部を回転糸切りしたものである。16-22は中世前半、そのほかは中世後半にあたるものと思われる。

第 17 図は朝鮮半島系の高台付の碗である。焼成は須恵質でかなり焼きしまっており、体部外面に 2 本の沈線が巡らされる。6 世紀末から 7 世紀初頭の百済土器と考えられる。

第18図は鉄釘である。 錆による腐食のため、身がかなりやせてしまっている。

### 第3節 第1面(第19図)

前節 (第1節2項基本層序)で述べたとおり、弥生時代中期から中世にかけての遺物包含層上面で遺構を検出しており、これを第1面と称して調査を行った。1面の検出標高は、1区5~8SPと2区8SPで約3.0mと高くなっており、ここから調査区東端の1区1SPでは標高約2.5m、西端にあたる2区1SPでも標高約2.5mを測る。このことから、第1面の形成層である遺物包含層が、自然堆積層の傾斜に沿って東西に向かって下がっていることがわかる。

調査区西側にあたる2区では、1SPで1面の落ち込みを一部で確認したものの、湧水が激しく崩落の恐れが発生したため、落ち込みの底面、範囲などを確認することができなかった。2区ではこれより東側すべての範囲において、1面の精査を断念している。1区では4SPと5SPにおいて、調査範囲が狭く遺構の検出が不可能であったものの、それ以外の範囲で遺構を検出することができた。

遺構は遺物を伴うものがあるものの、細片のため図示できるものが少ない。

以下、図示できる遺物を伴う遺構について紹介していき、そのほかの遺構については遺構法量表 (表 1、2) を参照いただきたい。

また、1面と近代以降のかく乱層との間に、弥生時代から近世の遺物包含層があり、この包含層からの出土遺物を1面より上層出土遺物として掲載した。なお、この遺物包含層は近代のかく乱が激しく遺構は検出していない。

#### 1. 1区1面7·8SP 検出遺構(第20図)

#### SK01

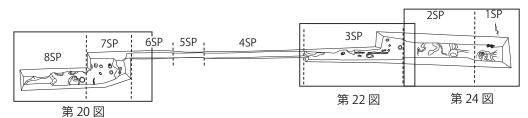
1区の最西端で検出した土坑で、南北端は調査区外に広がる。また、土坑の底面は湧水のため確認できなかった。この土坑を1面で検出したが、調査区北壁の土層観察により、1面よりも上層から掘り込まれていることがわかっている。検出面から確認できた深さは、20cm程度であるが、実際に掘り込まれた標高からは42cmを測る。この土坑からの出土遺物は、弥生時代から近世までのものであったが、ほとんどが細片である。

#### SK05

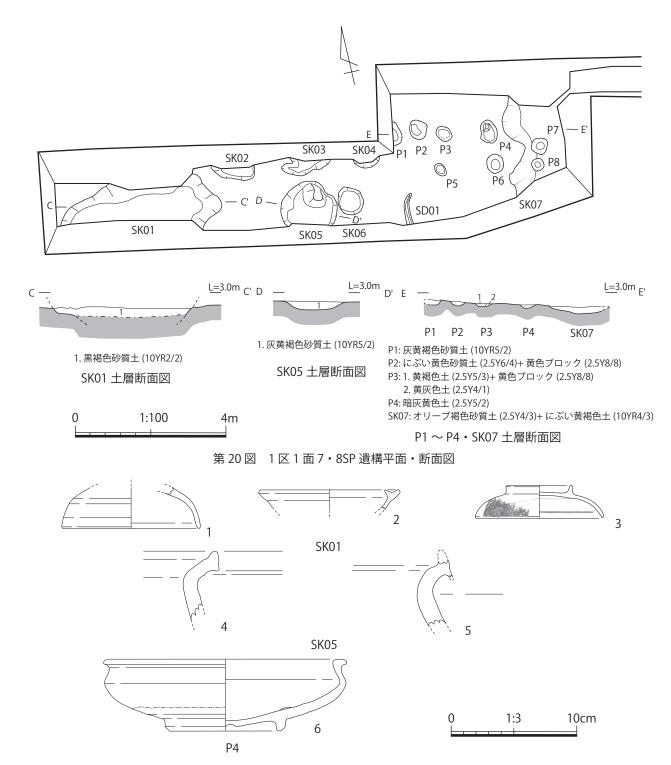
円形の土坑で、南端は調査区外に広がる。出土遺物は弥生時代から近代のものまで含まれる。

#### P1 ∼ P4 • SK07

P1 ~ P4 は東西に並ぶピットであるが、それぞれの間隔はまちまちで遺構に伴う遺物も弥生時代から近代のものまでと、年代に幅がある。土坑の埋土もそれぞれ異なる土質であることからも、同時期の遺構の可能性は低い。検出面からの深さも浅く、遺構の上面が削平を受けたと思われる。SK07



第19図 1区1面遺構配置図(S=1/500)



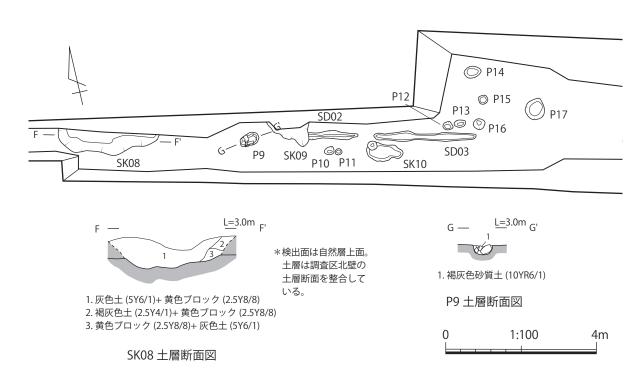
第21図 1区1面7·8SP 遺構出土遺物

は東にむかって落ち込む土坑であるが、西端にあたる土坑の立ち上がりは確認できなかった。

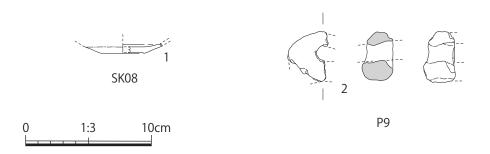
#### 2. 1区1面7·8SP 遺構出土遺物 (第21図)

**SK01 出土遺物** 21-1 は須恵器蓋坏の蓋、21-2 は須恵器蓋坏の身である。いずれも出雲  $5 \sim 6$  期の 7 世紀代にあたるものである。21-3 は肥前磁器の広東碗蓋である。九陶 V 期で 19 世紀代のものである。

#### SK05 出土遺物



第22図 1区1面3・4SP遺構平面・断面図



第23図 1区1面3·4SP 遺構出土遺物

21-4 と 5 は瓷器系陶器の甕で、いずれも 5 型式 13 世紀前半のものと思われる。<sup>1)</sup>

#### P4 出土遺物

21-6 は在地系陶器の布志名焼である。布志名焼の編年は確立されていないが、近世末あるいは近代にかかるものではないかと思われる。

#### 3. 1区1面3·4SP 検出遺構(第22図)

#### **SK08**

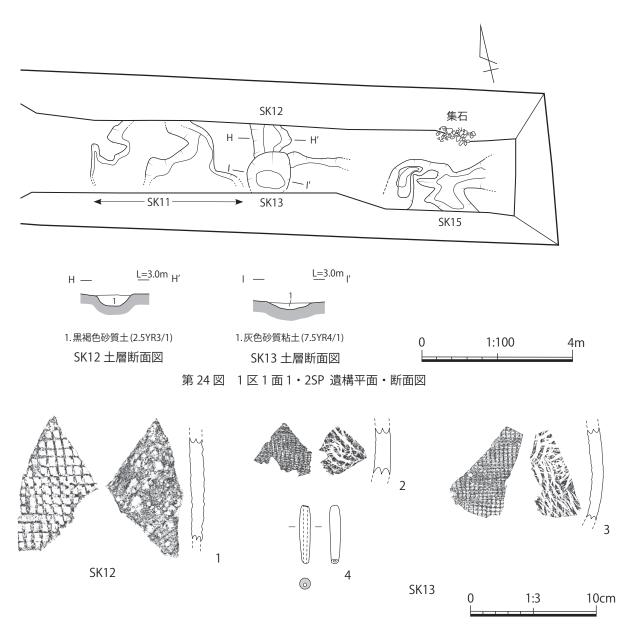
東西に長軸を持つ土坑で、北半分は調査区外に広がる。調査区北壁の土層観察から1面に伴う遺構と判断した。この土坑からは中世の遺物が出土している。

#### Р9

ピットのなかに拳大またはそれよりやや大きめの石を配する遺構で、ピットからは小形の鞴羽口が 出土している。鍛冶に関係する遺構の可能性が考えられる。

#### 4. 1区1面3·4SP 遺構出土遺物(第23図)

#### SK08 出土遺物



第25図 1区1面1·2SP遺構出土遺物

23-1 は中国製白磁皿のIV類にあたる 11 世紀末から 12 世紀後葉のものである。

## P9 出土遺物

23-2 は鞴羽口でやや小形のものである。

#### 5. 1 区 1 面 1 · 2SP 検出遺構 (第 24 図)

#### SK12

南北に長軸を持つ土坑で、南端は SK13 に切られており、北端は調査区外に広がる。遺構の形状から溝である可能性もある。遺構からは中世須恵器が出土している。

#### **SK13**

SK12 を切る形で存在する楕円形の土坑である。遺構からは弥生時代から中世の遺物が出土している。

このほか5~10cm程度の石が集積された遺構を検出しているが、遺物を伴わず、調査区の一部

表 1 1区 1面 7·8SP 遺構法量表

遺構名	上面長軸	上面短軸	深さ	出土遺物の時期	備考
SK01	430cm	150cm	42cm以上	弥生~近世	湧水の為、下端不明
SK02	114cm	25cm以上	26.2cm	中世	
SK03	130cm	40cm以上	14.6cm	弥生	
SK04	71cm	27cm	22.5cm	弥生	
SK05	149cm	113cm以上	23.8cm	弥生~近代	
SK06	80cm	66cm	28.2cm	弥生~中世	
SK07	270cm以上	106cm以上	41cm	弥生~中世	
P1	64cm	25cm以上	7cm		
P2	55cm	45cm	12.4cm	弥生	
P3	45cm	36cm	10.2cm	弥生~中世	
P4	63cm	42cm	12.6cm	弥生~近代	石あり
P5	39cm	28cm	4cm		
P6	52cm	44cm	11.5cm	中世	
P7	44cm	43cm	14.5cm		
P8	33cm	32cm	16cm		
SD01	85cm	18cm	3cm		

表 2 1区1面1~4SP 遺構法量表

遺構名	上面長軸	上面短軸	深さ	出土遺物の時期	備考
SK08	267cm	53cm	90cm		_
SK09	143cm	52cm以上	51.5cm	弥生~中世	
SK10	98cm	35cm	9.1cm	古墳	
SK11	360cm	170cm以上	29.3cm	弥生~古墳	
SK12	94cm以上	98cm	13.9cm		
SK13	108㎝以上	112cm	13.9cm	弥生~中世	
SK14	146㎝以上	104cm以上	19.9cm		
SK15	250cm以上	140cm以上	8.3cm		
P9	53cm	40cm	21cm		石あり
P10	27cm	21cm	14cm	古墳~中世	
P11	18cm	16cm	4.5cm		
P12	27cm	23cm	9.6cm		
P13	31cm	20cm	5.8cm		
P14	45cm	43cm	11.9cm	古墳	
P15	26cm	24cm	4.8cm	弥生	
P16	32cm	2.7cm	15.7cm		
P17	57cm	52cm	10.7cm		
SD02	134cm以上	14cm	9.2cm	弥生	
SD03	267cm	15cm	5.2cm	古墳	

分のみの検出であるため、遺構の性格は不明である。

#### 6. 1 区 1 面 1 · 2SP 遺構出土遺物 (第 25 図)

#### SK12 出土遺物

25-1 は中世須恵器の甕である。外面の格子タタキ目がやや大きめのものである。

#### SK13 出土遺物

25-2 と 3 は須恵器の甕で、古墳時代のものである。25-4 は土錘である。

#### 7. 2区1面より上層出土遺物 (第26~29図)

第 26 図は弥生時代から中世の遺物である。26-1 は弥生時代の高坏の脚部である。26-2 は古墳時代の須恵器甕である。26-3 は土師器の坏で、古代末ぐらいのものであろうか。26-4、5 は土師器の高

台付の坏あるいは皿である。古代末あるいは中世初頭のものであろうか。26-6 は中世須恵器の甕である。外面格子タタキが大きめのものである。26-7 は古瀬戸の瓶子である。外面はオリーブ黄色の釉薬がかかり、内面には釉薬はかけず、指頭圧痕が目立つ。26-8、9 は瓷器系陶器の甕である。 $^{5}$  26-9 は 7 型式 14 世紀前半のものと思われる。26-10 は瓷器系陶器の鉢である。 $^{1}$  -1 期 13 世紀末から 14 世紀初頭のものと考えられる。26-11 は備前焼の擂鉢である。乗岡編年中世  $^{5}$   $^{6}$  9 期 15 世紀後半~ 16 世紀末のものである。 $^{6}$  26-12~ 27 は中世土師器の坏あるいは皿である。26-12~ 14 は底部を回転糸切りで仕上げる中世前半の坏あるいは皿である。26-15~ 25 は底部を回転糸切りで仕上げる中世後半の坏または皿である。26-26、27 は手づくねの皿で、中世末ぐらいのものであろうか。

第 27 図は近世の遺物である。27-1、2 は肥前磁器碗である。九陶IV期 18 世紀代のものである。27-3 は在地系陶器碗である。緑釉の布志名焼で、19 世紀代のものと考えられる。27-4 は在地系陶器皿で、褐色のいわゆる来待釉がかかる布志名焼である。

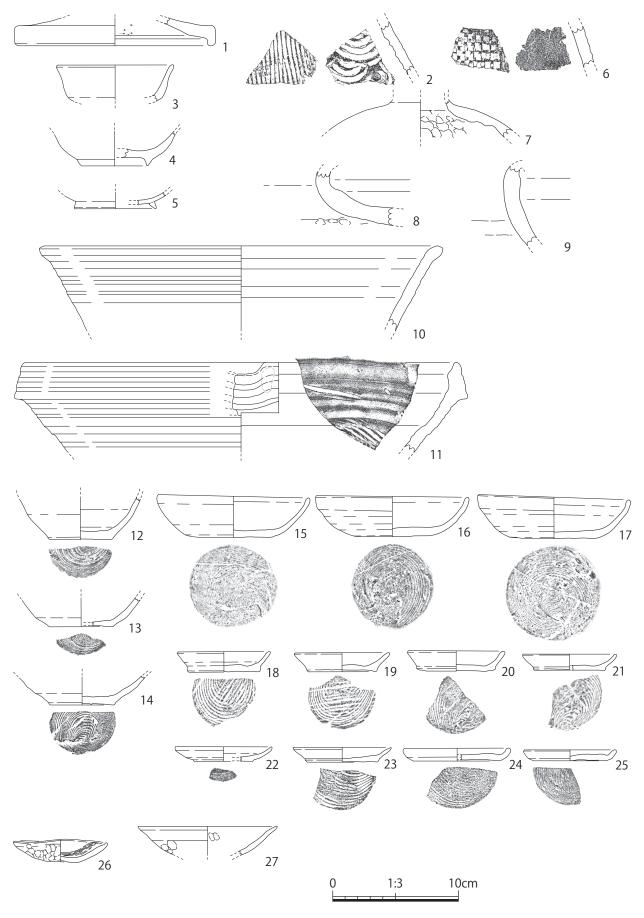
第28図はるつぼ状の金属製品である。X線撮影を行ったが、腐食のため金属成分がほぼ流れ出て しまっている。

第29図は花崗岩製の石製品で、1面のみ使用痕がみられる。調査区からは鞴羽口や細片のため掲載していないが、鉄滓も数点出土していることから、砥石のほか金床石の可能性も考えられる。

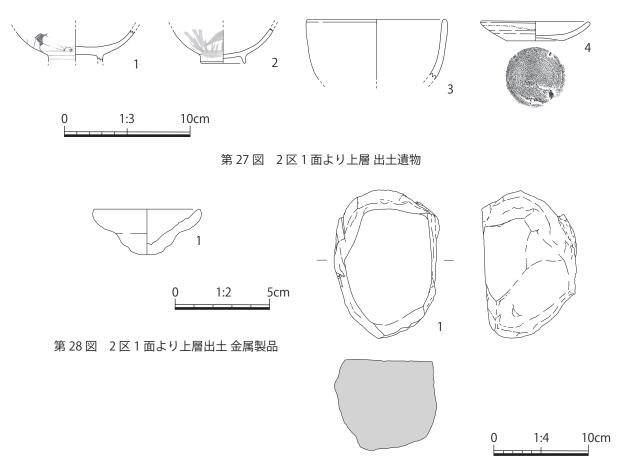
#### 8. 1区1面より上層出土遺物 (第30~31図)

第30図は弥生中期から近世の遺物である。30-1は弥生中期後葉の広口壷で、松本IV様式にあたる。 口縁部外面に5条の凹線を施し、外面頸部に縦方向のハケ目を施す。また、口縁部内面にも凹線が 施されており、頚部内面は横方向のハケ目で仕上げられている。30-2 は弥生中期の高坏で、外面に 4条の沈線が施される。内面は粘土のしぼり目が残る。30-3は古墳中期の土師器甕である。口縁部 欠損のため、複合口縁か単純口縁なのかは不明である。30-4 は古墳時代土師器の高坏である。外面 調整はナデで、内面は粘土のしぼり目が残る。30-5 は古墳時代土製支脚の一部と思われる。30-6、7 は古墳時代須恵器の蓋坏の蓋である。いずれも出雲6期7世紀代のものと思われる。30-8、9は古 墳時代須恵器の甕である。30-10、11 は土師器の足高高台付坏である。国府編年第7~8型式で10 世紀~11世紀前半にあたるものである。30-12は須恵器の蓋坏の蓋で、国府編年第5型式8世紀末 葉~9世紀前葉のものと思われる。30-13は須恵器蓋坏の坏で、国府編年第1型式7世紀後葉のも のである。30-14 は瓦質土器の火鉢で、外面頚部に菊花文のスタンプが施される。内面頚部から下部 は横方向のハケ目が施される。中世後半でも 16 世紀までのものと思われる。30-15、16 は中世土師 器の坏あるいは皿である。30-15 は底部径が小さいため、坏と思われる。坏であれば、14 世紀から 15世紀にかけてのものではないだろうか。30-16は 16-24の皿に類似しており、16世紀代ぐらいの ものであろうか。30-17 は在地系陶器の碗である。緑釉の布志名焼で 19 世紀代のものと思われる。 30-18 は肥前磁器の碗で、九陶IV期にあたる 18 世紀代のものである。30-19 は肥前磁器の広東碗で、 九陶 V 期にあたる 19世紀代のものである。

第 31 図は近世の古銭である。31-5 は腐食のため文字が消えてしまっているが、このほかはすべて 寛永通宝である。これらはまとまって出土しているため、31-5 も寛永通宝と考えられる。31-1 ~ 3



第26図 2区1面より上層出土遺物



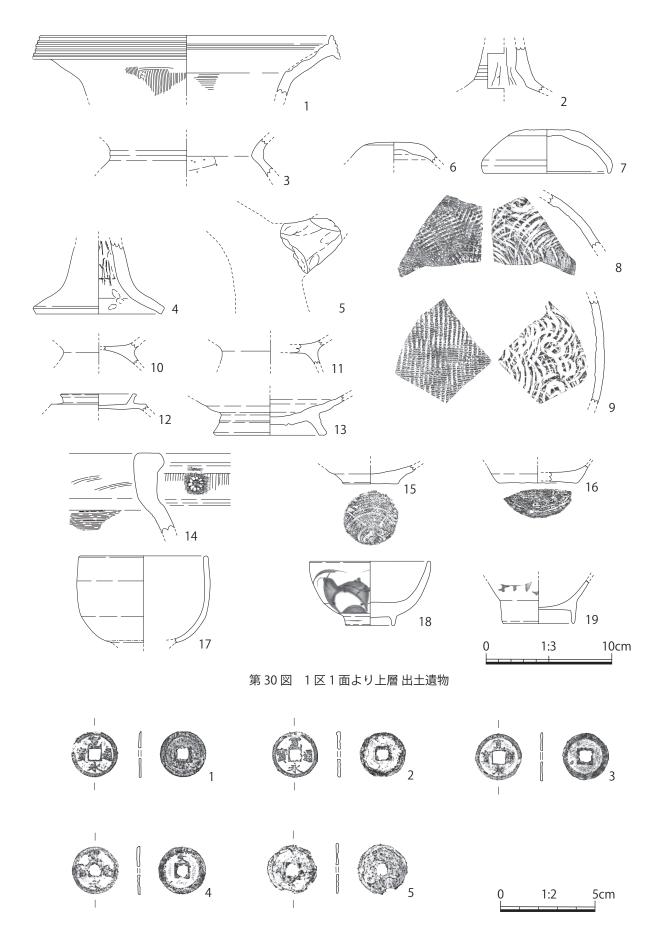
第29図 2区1面より上層出土石製品

はス貝宝で古寛永、31-4 は裏に「文」の字があるため、寛文 8(1668) 年以降に鋳造された新寛永のなかでも寛文 12(1672) 年までの限られた時期に鋳造されたものである。

- 註 1) 中野晴久 2011「常滑系陶器編年」『第 10 回山陰中世土器検討会資料集 山陰地方における越前・常滑系陶器』
- 註2)平郡達哉氏(島根大学)の御協力により、寺井誠氏(大阪歴史博物館)に鑑定していただいた。
- 註3) 弥生中期の広島県北部の三次市塩町遺跡から出土した装飾性の強い土器で、沈線文の間に刻目を施す文様を甕、鉢などの胴部上半に施すものを塩町式とすると伊藤実氏(広島県立歴史民俗資料館)によって定義づけられている。しかし、山陰地域で出土するものに、塩町式土器の特徴を有しつつ、胎土は在地のものと変わらないものもあり、必ずしも塩町式土器そのものが搬入されたわけではなく、塩町式土器の影響を受けて在地で作成されたものも含まれる可能性があるため、「塩町式系」と称している。

米田美江子 2002「第3章 第3節 搬入系遺物」『出雲市埋蔵文化財発掘調査報告書第12集 下古志遺跡 - 考察編 -』出雲市教育委員会増田浩太 2003「第3章 第5節 まとめ 塩町式土器について」『- 尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 II - 家の後 I 遺跡 垣ノ内遺跡』国土交通省中国整備局 島根県教育委員会

- 註4) 古瀬戸は以下の文献を参考にした。
  - 藤沢良祐 2007「古瀬戸製品編年表」『愛知県史 別編 窯業 2 』愛知県史編さん委員会
- 註 5) 木村孝一郎 2011「越前焼の編年的研究と生産地の動向」 『第 10 回山陰中世土器検討会資料集 山陰地方における越前・ 常滑系陶器』
- 註 6) 乗岡実 2008「備前焼の編年について」『第7回山陰中世土器検討会 山陰地方における備前焼』



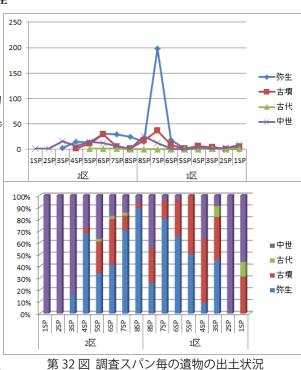
第31図 1区1面より上層出土古銭

## 第4章 総括

今回の調査では、遺構の存在は顕著ではないものの、弥生中期土器をはじめ多くの遺物が出土した。また、各調査区、各 SP(スパン)で自然堆積層の科学分析を行うことで、地形の変化を明らかにすることができた。以下では、この地形の変化と遺物の出土状況の関係を探ってみたい。さらに朝鮮半島系土器や塩町式系といった他地域の土器の流入について考察し総括としたい。

## 第1節 遺物の出土地点と砂州の発達過程

調査スパン毎の遺物包含層の遺物の出土状況を、グラフに表した(第32図 \*掲載・非掲載のものを含めた数量)。このグラフから、弥生時代の遺物が調査区中央部で多く(最多は1区7SP)、両端で少ない傾向にある事が分かる。古墳時代の遺物は調査区中央部の1区8SPと2区5SPでピークを成し、特に2区西部で少ない傾向にある。古代の遺物は他時期に比べ特に少ない。中世の遺物は古墳時代の遺物と同様な傾向を示すが、2区西部でも検出される。これらの事柄を前述の砂丘の発達過程、及び山陰地域での海岸砂丘の発達時期(豊島,1975)と重ねると、以下の事柄が明らかになる。1.弥生時代から古墳時代にかけては海水準が低く、宍道湖の水位も低かったと考えられる。このため砂州上面は乾燥し、人間活動が活発であった。



上: 実数 下: 累積百分率 両グラフとも調査スパンを西(左) から東(右) に配列

- 2. 古代には海水準が上昇し(平安海進)、宍道湖の水位も上昇したと考えられる。出土遺物も古代のものが極めて少量で、砂州の広範囲が沈水し、生活に適さなくなっていた。
- 3. 中世では古代に比べ海水準が低下し、宍道湖の水位も低下したと考えられる。水位低下に伴い第3図の砂州3相当の部分が広がり、新たにできた陸域に生活の場が広がった。

#### 第2節 森屋敷遺跡出土の塩町式系土器と朝鮮半島系土器

今回調査した森屋敷遺跡では、山陰地方の弥生中期土器に伴って、同時期の広島県北部を起源とする沈線文間に刻目を施す塩町式系の土器 (33-1) が出土した。また、時代が異なるものの原三国後半期もしくは三国時代初頭 (弥生後期~古墳前期初頭頃)の朝鮮半島系の壷 (33-2)、百済の 6 世紀末~7 世紀初頭の朝鮮半島系高台付の碗 (33-3) も出土している。

出雲地方において、遺跡内で山陰地方の土器とともに塩町式系土器、朝鮮半島系土器が出土した遺跡に限り示すと第34図のような分布を表わす。

②山持遺跡(出雲市)は斐伊川、神戸川によって形成された沖積平野の北辺に位置する縄文〜近世の集落遺跡である。35-1 は甕の頚部から胴部にかけて沈線文間に刻目を施す塩町式系土器である。35-2、3 は朝鮮半島系土器で、35-2 は弥生中期後葉〜後期中葉の楽浪土器である。35-3 は両耳付短頸壷で弥生後期でも草田 5 期併行とされている。森屋敷遺跡 33-2 と同様のものと思われる。山持遺跡では、このほか北部九州系、西部瀬戸内沿岸部系、吉備系といったさまざまな地域からの土器が多く出土している。

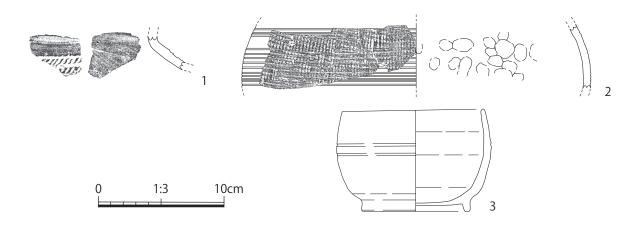
③青木遺跡(出雲市)も斐伊川、神戸川によって形成された沖積平野の北辺に位置する弥生〜鎌倉時代の墳墓、官衙関連、祭祀遺跡である。35-4 は塩町式系の甕である。35-5 は陶質の朝鮮系土器で壷の一部と推定されている。このほか九州から瀬戸内地方にかけての搬入土器も出土している。これらの土器は包含層からの出土であり、周辺の集落から廃棄されたものと推定されている。

④古志本郷遺跡 (出雲市) は神戸川左岸の自然堤防上及び後背湿地に位置する弥生〜近世の集落遺跡である。35-6 は塩町式系の甕である。35-7、8 は朝鮮半島系土器の両耳付短頸壷で、森屋敷遺跡33-2 と同様のものと思われる。また、北部九州系、畿内系の土器、さらに朝鮮半島由来の韓式三稜鏃も出土している。

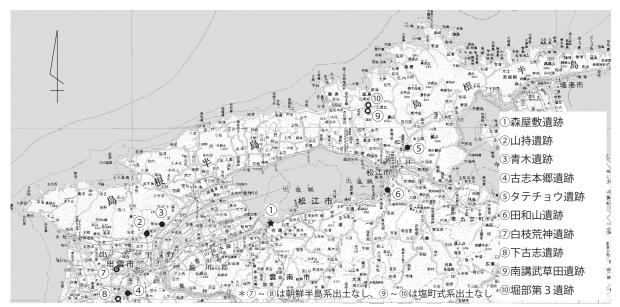
このほか出雲平野では⑦白枝荒神遺跡や⑧下古志遺跡などで、朝鮮半島系土器は見られないものの 塩町式系あるいは北部九州系や西瀬戸内沿岸部系の搬入土器が出土している。

⑤タテチョウ遺跡<sup>8</sup>(松江市)は松江市北東方向から大橋川に流れる朝酌川沿いにある弥生時代を中心とする縄文~中世の集落遺跡である。35-9は報告書では明記されていないものの沈線文間に刻目を持つ塩町式系の高坏の坏部分と考えられる。35-10は朝鮮半島系土器で、森屋敷遺跡33-2と同様の壷と思われる。上記の出雲市内の遺跡ほどの出土量ではないが、畿内系の土器の存在も報告されている。また、報告書で言及はされていないが、35-11は西部瀬戸内系の壷と思われる。

⑥田和山遺跡<sup>9</sup>(松江市)は宍道湖東岸の乃木段丘の一角を占める独立丘陵上に存在する弥生~平安時代にかけての集落遺跡である。35-12は報告書で明記されていないが、塩町式系の高坏と考えられ



第33図 森屋敷遺跡出土の塩町系土器と朝鮮半島系土器



第 34 図 塩町式系土器と朝鮮半島系土器出土遺跡の分布図 (S=1/50,000)

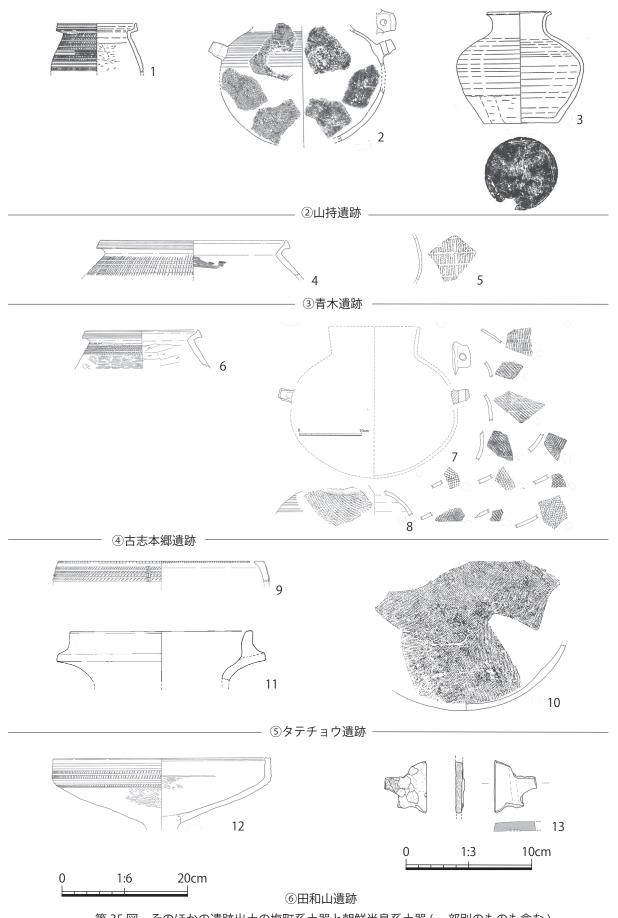
る。田和山遺跡では朝鮮半島系土器は出土していないものの、環濠内から出土した板状石製品 35-13 が楽浪の硯であることがわかっている。このように田和山遺跡でも少量ながら、他地域の土器が出土している。

このほか松江市内では、塩町式系土器は出土しないものの他地域との交流が覗える遺跡は、日本海 12) 沿岸に近い松江市鹿島町の⑨南講武草田遺跡、⑩堀部第3遺跡ぐらいであろうか。しかし、これらの 遺跡については、地理的に宍道湖を介してではなく、日本海沿岸部から流入した可能性が高い。

このように見ていくと、現在確認できるところでは、日本海側から搬入されたと考えられる朝鮮半島系土器が出土する遺跡の南限は④古志本郷遺跡で、広島県北部からもたらされたと考えられる塩町式系土器が出土する遺跡の北限は⑤タテチョウ遺跡である。このことから、塩町式系土器と朝鮮半島系土器の両方を有する①から⑥の遺跡は、日本海側からと中国山地側からの文化が合流する交通の要衝として発達した遺跡と言えるのではないだろうか。ゆえに、これらの遺跡が弥生時代、遺跡によっては縄文時代から中世あるいは近世に至るまで継続して利用されてきた事実は十分理解できる。

### 第3節 まとめ

今回調査をした森屋敷遺跡では、遺構の検出が困難であったが、弥生中期から近世にかけての遺物が出土し、そのなかでも弥生中期、中世の遺物が多く出土した。今回は明らかな中世の遺構は検出できていないものの、平成26年度に実施した宍道複合施設建設に伴う森屋敷遺跡の調査では、中世の遺物とともに屋敷の一部と考えられる掘立柱建物跡が検出されており、今回の調査地で多くの中世遺物が出土したことから、屋敷の存在を追認するデータが得られた。また、これまで森屋敷遺跡周辺で、弥生中期土器がこれほど多量に出土したのは、今回の森屋敷遺跡が初めてのことである。弥生中期土器には広島県北部から流入してきた塩町式系土器も含まれ、これより時期が下るものの朝鮮半島系土器が2点出土したことも弥生時代から古墳時代にかけて他地域との交流が伺える大きな成果を得た。



第35図 そのほかの遺跡出土の塩町系土器と朝鮮半島系土器(一部別のものも含む)

また、自然科学分析と遺物の組成の変化を捉まえる(第4章第1節)ことにより、中世以降、調査区2区から西側へ砂層が広がり宍道湖の南岸が北上していったことが明らかにできた。近世の宿場町はこの上に形成されたものである。

以上のように、森屋敷遺跡が古くから交通の要衝であったことが判明した。今後も周辺地域での類 似資料の増加を期待したい。

- 註 1) 塩町式土器の特徴を有しつつ、胎土は在地のものと変わらないものもあり、必ずしも塩町式土器そのものが搬入されたわけではなく、塩町式土器の影響を受けて在地で作成されたものも含まれる可能性があるため、「塩町式系」と称している。 増田浩太 2003「第3章第5節まとめ塩町式土器について」『- 尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ-家の後Ⅰ遺跡垣ノ内遺跡』国土交通省中国整備局島根県教育委員会
- 註 2) 東山信治 2012 「第 6 章 第 3 節 山持遺跡の非在地系土器について」 『山持遺跡 Vol.8(6,7 区) 国道 431 号道路 (東林木バイパス) 改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 10』 島根県教育委員会
- 註3)米田美江子1997「第3章7.一考察西瀬戸内系複合口縁壷」『- 市道松寄下小山線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書- 白枝荒神遺跡』出雲市教育委員会
- 註 4) 今岡一三 松尾充晶 2006「第 18 章 第 1 節 弥生・古墳時代の青木遺跡 I 国道 431 号道路 (東林木バイパス) 改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』島根県教育委員会
- 註 5) 守岡利栄「第6章3節三韓系土器について」「第7章まとめ」『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 X Ⅵ 古志本郷遺跡Ⅵ-K 区の調査-』国土交通省中国地方整備局出雲工事事務所 島根県教育委員会
- 註6)註3に同じ
- 註 7) 米田美江子 2002「第 3 章 第 3 節 搬入系遺物」『出雲市埋蔵文化財発掘調査報告書第 12 集 下古志遺跡 考察編 -』出雲市教育委員会
- 註 8) 柳浦俊一 1990「Ⅳ 第 4~6 層出土遺物の考古学的観察」『朝酌川河川改修工事に伴う タテチョウ遺跡発掘調査報告書 Ⅲ』 島根県土木部河川課 島根県教育委員会
- 註 9) 松江市教育委員会・財団法人松江市教育文化振興事業団 2005『松江市文化財調査報告書第 99 集 田和山遺跡群発掘調査報告書 1 田和山遺跡』
- 註 10) 岡崎雄二郎 2005「環濠内出土板状石製品について」松江市文化財調査報告書第 99 集 田和山遺跡群発掘調査報告書 1 田和山遺跡』
- 註 11) 鹿島町教育委員会 1992 『講武地区県営圃場整備事業発掘調査報告書 5 南講武草田遺跡』
- 註 12) 赤澤秀則 2000「墓と海と 島根の弥生文化の一側面 -」『神々の源流 出雲・石見・隠岐の弥生文化 -』大阪府立弥生文 化博物館
- 註 13) 松江市教育委員会 公益財団法人松江市スポーツ振興財団 2015『松江市文化財調査報告書第 162 集 宍道複合施設整備 事業に伴う発掘調査報告書 森屋敷遺跡』

#### 参考文献

1. について

豊島吉則 1975「山陰の海岸砂丘」『第四紀研究』 14(4), 221-230.

2. について

亀田修一 2001 「出雲・石見・隠岐の朝鮮系土器 - 古墳時代資料を中心に -」 『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 X Ⅱ 蟹谷遺跡 上沢Ⅲ遺跡 古志本郷遺跡Ⅲ』 国土交通省中国地方整備局出雲工事事務所

寺井 誠 2009「紀元前後から 7 世紀までの朝鮮半島系土器について」島根県埋文センター専門研修資料

### 表 3 遺物観察表

### 試掘調査出土遺物

-											
掲載	種類	器種	77	去量(cm)	)	調整・手法の特徴	色調	胎士	残存	備考	
番号	1224	107135	口径	底径	器高	16年 子及の10日			72.13	C., BM	
6-1	土師器	滩	(34.0)	-		外:ナデ、斜め方向のハケメ 内:ナデ、ヘラケズリ	内外:浅黄橙色 10YR8/4	1mm前後の石英・長石・雲 母を含む	□緑部~頸部 1/8	古墳中期	
6-2	磁器	広東碗	-	-	(4 1)	内:施釉	素地:灰白色 N 8/	密		肥前 九陶V期	
6-3	土師器	高坏	-	(8.0)			外:明赤褐色 2.5YR5/6 内:橙色 5YR7/6	0.5mm以下の雲母を少量含 む	脚部 1/5	古墳中期	
6-4	須恵器	高坏		-			内外:灰色 N5/	1mm以下の石英・長石をわずかに含む	底部~体部 1/2	古墳後期	
6-5	土師器	魏	(28.0)	-		外:ナデ、ハケメ 内:ナデ、ヘラケズリ	内外:浅黄橙色 10YR8/3	密。 1mm以下の石英・長 石を少量含む	口縁部~頸部 1/8以下	古墳後期~古代	
試掘調査出土 石製品											

掲載	種類	器種		法量(cm)		重量(g)	<b>催</b> 套	
番号	132.754	00130	口径	底径	器高	重星(g)	C., DAI	
6-6	石製品	石鉢	-	(20.2)	(7.9)	(1485)	内外面被熱	

6-6 2区	石製品	石鉢 層出土道	静析		-	(20.2)	(7.9)	485)		l'i	外面被熱
掲載			_	去量(cm)	)						
番号	種類	器種	口径			調整・手法の特徴	色調		胎土	残存	備考
9-1	弥生土器	壷	-	-	(3.6)	外.貝殻による沈線・斜線文	内外:暗灰黄色 2.5Y5/2		下の石英・長石・雲母	肩部	松本IV様式
						内:ハケ後ナデ 外:ハケメ、刺突文	外:暗灰黄色 2.5Y4/2	含む 0.5mm以	(下の石英・長石・雲	1/8以下 肩部	弥生中期後葉 外面に煤付着
9-2	弥生土器	壺	-	-	(5.7)	内:斜め方向のハケメ	内:浅黄色 2.5Y7/4~暗灰黄色 2.5	5Y4/2 母少量含	む	1/8以下	松本IV様式 弥生中期後葉
9-3	弥生土器	壷	-	-	(8.8)	外:ハケメ後綾杉文、斜線文 内:縦方向のハケメ	内外:明黄褐色 10YR7/6	2mm以り 含む	Fの石英・長石・雲母	1/8以下	松本IV様式 弥生中期後葉
9-4	弥生土器	壷	_		(6.9)	外:5条の凹線文、刺突文	内外:橙色 2.5YR6/6	1~3mm	の石英、0.5~3mm	頸部	松本IV様式
						内:横方向のハケメ、指頭圧痕 外:ナデ、3条の凹線文		の長石・5 密。0.5m	腰母含む m以下の石英・長石・	1/8以下 口縁部	弥生中期後葉 松本IV様式
9-5	弥生土器	広口壷	(28.0)	-	(1.8)	内:3条の凹線文	内外:にぶい黄橙色 10YR7/3	雲母少量	含む	1/8以下	弥生中期後葉
9-6	弥生土器	広口壷	(31.4)	-	(1.95)	外:3条の凹線文 内:3条の凹線文	内外:浅黄橙色 10YR8/3	密。0.5m 含む	m以下の石英・長石	□緑部 1/8	松本IV様式 弥生中期後葉
9-7	弥生土器	魏	(14.8)		(3.4)	外:ナデ、1条の凹線文	内外:浅黄橙色 10YR8/3	密。0.5m	m以下の石英・長石・	口縁部~肩部	松本IV様式
						内:ナデ、横・斜め方向のハケメ 外:ナデ、2条の凹線文		雲母少量 密 0.5mr	含む  n以下の石英・長石・	1/8 口縁部	弥生中期後葉 松本IV様式
9-8	弥生土器	號	(17.0)	-	(2.0)	内:ナデ	内外:橙色 7.5YR6/6	雲母少量	含む	1/8	弥生中期後葉
9-9	弥生土器	鉄	(16.4)	-	(3.9)	外:ナデ、縦方向のハケメ、3条の凹線文 内:ナデ、斜め方向のハケメ	内外:にぶい黄橙色 10YR6/4	密。0.5m 少量含む	m以下の長石・雲母	口緑部 1/8	松本IV様式 弥生中期後葉
9-10	弥生土器	魏	(17.0)		(5.7)	外:ナデ、縦方向のハケメ、2条の凹線文	内外:浅黄橙色 10YR8/3	密。0.5m	m以下の長石・雲母	口縁部~肩部	松本Ⅳ様式
						内:ナデ、縦方向のハケメ 外:横ナデ、縦方向のハケメ、3条の凹線文	外:橙色 7.5YR7/6	少量含む 1mm以 T	下の石英・長石・雲母	1/8 口縁部	弥生中期後葉 松本IV様式
9-11	弥生土器	號	(10.6)	-	(4.2)	内:横ナデ、縦・横方向のハケメ	内:橙色 5YR6/6	若干含む	•	1/6	弥生中期後葉
9-12	弥生土器	鉄	(17.2)	-	(3.6)	外:ナデ、3条の凹線文 内:ナデ、斜め方向のハケメ	内外:浅黄橙色 10YR8/3	答。0.5m	m以下の雲母微量含	口縁部~頸部 1/8	松本IV様式 弥生中期後葉
9-13	弥生土器	甕	_	_	(3.9)	外:横ナデ、縦方向のハケメ後刺突文	内外:にぶい黄橙色 10YR7/4	_	下の石英・長石若干含	1/8以下	松本IV様式
						内:横方向のヘラミガキ 外:ナデ、2条の凹線文		む 密。0.5m	m以下の石英・長石	口縁部~頸部	弥生中期後葉 松本IV様式
9-14	弥生土器	魏	(23.4)	-	(2.6)	内:ナデ	内外:にぶい黄橙色 10YR7/4	含む		1/8以下	弥生中期後葉
9-15	弥生土器	鉄	(24.6)	-	(4.6)	外:ナデ、4条の凹線文 内:ナデ	内外:浅黄橙色 10YR8/3	密。石英・	長石・雲母少量含む	□縁部〜頸部 1/8	松本IV様式 弥生中期後葉
9-16	弥生土器	鉄	(14.0)	-	(7.3)	外:ナデ、3条の凹線文、貝の先端を用いた列点文	外:暗灰黄色 2.5Y5/2		以下の石英・長石・雲	口縁部~体部	内外面に煤付着
			,		()	内:ナデ、ヘラケズリ、指頭圧痕 外:ハケメ後横ナデ、縦方向のハケメ、3条の沈線、	内:灰黄色 2.5Y7/2	母少量含		1/3	松本IV様式 弥生中期後葉
9-17	弥生土器	魏	(22.8)	-	(11.0)	刺突文、粘土帯貼付け後刻目を施す	外:浅黄橙色 10YR8/3 内:にぶい黄橙色 10YR6/3		以下の長石と砂粒、 (下の雲母含む	口縁部~胴部 1/4弱	内外面に煤付着 松本IV様式 弥生中期後葉
						内:横ナデ、ハケメ、指頭圧痕 外:2条の凹線文、刻目、8条の沈線				脚部	松本IV様式
10-1	弥生土器	高坏	-	(13.2)	(4.3)	内:風化の為調整不明	内外:にぶい黄橙色 10YR7/4	1mm以下	下の石英・長石含む	1/8	弥生中期後葉
10-2	弥生土器	高坏	-	(12.2)	(3.15)	外:ヘラミガキ、3条の凹線文 内:ヘラケズリ	内外:浅黄橙色 10YR8/3	答。1mm	以上の長石含む	脚部 1/8	松本V様式 弥生後期前葉
10-3	弥生土器	魏	(14.0)	_	(5.1)	外:ナデ、1条の凹線文	内外:にぶい橙色 7.5YR6/4		前後の長石、0.5mm	口縁部~肩部	内外面に煤付着
						内:ナデ、ヘラケズリ 外:ナデ、斜め方向のハケメ、2条の凹線文		以下の雲 密。1mm	母含む  以下の石英・長石・雲	1/5 口縁部~肩部	松本 V 様式 弥生後期前葉 松本 V 様式
10-4	弥生土器	無	(17.6)	-	(4.5)	内:ヘラケズリ、指頭圧痕	内外:にぶい黄橙色 10YR7/4	母含む		1/8	弥生後期前葉
10-5	弥生土器	甕	(15.2)	-	(4.6)	外:3条の凹線文、刺突文 内:ナデ、ヘラケズリ	内外:にぶい黄橙色 10YR7/4	0.5mm以 含む	(下の長石・雲母少量	□稼部~肩部 1/8	外面に煤付着 松本V様式 弥生後期前葉
10-6	弥生土器	甕		-	(5.2)	外:5条の櫛描き文	内外:にぶい黄橙色 10YR6/3		の石英・長石・雲母	頸部~体部	
10-7	弥生土器	甕	(26.0)		(10.1)	内:ヘラケズリ 外:ナデ、横方向のハケメ、縦ハケ後横ハケ、2条の凹線文	外:にぶい黄橙色 10YR7/3	若干含む 密。1mm	前後の石英・長石含	1/8以下 口縁部~肩部	弥生後期前葉 松本V様式
10-7	TYTE LOG	280	(20.0)	-	(10.1)	内:ナデ、横・縦方向のヘラケズリ 外:ヘラミガキ	内:にぶい黄橙色 10YR6/4	む	の石英・長石・雲母	1/8 底部~体部	弥生後期前葉
10-8	弥生土器	数	-	(6.0)	(2.4)	内:ヘラケズリ	内外:にぶい黄橙色 10YR7/3	含む	1917, K1 34	1/3	外面に煤付着
10-9	弥生土器	壷か甕	-	(9.8)	(4.5)	外:ヘラミガキ 内:ヘラケズリ	内外:淡黄色 2.5Y8/4	2mm以下	下の石英・長石含む	底部 1/5	
10.10	弥生土器	甕	(14.6)		(4.0)	内外ナデ	内外:にぶい黄橙色 10YR7/4	1mm以下	下の石英・長石若干含	口縁部	弥生後期後葉
10-10	71-L-100	260	(14.0)				FIFRESN MIEL TOTRIFF	む 1mmlソコ	下の石英・長石・雲母	1/8以下 口縁部	草田4~5期 弥生後期後葉
10-11	弥生土器	無	(21.8)	-	(5.0)	内外:ナデ	内外:にぶい黄橙色 10YR7/3	若干含む		1/8以下	草田3~4期
10-12	土師器	鉄	(14.4)	-	(4.2)	外:回転ナデ 内:回転ナデ、ヘラケズリ	外:黒色 10YR2/1 内:にぶい黄橙色 10YR6/4	1mm以下 む	下の石英・白色砂粒含	口緑部 1/6	複合口縁 古墳中期前半 松山Ⅱ又はⅢ期
10-13	土師器	甕			(6.2)	外:縦方向のハケメ	内外:にぶい黄橙色 10YR7/4		下の石英・長石含む	頸部~体部	古墳中期
						内:ヘラケズリ			前後の長石、0.5mm	1/5 口縁部~頸部	
10-14	土師器	無	(17.0)	-	(4.2)	内外:ナデ	内外:にぶい黄橙色 10YR7/4	以下の雲		1/8	古墳中期
10-15	土師器	製塩土器か	(6.2)	-	(4.5)	外・横ナデ 内・横ナデ、縦・横・斜め方向のハケメ	内外:橙色 5YR6/6	1mm以下	下の砂粒若干含む	□緑部 1/4	古墳
10-16	須恵器	蓋			(3.0)	外:ケズリ	内外:灰色 N4/		Fの長石わずかに含	1/3	古墳中期
						内:回転ナデ 外:ナデ、波状文		む		口縁部~体部	出雲 I 期(5c末) 低脚無蓋 古墳中期
10-17	須恵器	高坏	(17.0)	-	(4.65)	内:ナデ	内外:灰色 N6/	密		1/8	出雲1~2期(5c後葉~6c初頭)
10-18	須恵器	高坏	-	(9.0)	(4.5)	内外:ナデ	内外:灰色 N5/	答。1 mm	前後の長石微量含む	脚部 1/4弱	古墳後期 出雲4~6期か(6c末~7c代)
10-19	須恵器	被			(5.2)	外:格子タタキ	内外:灰色 N6/	1 mm L/T	の長石若干含む	1/8以下	古墳
						内:同心円タタキ 外:ナデ、縦・斜め方向のハケメ	外:浅黄橙色 10YR8/3		以下の石英・長石・雲		
11-1	土師器	無	(23.0)	-	(4.0)	内:ナデ、ヘラケズリ	内:にぶい橙色 7.5YR7/4	母少量含		1/8以下	古墳後期末~奈良
11-2	土師器	坏	(10.0)	-	(3.2)	外:ナデ 内:ナデ、ヘラミガキ	内外:灰白色 2.5Y7/1	1mm以下	下の長石少量含む	口縁部~胴部 1/4	内面に煤付着 奈良か 古代 都城のものに類似
11-3	土師器	無高台坏	(13.3)	-	(4.1)	外:回転ナデ、ヘラケズリ	内外:橙色 5YR7/8		下の石英・長石若干含	口縁部	古代(7c後葉~末か)
				(F. 1)		内:回転ナデ、放射状の暗文 外:回転ナデ、貼付高台		t		1/6	黒色土器碗または瀬戸内沿岸部の
11-4	土師器	高台付碗	(10.4)	(5.4)	3.4	内:回転ナデ	内外:浅黄橙色 7.5YR8/6	密	COTH ET SE	1/8以下	土師質土器碗 中世前半か
11-5	土師器	高台付坏	-	(6.0)	(3.4)	内外:回転ナデ	内外:浅黄橙色 10YR8/3	1mm以 l 若干含む	下の石英・長石・雲母	1/4~1/5	古代 国府第6型式(9c中葉~後葉)
11-6	須恵器	鉢	-	-	(2.2)	内外:ナデ	内外:灰色 N6/	2mm以下	下の長石わずかに含	口縁部	東播系
1						外格子タタキ		£ 0.5	エの見てみた	1/8以下	中世前半
11-7	須恵器	퓇	-	-	(3.5)	内:ハケメ後ナデ	内外:黄灰色 2.5Y6/1	U.5mml)	(下の長石含む	1/8以下	中世
11-8	陶器	鉄	(35.6)	-	(2.55)	内外:ナデ	外:暗赤褐色 2.5YR3/2 内:にぶい赤褐色 2.5YR4/3	密		口縁部 1/5	瓷器系 6a型式(13c中~後半)
11-9	陶器	甕	-	-	(1.9)	内外:ナデ	内外:褐色 7.5YR4/4	密		口縁部	瓷器系
L					ĹĹ			1		1/8以下	5型式(1220~1250)

		號	(30.0)	-	(6.3)	内外:ナデ	内外:暗褐色 7.5YR3/3	密。1mm以下の長石少量含む	口縁部~頸部 1/8以下	瓷器系 7~8型式(14c代)
11-11	陶器	甕	(38.4)	-	(4.8)	内外:ナデ	内外:暗赤褐色 2.5YR3/4~ にぶい赤褐色 5YR4/3	0.5mm以下の石英・長石含む	口縁部 1/8以下	瓷器系 8型式(1350~1400年)
11-12	青磁	直口碗		-	(4.35)	内外:施釉	内外:オリープ灰色 10Y5/2	密	口緑部~体部 1/8以下	龍泉窯 E類(15c中心~16cか)
11-13	土師器	m	(6.9)	(3.2)	1.6	外:指頭圧痕 内:ナデ	内外:浅黄橙色 10YR8/3	0.5mm程度の石英・長石少量 含む	1/4	
11-14	土師器	Ш	(8.0)	(4.0)	1.5	外:ナデ、指頭圧痕 内:ナデ、ナデ上げ、指頭圧痕	内外:浅黄橙色 7.5YR8/4	1mm以下の石英・長石少量含む	□縁部~底部 1/4	手づくね
11-15	土師器	Ш	(8.0)	(4.2)	1.4	外:ナデ、指頭圧痕 内:ナデ上げ	内外:浅黄橙色 7.5YR8/3	0.5mm以下の石英・長石少量 含む	□緑部~底部 1/4弱	手づくね
11-16	土師器	Ш	(11.1)	(6.0)	1.9	外:横ナデ、指頭圧痕 内:ナデ	内外:浅黄橙色 7.5YR8/4	1mm以下の石英・長石少量含む	1/2	外面に黒斑 手づくね
11-17	土師器	m	(11.3)	(5.7)	2.0	外:横ナデ、指頭圧痕 内:ナデ	内外:浅黄橙色 7.5YR8/4	0.5mm以下の石英・長石含む	1/5	内面に黒斑 手づくね
11-18	土師器	ш	(7.6)	(5.8)	1.2	内外:回転ナデ	外:灰白色 2.5Y8/2 内:にぶい黄褐色 2.5Y5/3	1mm以下の長石、わずかに雲 母含む	1/4	手づくね
11-19	土師器	m	(7.6)	5.4	1.15	外:糸切後ナデ 内:ナデ	内外:浅黄橙色 7.5YR8/4	密。0.5mm以下の雲母微量含む	底部のみ完形	
11-20	土師器	ш	(8.1)	(6.9)	1.05	外:糸切後ナデ 内:ナデ	内外:灰白色 10YR8/2	密。0.5mm以下の雲母少量含 む	口縁部~底部 1/4	内外面に煤付着
11-21	土師器	ш	(8.2)	(6.3)	1.4	外:糸切後ナデ 内:ナデ	内外:浅黄橙色 10YR8/4	<ol> <li>0.5mm以下の長石わずかに</li> <li>含む</li> </ol>	1/5	
12-1	朝鮮系	壷	-	-	(5.0)	外・格子タタキの後沈線を施す 摩耗の為、 沈線浅くなっている 3条・10条の沈線 内:丁寧なナデ仕上げ	内外:灰黄色 2.5Y7/2	0.5mm程度の石英若干含む 0.5mm以下の長石含む	1/8以下	弥生後期~古墳前期初頭頃

2区 遺物包含層出土 金属製品

掲載番号	種類	器種		法量(cm)		重量(g)	備考	
番号	任主共	101E	最大長	最大幅	厚さ	至重(9)	כי אוו	
13-1	金属製品	帯金具か	8.5	2.4	1.1	28.35		
13-2	金属製品	鉄釘	8.15	1.5	1.1	16.50		
13-3	金属製品	鉄釘	6.05	1.2	1.15	18.80		

1区 遺物包含層出土遺物

	遺物包含	/LI	_							
掲載 番号	種類	器種	口径	法量(cm) 底径		調整・手法の特徴	色調	胎土	残存	備考
14-1	弥生土器	壷	-	- 1	(6.4)	外縦・横方向のヘラミガキ、ヘラによる羽状文 内:斜め方向のハケメ、ハケメ後ナデ	外.浅黄橙色 10YR8/4~浅黄橙色 7.5YR8/6 内:褐灰色 10YR5/1	1mm程度の石英・長石、 0.5mm以下の雲母含む	胴部 1/4弱	松本 I 様式 弥生前期
14-2	弥生土器	無頸壷	(11.0)	-	(3.7)	外:ヘラによる鋸歯文、3条・6条の沈線 (沈線と沈線の間に刻目を施す) 内:ナデ、横方向のヘラミガキ、2条の凹線文	外:にぶい黄橙色 10YR7/4 内:灰黄褐色 10YR6/2	0.5mm以下の石英・長石・雲 母含む	口縁部 1/4	円孔2点 松本IV様式 弥生中期後葉
14-3	弥生土器	短頸壷	(7.0)	-	(3.3)	外:ナデ、斜め方向のヘラミガキ、刻目、1条・2条の沈線 内:ナデ	外:橙色 5YR6/6 内:淡黄色 2.5Y8/4	1mm以下の石英、0.5mm以下 の長石・雲母含む	口縁部~肩部 1/6	松本Ⅲ~Ⅳ様式 弥生中期
14-4	弥生土器	小形鉢か	-	-	(5.0)	外縦方向の粗い目のハケメ、原体を押し引きして 2条の凹線を施している 内:ケズリ後ナデ	外:褐灰色 7.5YR4/1~浅黄橙色 7.5YR8/6 内:灰黄褐色 10YR5/2	0.5mm以下の長石・雲母、石 英少量含む	1/8以下	松本IV様式 弥生中期後葉
14-5	弥生土器	壷か甕	-	-	(3.5)	外:2条の凹線文、ハケメ工具による斜線文 内:ナデか	外:橙色 5YR6/6~にぶい橙色 5YR7/4 内:橙色 2.5YR6/8	0.5mm程度の石英・長石含む	1/8以下	松本IV様式 弥生中期後葉
14-6	弥生土器	壷か甕	-	-	(5.1)	外外面全体に縦方向のハケメを施したのち文様が入れられている。1条の凹線、横3列の刺突文、横2列の鋸歯文内:斜めハケメ、斜めハケのちナデ	外:にぶい橙色 5YR7/4 内:橙色 2.5YR6/6	0.5mm以下の石英・長石含む	胴部 1/8以下	松本IV様式 弥生中期後葉
14-7	弥生土器	壷か鉢	-1	-	(5.8)	外:ナデ、ハケ工具による斜線文、横方向の沈線 内:横ハケのちナデ	外:淡橙色 5YR8/4 内:橙色 5YR7/6	0.5mm程度の石英・長石含む	1/8以下	松本IV様式 弥生中期後葉
14-8	弥生土器	壷		-	(5.0)	外:斜め縦方向のハケメ、刻目突帯、3条の横凹線 内:ナデ、斜め・縦方向のハケメ	外:浅黄色 2.5Y7/4 内:暗灰黄色 2.5Y4/2	0.5mm程度の石英・長石含む	頸部 1/8以下	松本IV様式 弥生中期後葉
14-9	弥生土器	広口壷	(33.0)	-	(4.9)	外・縦・横方向のハケメ、4条の凹線文 内・横方向のハケメ又は櫛描き直線文、5条の凹線文	内外:にぶい橙色 7.5YR6/4	密。1mm以下の長石・雲母含 む	口縁部~頸部 1/8以下	松本IV様式 弥生中期後葉
14-10	弥生土器	広口壷	(35.4)	-	(5.8)	外:横方向のハケメ後ナデ、縦方向のハケメ、4条の凹線文	内外:にぶい黄橙色 10YR7/3	1mm程度の石英、1mm以下	口縁部約	松本IV様式
14.11	弥生土器	長頸壷	(33.0)		(9.7)	内:横方向のハケメ後ナデ、6条の凹線文 外:横方向のナデ、縦方向のハケメ、3条の凹線	外:浅黄色 2.5Y7/4~黑褐色 2.5Y3/2	の長石、0.5mm以下の雲母含 1mm以下の石英・長石・雲母	1/4 口縁部~頸部	
			(33.0)	-		内:斜め・横方向のハケとナデ、5条の沈線文 外:全体に縦方向のハケメ後、8条の凹線文、6列の列点文	内:浅黄色 2.5Y7/4 内外:黄褐色 2.5Y5/3~浅黄橙色	含む 1mm以下の石英・長石・雲母	1/8 頸部	弥生中期後葉 松本IV様式
14-12	弥生土器	広口壷	-	-	(5.7)	内:横方向のハケメ後ナデ	10YR8/4	含む	1/8以下	弥生中期後葉
14-13	弥生土器	壷	(17.0)	-	(5.3)	外:ハケメ後ナデ、3条・5条の凹線文 内:ナデ、斜め方向のハケメ	内外:橙色 7.5YR7/6	1mm以下の長石多く含む 0.5mm以下の石英・雲母少量含む	□稼部~頸部 1/6	内外面に煤付着 松本IV様式 弥生中期後葉
14-14	弥生土器	壷	(23.4)	-	(4.2)	外:ナデか、4条の凹線文 内・ナデ	内外:橙色 2.5YR6/6	1mm以下の石英・長石・雲母 含む	1/8以下	松本IV様式 弥生中期後葉
14.15	弥牛十果	広口壷			(6.8)	外:4条の沈線	内外:浅黄橙色 10YR8/3	2mm以下の石英・長石含む	1/8以下	松本IV様式
	37 <u>- 11 - 1</u> 100				(0.0)	内:横方向のハケメ、指頭圧痕 外:ヘラによる羽状文		1mm以下の石英、0.5mm以下		弥生中期後葉 松本IV様式
14-16	弥生土器	壷	-	-	(4.3)	内:横方向のハケメ後ナデ、斜め方向のハケメ後ナデ	内外:灰黄褐色 10YR5/2	の長石・雲母含む	1/8以下	弥生中期後葉
14-17	弥生土器	広口壷	-	-	(9.8)	外:縦方向のハケメ後、綾杉文、4条の櫛描線文、 5点の列点文	外:にぶい黄橙色 10YR7/3〜褐灰色 10YR5/1	1mm以下の石英少量、0.5mm 以下の長石・雲母含む	頸部~肩部 1/8以下	松本IV様式 弥生中期後葉
	弥生土器	広口壷			(11.3)	内:斜め方向のハケメ 外:綾杉文、3条・4条の沈線	内:橙色 7.5YR7/6~灰褐色 7.5YR5/2 外:にぷい黄橙色 10YR6/3	1mm以下の石英・長石・雲母	肩部	松本IV様式
			-	-		内:ナデ 外:沈線文の間に刻目	内:にぶい橙色 7.5YR7/4 外:浅黄橙色 10YR8/4	含む	1/8以下	弥生中期後葉 塩町式系
15-2	弥生土器	壷か甕	-	-	(4.8)	内:ハケメ後ナデ	内:橙色 7.5YR7/6	1mm以下の石英・長石含む	1/8以下	弥生中期後葉
15-3	弥生土器	虁	-	-	(4.3)	外・縦方向のハケメ、刺突文、7列の列点文 内:斜め方向のハケメ後ナデ、斜め方向のハケメ	外:にぶい橙色 7.5YR6/4 内:橙色 7.5YR7/6~灰褐色 7.5YR5/2	0.5mm程度の石英、0.5mm以 下の長石・雲母含む	肩部 1/8以下	松本IV様式 弥生中期後葉
15-4	弥生土器	壷か甕	-	-	(4.1)	外:縦方向のハケメ後文様の施文される、4条の沈線文	外:にぶい黄橙色 10YR7/4 内:橙色 7.5YR6/6	0.5mm程度の石英・長石含む	胴部 1/8以下	松本IV様式 弥生中期後葉
15-5	弥生土器	魏	-	-	(13.2)	内   外   4	外:液黄色 2.5Y8/4~暗灰黄色 2.5Y4/2 内:黄灰色 2.5Y4/1~黄褐色 2.5Y5/3	1mm以下の石英・長石、少量 の雲母含む	1/8以下	弥生中期後集 松本Ⅳ様式 弥生中期後葉
						縦方向のハケメが若干残るがナデ調整				
15-6	弥生土器	魏	-	-	(8.1)	外・縦方向のハケメ、横2~3列の刺突文 内:ナデ、縦方向のケズリ	外:浅黄色 2.5Y7/4~黄灰色 2.5Y4/1 内:浅黄色 2.5Y7/4	1mm以下の石英・長石、少量 の雲母含む	胴部 1/8以下	松本IV様式 弥生中期後葉
15-7	弥生土器	甕	-	-	(7.3)	外:ヘラミガキ、横3・7列の刺突文 内:縦方向のヘラケズリ	外・黒褐色 2.5Y3/1 内・暗灰黄色 2.5Y5/2~にぶい黄色 2.5Y6/4	1mm以下の石英・長石含む	胴部 1/8以下	松本IV様式 弥生中期後葉
15-8	弥生土器	撫	-	-	(6.2)	外縦・斜め方向のハケメ、斜めの刺突文 内:斜め方向のハケメ	外:淡黄色 2.5Y8/3 内:にぶい黄橙色 10YR7/4	1mm以下の石英、0.5mm以下	胴部 1/8以下	松本IV様式 弥生中期後葉
15-9	弥生土器	甕	-	-	(7.8)	外:縦方向のハケメ若干残る、斜めの列点文	外:灰黄色 2.5Y7/2~黄灰色 2.5Y4/1	の長石含む 0.5mm以下の石英・長石、少	胴部	松本IV様式
	弥生土器	燕	(19.0)	_	(3.4)	内:斜め方向のハケメ 外:ナデ、ハケメ後ナデ、2条の凹線文	内:暗灰黄色 2.5Y5/2 内外:浅黄橙色 10YR8/3	量の雲母含む 密。0.5mm以下の石英・長石・	1/8以下 口縁部~頸部	弥生中期後蘖 松本IV様式
15-10	外土工器	3%	(19.0)	-	(3.4)	内:ナデ 外:ナデ、縦・横方向のハケメ、横方向のナデ消し、	内外:浅典恒巴 IUYK8/3	雲母少量含む	1/8以下	弥生中期後葉
15-11	弥生土器	甕	(18.4)	-	(5.1)	3条の凹線文 内:ナデ、斜め方向のハケメ	内外:にぶい黄橙色 10YR6/4	密。0.5mm以下の長石・雲母 少量含む	口縁部~肩部 1/8以下	松本IV様式 弥生中期後葉
15-12	弥生土器	鉄	(9.0)	1	(5.8)	外:ナデ、縦方向のハケメ、2条の凹線文 内:ナデ、横方向のハケメ	内外:にぶい黄橙10YR6/4	密。0.5mm以下の雲母少量含 む	口縁部~胴部 1/4	弥生中期後葉
15-13	弥生土器	甕	(14.8)	-	(5.2)	外:ナデ、縦・横方向のハケメ、4条の凹線文 内:横ナデ、横・ナナメ方向のハケメ	内外:浅黄橙色 7.5YR8/6	密。雲母少量含む	口縁部~肩部 1/8以下	松本Ⅳ様式 弥生中期後葉
15-14	弥生土器	魏	-	-	(6.2)	外・横方向のハケメ後ナデ、縦方向のハケメ、木目のある原体による刺突文 内・横方向のハケメ後ナデ、横方向のハケメ	外:黒褐色 2.5Y3/1〜黄灰色 2.5Y4/1 内:にぶい黄橙色 10YR7/3	0.5mm以下の石英・長石・雲 母含む	1/8以下	松本IV様式 弥生中期後葉

19	15-15	弥生土器	鉄	(13.2)	_	(1.7)		)凹線文、刺突文			内外:にぶい黄橙色 10YI	R7/4	密。0.5mm以下の	)長石少量含	口縁部	外面に煤付着
				(10.2)						文様、			む 1~2mmの石英、	0.5mm以下	1/8以下	松本IV様式 弥生中期後葉 松本IV様式
March   Marc	15-16	弥生土器	號	-	-		内:ナデ、	ヘラケズリ後ナデ	l点文		内:暗灰黄色 2.5Y5/2~		の長石・雲母含む	7		
March   Marc	16-1	弥生土器	壷か甕	-	(5.3)							/2				
March   Marc	16-2	弥生土器	壷か甕	-	(5.6)						内外:にぶい黄橙色 10YI	R7/4		石英・長石、		
March   Marc	16-3	弥生土器	壺か甕	-	(5.2)								lmm程度の石英			
March   Marc	16-4	弥生土器	高坏	-	(12.0)	(6.4)	外:2条•:	5条・8条の沈線			外:にぶい黄橙色 10YR7	/3	1mm以下の石英		脚部	
1.	16-5	土師器	甕	(15.8)	-		外:ハケ:	×					1mm以下の石英	·長石·雲母	口縁部~頸部	
1.   1.   1.   1.   1.   1.   1.   1.	10.0	J. 6GERR	xler	(1.0.0)		(4.0)						/3~黒褐色		<ul><li>長石・雲母</li></ul>		-1-18-1-180
19	10-0	工時報	380	(10.6)				ケズリ				1		ET 05		自想件例
10   10   10   10   10   10   10   10	16-7	土師器	甕	(15.6)	-	(4.7)		ヘラケズリ			内外:橙色 5YR6/6		以下の雲母含む		1/8以下	
10   10   10   10   10   10   10   10	16-8	土師器	號	(19.0)	-						内外:にぶい黄橙色 10YF	R7/4	以下の雲母少量	3t		
The color	16-9	土師器	高坏	-	1						内外:橙色 5YR6/8		む			
10   10   10   10   10   10   10   10	16-10	須恵器	坏身	(11.6)	-	(3.5)	内外:回	転ナデ			内外:灰色 5Y6/1			•長石少量含		
19	16-11	須恵器	葢	-	-	(2.2)					内外:灰色 N6/			英•長石少量	1/8	
1.	16-12	須恵器	坏身	(9.0)	(3.4)	3.6					内外:灰白色 2.5Y7/1		密		1/4	
19   19   19   19   19   19   19   19	16-13	須恵器	無蓄高坏	(14.0)	_	(4.75)								·長石少量含		古墳後期
10.1   10.1				()									_	f 1mm1/7 K	け)1/8	
10   10   10   10   10   10   10   10				-	-	(4.1)	内:同心	円タタキ			内:灰色 10Y5/1		の長石含む			
1978   1978	16-15	須恵器		-	(6.0)			小ガ保			内外:灰色 10Y6/1		含む		底部1/6	国府第6型式(9c中葉~後葉)
14.1   16.1   16.1   16.2	16-16	土師器		-	-	(2.0)	内外:ナ	デ						口•芸球少量	1/8以下	
10-15	16-17	青磁	碗	(16.0)	-			、鎬蓮弁文			明オリープ灰色 2.5G	Y7/1	密			
1- 12   現場   13-1   1	16 10	須由即	ster			(C E)	外:平行:				外:暗灰色 N3/	5/1	0.5mm N T 0 =	万小昌今+。		
10   10   10   10   10   10   10   10				-	-	(1.75)	外:回転:	ナデ						ログ里凸む	底部	
10-22   第四				-	-											
15-20   15				(24.5)	-										1/8	後期Ⅱ~Ⅲ期(15c代)
18-22   13-85   14-9   12-9   1-9   14-9   19-9	16-21			-	(16.6)										1/8以下	
10-20   1959   19-20   1-2	16-22	土師器	高坏	(12.4)	-						内外:橙色 7.5YR7/6					八峠編年 中世Ⅱ期(12~13c)
10-20   10-20   10-20   10-20   10-20   10-20   10-20   19-20   10	16-23	土師器	坏か皿	-	5.4	(1.1)	内:回転	ナデ			内外: 英橙色 10YR8/6		母少量含む		底部のみ完形	
16   1	16-24	土師器	Ш	(11.0)	(6.4)	3.4	内:回転:	ナデ			内外:橙巴 7.5YR6/8		母少量含む			島根中世IV期(16c代)
16-25   1985   Mile   12   84   81   N-7   N							41   D Br.									
17-1   19-1	16-25	土師器	III	-	(5.6)	(1.1)	内:回転	ナデ			内外:浅黄橙色 7.5YR8/6	5	む		1/4	
接数   接数   接換   接換   接換   接換   接換   接換				-		(1.1)	内:回転 外:回転 内:回転	ナデ ナデ、回転糸切痕 ナデ				5	む 1mm以下の石英 含む	·長石·雲母	1/4 底部~体部	
11	16-26 17-1	土師器朝鮮系	□□		(6.0)	(1.1)	内:回転 外:回転 内:回転 外:ナデ、	ナデ ナデ、回転糸切痕 ナデ			内外:橙色 7.5YR7/6	5	む 1mm以下の石英 含む 0.5~5mmの石芽	·長石·雲母	1/4 底部~体部 1/4	
1版   1版 連稿に伴う連物   2番節の   2名節の   2	16-26 17-1 1区	土師器 朝鮮系 1面より	Ⅲ 高台付碗 上層出土		(6.0)	(1.1)	内:回転 外:回転 内:回転 外:ナデ、	ナデ ナデ、回転糸切痕 ナデ ,2条の沈線	cm)		内外:橙色 7.5YR7/6		む 1mm以下の石英 含む 0.5~5mmの石芽	·長石·雲母	1/4 底部~体部 1/4	6c末~7c初
1   1   1   1   1   1   1   1   1   1	16-26 17-1 1区 掲載 番号	土師器 朝鮮系 1面より 種類	高台付碗上層出土器種		(6.0) 8.4 (製品	(1.2) 8.1	内:回転 外:回転 内:回転 外:ナデ、	ナデ ナデ、回転糸切痕 ナデ 2条の沈線 法量(c 最大f	幅		内外・橙色 7.5YR7/6 内外・灰色 N6/ 厚さ	重量(g)	む 1mm以下の石英 含む 0.5~5mmの石芽	·長石·雲母	1/4 底部~体部 1/4	6c末~7c初
16	16-26 17-1 1区 掲載 番号 18-1	土師器 朝鮮系 1面より 種類 金属製品	回 高台付碗 上層出土 器種 鉄釘	金属	(6.0) 8.4 (製品	(1.2) 8.1	内:回転 外:回転 内:回転 外:ナデ、	ナデ ナデ、回転糸切痕 ナデ 2条の沈線 法量(c 最大f	幅		内外・橙色 7.5YR7/6 内外・灰色 N6/ 厚さ	重量(g)	む 1mm以下の石英 含む 0.5~5mmの石芽	·長石·雲母	1/4 底部~体部 1/4	6c末~7c初
12   12   13   15   15   16   16   17   17   17   17   17   17	16-26 17-1 1区 掲載 番号 18-1 1区 掲載	土師器 朝鮮系 1面より 種類 金属製品 1面 遺	Ⅲ 高台付碗 上層出土 器種 鉄釘 構に伴う	金属遺物	(6.0) 8.4 3製品	(1.1) (1.2) 8.1 6.5	内:回転: 外:回転: 外:アン・ 内:ナデ、 内:ナデ	ナデ サデ、回転糸切痕 ナデ 2条の沈線 法量(c 最大f	5		内外:橙色 7.5YR7/6 内外:灰色 N6/ 厚さ 1.1	重量(g)	む 1mm以下の石英 含む 0.5~5mmの石克 以下の長石含む	·長石·雲母 佐少量、Imm	1/4 底部~体部 1/4 2/3	66年~76初 備考
21-3   SAON   他感   東	16-26 17-1 1区 掲載 番号 18-1 1区 掲載 番号	土師器 朝鮮系 1面より 種類 金属製品 遺 遺構名	照 高台付碗 上層出土 器種 鉄釘 構に伴う	金属遺物器種	(6.0) 8.4 製品 量	(1.1) (1.2) 8.1 6.5	内:回転 外:回転 内:回転 外:ナデ、 内:ナデ	ナデ ナデ、回転糸切痕 ナデ、2条の沈線   <b>法量(</b> 最大す 1.55   <b>間整・</b> 本回転ナデ、ヘラケズ	幅 5 手法の特徴		内外 植色 7.5YR7/6 内外 灰色 N6/ 厚さ 1.1 色調 内外 灰色 7.5Y5/1	重量(g)	む Imm以下の石英含む 0.5~5mmの石介と 以下の長石含む Mat 0.5mm以下の長石含む	·長石·雲母 英少量、1mm	1/4 底部~体部 1/4 2/3 残存 口縁部~胴部 1/6	66末~7c初 備考 占項後期 出雲5~6期(7cft)
21-3   SXOS   网際   漢   -     (49)   P/P 子     P/F 大学   P/F T   P/	16-26 17-1 1区 掲載 番号 18-1 1区 掲載 21-1	土師器 朝鮮系 1面より。 種類 金属製品 1面 遺 8KO1 刻	皿 高台付碗 上層出土 器種 鉄釘 構に伴う	遺物器種蓋	(6.0) 8.4 数品	(1.1) (1.2) 8.1 6.5	内:回転: 外:回転: 内:回転: 外:ナデ、内:ナデ (3.2) P	ナデ サデ、回転糸切痕 ナデ、回転糸切痕 ナデ、2条の沈線 	幅 5 手法の特徴		内外・板色 7.5YR7/6 内外・灰色 N6/ 厚さ 1.1 色調 内外・灰色 7.5Y4/1 外・灰色 7.5Y4/1	重量(g)	む 1mm以下の石英 含む 0.5~5mmの石身 以下の長石含む 胎土 0.5mm以下の長 含む	·長石·雲母 英少量、1mm	1/4 底部一体部 1/4 2/3 残存 口縁部~胴部 1/6 口縁部 1/8以下	66末~7c初 備考 占填後期 出雲5~6期(7c代) 古境後期 出雲5~6期(7c代)
24-5   24-5   25-5	16-26 17-1 1区 掲載 番号 18-1 1区 21-1 21-2 21-3	土師器 朝鮮系 1面より 種類 金属製品 1面 遺 遺構名 SKO1 刻 SKO1 刻	皿 高台付碗 上層出土 器種 鉄釘 構に伴う 頑恵器 頑恵器	金属 遺物 蓋 环身	(6.0) 8.4 3製品 口径 (10.8) (11.0)	(1.1) (1.2) 8.1 8.5 6.5 底径	内:回転: 内:回転: 内:回転: 内:回転: 内:中 内:中 (3.2) 「1.6) ド 2.6 タ	ナデ ナデ、回転糸切痕 ナデ、回転糸切痕 ナデ、2条の沈線 	幅 5 手法の特徴		内外 極色 7.5YR7/6 内外 灰色 N6/ 厚さ 1.1 色調 内外 灰色 7.5Y5/1 外 灰色 7.5Y4/1 内 灰色 10Y5/1 素地 灰白色 N8/	重量(g)	世 1mm以下の石英 含む 0.5~5mmの石身 以下の長石含む	・長石・雲母 交少量、Imm 石わずかに	1/4 底部一体部 1/4 2/3 2/3 2/3 1/8/2 1/8	66年~7c初 備考 占填後用 出雲5~6期(7cft) 占填後期 出雲5~6期(7cft) 出東5~6期(7cft) 坛東範 肥前 九駒V期 (19c)
23-1   SKOS   総器   1	16-26 17-1 1区 掲載 番号 18-1 1区 掲載 21-1 21-2 21-3 21-4	土師器 朝鮮系 1面より. 種類 金属製品 1面 遺 3 SK01 刻 SK01 刻 SK01 刻	皿 高台付碗 上層出土 器種 鉄釘 (東京都 東京都 東京都 破器	金属 遺物 蓋 茶 茶	(6.0) 8.4 3製品 口径 (10.8) (11.0)	(1.1) (1.2) 8.1 8.5 6.5 底径	内:回転: 外:回転: 外:回転: 外:ナデ、 内:ナデ、 (3.2) P P (4.9) P (4.9) P	ナデ ナデ、回転糸切痕 ナデ、回転糸切痕 ナデ、2条の沈線 	幅 5 手法の特徴		内外 植色 7.5YR7/6 内外 灰色 N6/ 厚さ 1.1 一 色調 内外 灰色 7.5Y4/1 外 灰色 7.5Y4/1 麻 地 灰白色 N8/ 外 灰色 N5/ 外 灰色 N5/ 外 灰色 N5/	重量(g)	む   Imm以下の石英   含む	・長石・雲母 英少量、Imm 石わずかに ・長石含む	1/4 底部~体部 1/4 2/3 2/3 2/3 2/3 1/8 1/8 1/8 1/8 1/3 1/8 1/3 1/3 1/8 1/3 1/3 1/8 1/3 1/3 1/8 1/3 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8	66年~7c初 備考 占殖後期 出雲5~6期(7cft) 占殖後期 出宝5~6期(7cft) 出宝6~6期(7cft) 起東総 即 九駒 V期 (19c) 変器系 5型(13c前半)
25-1   SK12   須恵器   妻   -   -   -   -   -   -   -   -   -	16-26 17-1 1区 掲載 番号 18-1 1区 21-1 21-2 21-3 21-4 21-5	土師器 朝鮮系 1面より 種類 金属製品 1面 遺 遺 遺 場 (SKO1 刻 SKO1 SKO5 SKO5	皿 高台付碗 上層出土 器種 鉄釘 構に伴う 夏恵器 夏恵器 陶器 陶器	金属 遺物 器種 蓋 环身	(6.0) 8.4 製品 口径 (10.8) (11.0)	(1.1) (1.2) 8.1 8.1 6.5 底径 (5.1)	内:回転: 外:回転: 内:回転: 外:ナデ	ナデ ナデ、回転糸切痕 ナデ、2条の沈線 	幅 5 手法の特徴		内外 植色 7.5VR7/6 内外 灰色 N6/ 厚さ 1.1 	重量(g)	世 Imm以下の石英 含む 0.5~5mmの石分 以下の長石含む 以下の長石含む を 6 8 8 8 Imm以下の石英 2mm以下の石英	・長石・雲母 英少量、Imm 石わずかに ・長石含む	1/4 底部~体部 1/4 2/3 2/3 2/3 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8	65年~7c初
25-2   SK13   須恵器   妻か   -	16-26 17-1 1区 掲載 番号 18-1 1区 21-1 21-2 21-3 21-4 21-5	土師器 朝鮮系 1面より 種類 金属製品 1面 遺 遺構名 SKO1 刻 SKO1 刻 SKO1 刻 SKO5 SKO5	皿 高台付碗 上層出土 器種 鉄釘 構に伴う 真恵器 頁恵器 陶器 陶器	金属	(6.0) 8.4 製品 口径 (10.8) (11.0)	(1.1) (1.2) 8.1 8.1 6.5 底径 - (5.1)	内:回転 外:回転 外:可 分: 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	ナデ ナデ、回転糸切痕 ナデ、回転糸切痕 ナデ、2条の沈線 	幅 5 手法の特徴		内外 植色 7.5VR7/6 内外 灰色 N6/ 厚さ 1.1 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	重量(g)	世 Imm以下の石英 含む 0.5~5mmの石 0.5~5mmの石 以下の長石含む 以下の長石含む 路 第 を 8 第 を 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	・長石・雲母 英少量、Imm 石わずかに ・長石含む	1/4 旅部一体部 1/4 2/3 <b>残存</b> 口縁部~剛部 1/6 口輪部 1/8以下 類部 1/8以下 類部 1/8以下 類部	65年~7c初
25-3   SK13   須速器   数     (7-3)   外格子目 タタキ   内利の田内 タキ   内科の田内 タキ   内科の田内 タキ   内科の田内 タキ   日本田内 日本田内 日本田内 日本田内 日本田内 日本田内 日本田内 日本田内	16-26 17-1 1区 掲載 番号 18-1 1区 21-1 21-2 21-3 21-4 21-5 21-6 23-1	土師器 朝鮮系 1面より、 種類 金属製品 1面 遺 遺構名 SKO1 3 SKO1 3 SKO1 5 SKO5 SKO5 P4	皿 高台付碗 上層出土 器種 鉄釘 構に伴う 真恵器 頁恵器 陶器 陶器 陶器	金属	(6.0) 8.4 製品 口径 (10.8) (11.0) (10.0)	(1.1) (1.2) 8.1 8.1 6.5 底径 - (5.1)	内:回転 外:回転 外:回転 外:中 内: 内: 内: (3.2) <sup>9</sup> <sup>9</sup> <sup>9</sup> (1.6) <sup>9</sup> (1.6	ナデ ナデ、回転糸切痕 ナデ、回転糸切痕 ナデ、1.55 <b>温度</b> ( 1.55 調整・ 1.55 関整・ 1.55 関いにナデ、ヘラケズ 994:回転ナデ 1.56	幅 5 手法の特徴		内外 植色 7.5VR7/6 内外 灰色 N6/ 厚さ 1.1 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	重量(g)	世 Imm以下の石英 含む 0.5~5mmの石分 以下の長石含む 以下の長石含む を 整 き を を を を を を を を を を を を を を を を を	•長石・雲母 炎少量、Imm 石わずかに ・長石含む ・長石含む	1/4 底部-体部 1/4 2/3 残存 口線部~制部 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/2 底部-体部 1/4 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8	66年~7c初  備考  占墳後期  出雲5~6期(7cft)  古墳後期  出雲5~6期(7cft)  古墳後期  出雲5~5期(13cft)  出雲5~5期(13cft)  北東路  肥前 九駒 V 翔 (19c)  震器系 5型(13cft)  震器系 5型(13cft)  大举府編年 V 類 (11c末~12cft)
IE   1面	16-26 17-1 1区 掲載 番号 18-1 1区 21-1 21-2 21-3 21-4 21-5 21-6 23-1 25-1	土師器 朝鮮系 画面より、 種類 金属製品面 遺 選 表 KK01 3 SK01 3 SK05 SK05 SK05 P4	皿 高台付碗 上層出土 器種 鉄釘 構に伴う 真恵器 真恵器 陶器 陶器 陶器 陶器 陶器	金属	(6.0) 8.4 製品 (10.8) (11.0) (10.0) - - (16.2)	(1.1) (1.2) 8.1 8.1 6.5 底径 - (5.1)	内:回転 外:回転 外:中デ 内:ナデ (3.2) (1.6) (1.6) (2.6) (4.9) (5.0) (7) (8.2) (8.2) (9) (9) (1.6) (9) (1.6) (9	ナデ ナデ、回転糸切痕 ナデ、回転糸切痕 ナデ、1.55 温度( 1.55 調整・ 1.55 調整・ 1.55 調整・ 1.55 調整・ 1.55	幅 5 手法の特徴		内外 植色 7.5VR7/6 内外 灰色 N6/ 厚さ 1.1 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	重量(g)	世 Imm以下の石英 含む 0.5~5mmの石分 以下の長石含む 以下の長石含む を 1mm以下の長 含む 密 密 密 密 密 を を を を を を を を を を を を を	・長石・雲母 炎少量、Imm 石わずかに ・長石含む ・長石含む	1/4 底部-体部 1/4 2/3	66年~7c初  備考  占填後則 出雲5~6期(7cft) 占道後則 出雲5~6期(7cft) 北京6 (20 (20 (20 (20 (20 (20 (20 (20 (20 (20
最大長   最大展   最大展   原さ   単重(9)   編考   1	16-26 17-1 1区 掲載 番号 18-1 1区 21-1 21-2 21-3 21-4 21-5 21-6 23-1 25-1	土師器 朝鮮系 園面より 種類 を属製品面	皿 高台付税 出土 器種 鉄釘 (中) の 関係 と の 関係 と の 関係 と の の の の の の の の の の の の の の の の の の	金属	(6.0) 8.4 製品 (10.8) (11.0) (10.0) - - (16.2)	(1.1) (1.2) 8.1 8.1 6.5 底径 - (5.1)	内:回転 外:回転 外:回転 外:中デ・デ   38	ナデ ナデ、回転糸切痕 ナデ、回転糸切痕 ナデ、 2条の沈線	幅 5 手法の特徴		内外 植色 7.5VR7/6 内外 灰色 N6/ 厚さ 1.1 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	重量(g)	世 Imm以下の石英 含む 0.5~5mmの石 以下の長石含む 以下の長石含む 路土 0.5mm以下の長 含む 密 密 密 密 密 密 密 密 密 密 を を 密 を を を を を を を を を を を を を	<ul> <li>長石・雲母</li> <li>た少量、Imm</li> <li>石わずかに</li> <li>長石含む</li> <li>長石含む</li> <li>長石含む</li> <li>長石含む</li> </ul>	1/4 底部-体部 1/4 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3	66年~7c初 備考 占填後期 出雲5~6期(7cft) 占填後期 出雲5~6期(7cft) 広東6 肥前 九駒 V 期 (19c) 震器系 5型(13c前半) 在地 (加速6) 大学府編年 V 類 (11c末~12c後第) 中世
25-4 SK13   土製品   土錘   4-6	16-26 17-1 1区 掲載 番号 18-1 1区 規載 21-1 21-2 21-3 21-4 21-5 21-6 23-1 25-1 25-2 25-3	土師器 朝鮮系 面より 種類 種類	而 高台 居	金属	(6.0) 8.4 製品 同径 (10.8) (11.0) (10.0)	(1.1) (1.2) 8.1 8.1 6.5 底径 - (5.1) - 8.8 (3.4)	内:回転 外:回転 外:回転 外:中デ・デ   38	ナデ ナデ、回転糸切痕 ナデ、回転糸切痕 ナデ、 2条の沈線	層 手法の特徴 「リ後ナデ		内外 植色 7.5VR7/6 内外 灰色 N6/ 厚さ 1.1 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	重量(g)	世 Imm以下の石英 含む 0.5~5mmの石章 以下の長石含む 路上 0.5mm以下の長・音 密 密 密 密 密 を を を を を を を を を を を を を	<ul> <li>長石・雲母</li> <li>た少量、Imm</li> <li>石わずかに</li> <li>長石含む</li> <li>長石含む</li> <li>長石含む</li> <li>長石含む</li> </ul>	1/4 底部-体部 1/4 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3	66年~7c初 備考 占填後用 出雲5~6期(7cft) 占填後期 出雲5~6期(7cft) 达束範 形面 九胸V期 (19c) 瓷器系 5型(13c前半) 在地 (6志表) 人卒府編年 N類 (11c末~12c模集) 中世 占填
2区   面より上層出土遺物         法量(m)         調整・基本の特徴         色調         胎土         残存         傷考           26-1 常生土器 高坏 (16-0)         122 度 度度 整満 原子で、四線か 内外、没黄橙色 10 YR 8/4 月かっカナズリ 内外、没黄橙色 10 YR 8/4 月かっカナズリ 内外、没黄橙色 10 YR 8/4 月から 17 8以下 原生 月から 17 8以下 原生 月から 17 8以下 内外、投黄橙色 10 YR 8/3 月から 17 8以下 古墳 上墳 上墳 内外、同人 19 タキ 日本	16-26 17-1 1区 掲載 番号 18-1 1区 21-1 21-2 21-3 21-4 21-5 21-6 23-1 25-1 25-1 25-2 25-3 1区 掲載 編号	土飾器 朝鮮系 東 東 東 東 東 東 大 の の の の の の の の の の の の の	面的 有	遺器種 蓋 环 素 漿 漿 鉢 皿 漿 漿 漿 遺 器種	(6.0) 8.4 製品 同径 (10.8) (11.0) (10.0)	(1.1) (1.2) 8.1 8.1 6.5 法量(cm (5.1) - - - 8.8 (3.4)	内:国転 外:国転 外: 外: 内: 内: 内: 内: 内: 内: 内: 内: 内: 内: 内: 内: 内:	ナデ ナデ、回転糸切痕 ナデ、回転糸切痕 ナデ、 2条の沈線	幅 5 手法の特徴 リ後ナデ 法種(cm) 最大幅		内外 植色 7.5VR7/6 内外 灰色 N6/ 厚さ 1.1 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	重量(g) 17.72	世 Imm以下の石英 含む 0.5~5mmの石 以下の長石含む 以下の長石含む 路土 0.5mm以下の長 含む 密 密 活 2mm以下の石英 密 密 第 1mm以下の石英 密 密 第 1mm以下の石英 密 の の の の の の の の の の の の の	<ul> <li>長石・雲母</li> <li>た少量、Imm</li> <li>石わずかに</li> <li>長石含む</li> <li>長石含む</li> <li>長石含む</li> <li>長石含む</li> <li>長石含む</li> </ul>	1/4 底部一体部 1/4 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3	66年~7c初 備考 占填後用 出雲5~6期(7cft) 占填後期 出雲5~6期(7cft) 达束範 形面 九胸V期 (19c) 瓷器系 5型(13c前半) 在地 (6志表) 人卒府編年 N類 (11c末~12c模集) 中世 占填
掲載   掲載   接種   接種   大量(m)   調整・手法の特徴   色調   胎土   残存   傷者   傷者   信名   除生土器   高环   (16.0)   (2.2)   外ナデ、四線か   内外・没責権色 10YR8/4   同常な   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日	16-26 17-1 1区 規載 番号 18-1 1区 21-1 21-2 21-3 21-4 21-5 21-6 23-1 25-1 25-2 25-3 1区 規載 第号 11-1 25-1 25-1 25-1 25-1 25-2 25-3 21-1 25-3 25-3 25-3 25-3 25-3 25-3 25-3 25-3	土飾器 朝鮮系 明朝系 明朝	面的	金属遺物を養養を受ける。 一番 できまる できまる できまる できまる できまる できまる できまる できまる	(6.0) 8.4 製品 同径 (10.8) (11.0) (10.0)	(1.1) (1.2) 8.1 8.1 6.5 法量(cm (5.1) - - - 8.8 (3.4)	内:回転 外:回転 外:回転 (3.2) <sup>9</sup> <sup>1</sup>	ナデ ナデ、回転糸切痕 ナデ、回転糸切痕 ナデ、 2条の沈線	編 5 手法の特徴 リ後ナデ 法量(m) 最大幅 (3.2)		内外 植色 7.5VR7/6 内外 灰色 N6/ 厚さ 1.1 内外 灰色 7.5V5/1 外 灰色 7.5V4/1 戸 灰色 10V5/1 素地 灰白色 N8/ 外 灰色 0.5V5/ 戸 灰 初色 7.5V8/2 戸 大 天 小 変色 2.5V6/3 内外 灰白色 2.5V8/1 内外 灰白色 N8/ 内外 灰白色 N8/ 内外 灰白色 N8/ 内外 灰白色 N8/ 内外 灰白色 0.5V8/1 内外 灰白色 0.5V8/1	重量(g) 17.72	む	<ul> <li>長石・雲母</li> <li>た少量、Imm</li> <li>石わずかに</li> <li>長石含む</li> <li>長石含む</li> <li>長石含む</li> <li>長石含む</li> <li>長石含む</li> </ul>	1/4 底部一体部 1/4 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3	66年~7c初 備考 占填後用 出雲5~6期(7cft) 占填後期 出雲5~6期(7cft) 达束範 形面 九胸V期 (19c) 瓷器系 5型(13c前半) 在地 (6志表) 人卒府編年 N類 (11c末~12c模集) 中世 占填
26-1 弥生土器 高环 (16-0)     (2-2) 弥ナテ、四線か 内外浅黄橙色 10YR8/4 同か以下の石英・長石・雲 得合む (1/8以下 内外沢黄色 N5/ の.5mm程度の長石含む (1/8以下 古墳 上野屋 所)・ (2-2) 内外田屋かり長石・製作 (1/8以下 古墳 上野屋 所)・ (2-2) 内外田屋かり長石・製作 (1/8以下 古墳 上野屋 所)・ (2-2) 内外田屋かり (1/8) 大 (2-2) 内外田屋かり長石・製作 (1/8) 大 (2-2) 内外田屋かり (1/8) 大 (2-2) 内外田屋が (1/8) 大 (2-2) 内外田屋かり (2-2) 内外田屋が (1/8) 内外田屋 (2-2) 内外田屋が (1/8) 内外田屋 (2-2) 日本 (2-2) 内外田屋 (2-2) 日本 (	16-26 17-1 1区 掲載 番号 21-1 21-2 21-3 21-4 21-5 21-6 23-1 25-1 25-1 25-3 1区 25-3 21-4 25-1 25-1 25-3 25-3	土飾器 朝鮮系 種類 種類 種類 基準	皿 高台灣	金属 遺物 器蓋 終 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 も る も る	(6.0) 8.4 製品 同径 (10.8) (11.0) (10.0)	(1.1) (1.2) 8.1 8.1 6.5 法量(cm (5.1) - - - 8.8 (3.4)	内:回転 外:回転 外:回転 (3.2) <sup>9</sup> <sup>1</sup>	ナデ ナデ、回転糸切痕 ナデ、回転糸切痕 ナデ、 2条の沈線	編 5 手法の特徴 リ後ナデ 法量(m) 最大幅 (3.2)		内外 植色 7.5VR7/6 内外 灰色 N6/ 厚さ 1.1 内外 灰色 7.5V5/1 外 灰色 7.5V4/1 戸 灰色 10V5/1 素地 灰白色 N8/ 外 灰色 0.5V5/ 戸 灰 初色 7.5V8/2 戸 大 天 小 変色 2.5V6/3 内外 灰白色 2.5V8/1 内外 灰白色 N8/ 内外 灰白色 N8/ 内外 灰白色 N8/ 内外 灰白色 N8/ 内外 灰白色 0.5V8/1 内外 灰白色 0.5V8/1	重量(g) 17.72	む	<ul> <li>長石・雲母</li> <li>た少量、Imm</li> <li>石わずかに</li> <li>長石含む</li> <li>長石含む</li> <li>長石含む</li> <li>長石含む</li> <li>長石含む</li> </ul>	1/4 底部一体部 1/4 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3	66年~7c初 備考 占填後用 出雲5~6期(7cft) 占填後期 出雲5~6期(7cft) 达束範 形面 九胸V期 (19c) 瓷器系 5型(13c前半) 在地 (6志表) 人卒府編年 N類 (11c末~12c模集) 中世 占填
1813日   18	16-26 17-1 1区 掲載 18-1 1区 121-1 21-2 21-3 21-4 21-5 21-6 23-1 25-1 25-2 25-3 1区 規載 番号 11-5 21-1 25-1 25-1 25-1 25-2 25-3 1区 規載 番号 10-1 25-3 25-3 25-3 25-3 25-3 25-3 25-3 25-3	土飾器 朝鮮系	面付的土土 器 致了 中 的 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医 医	金属 遺物	(6.0) 8.4 製品 // (10.8) (11.0) - - - - - - - - - - - - - - - - - - -	(1.1) (1.2) 8.1 8.1 6.5 底径 (5.1) - 8.8 (3.4)	内:回転 外:回転 外:回転 (3.2) <sup>9</sup> <sup>1</sup>	ナデ ナデ、回転糸切痕 ナデ、回転糸切痕 ナデ、2条の沈線 <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>温度(</b> <b>是度(</b> <b>是度(</b> <b>是度(</b> <b>是度(</b> <b>是度(</b> <b>是度(</b> <b>是</b> <b>是</b> <b>是</b> <b>是</b> <b>是</b> <b>是</b> <b>是</b> <b>是</b>	編 5 手法の特徴 リ後ナデ 法量(m) 最大幅 (3.2) 外径0.9		内外 植色 7.5VR7/6 内外 灰色 N6/ 厚さ 1.1 中外 灰色 7.5V4/1 中 灰色 10V5/1 素地 灰白色 N8/ 中 灰色 0.5V/ 中 灰色 0.5V/ 中 灰色 0.5V/ 中 灰色 0.5V/ 中 灰色 0.5V/ 内 吹 灰白色 2.5V8/1 内外 灰白色 8.5V8/1 内外 灰白色 0.5V8/1 内外 灰白色 0.5V8/1 内外 灰白色 0.5V8/1 内外 灰白色 0.5V8/1 内外 灰白色 0.5V8/1 内外 灰白色 0.5V8/1	重量(g) 17.72	を	<ul> <li>長石・雲母</li> <li>シ少量、Imm</li> <li>石わずかに</li> <li>・長石含む</li> <li>・長石含む</li> <li>・長石含む</li> <li>・長石含む</li> <li>おか量含む</li> <li>が径4.0cm</li> </ul>	1/4 底部一体部 1/4 2/3 2/3 2/3 2/3 2/4 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8	6-年~7-c初 備考 占填後用 出雲5~-6期(7-cft) 占填後期 出雲5~-6期(7-cft) 比束範 配前几駒V期 (19c) 震器系 5型(13-前半) 在地 (市志名) 大率府編年 IV類 (11-末~12-c後藍) 中世 占填
1	16-26 17-1 1区 掲載 18-1 1区 現載 21-1 21-2 21-3 21-4 21-5 21-6 23-1 25-1 25-1 25-2 25-3 1区 掲載 舞響 3-1 1区 月載 11-2 25-3 11-2 25-3 11-2 25-3 11-2 25-4 25-4 20-4 20-4 20-4 20-4 20-4 20-4 20-4 20	土師器 朝鮮系 極類 虚成 直 より 種類 を の	面付的土 器 数件 理 印	金属 遺器 蓋	(6.0) 8.4 製品 // (10.8) (11.0) - - - - - - - - - - - - - - - - - - -	(1.1) (1.2) 8.1 8.1 6.5 底径 	内国転写 外上可写 (3.2) (1.6) (1.6) (2.6) (4.9) (5.0) (7.3) (7.3) (7.3) (7.3) (7.3) (7.4)	ナデ ナデ 回転糸切痕 ナデ 回転糸切痕 ナデ 回転分り痕 1.55 調整・ 1.55 1	編 5 手法の特徴 リ後ナデ 法量(m) 最大幅 (3.2) 外径0.9		内外 植色 7.5VR7/6 内外 灰色 N6/ 厚さ 1.1 一 一 内外 灰色 7.5V4/1 内外 灰色 7.5V4/1 内 灰色 10V5/1 素地 灰白色 N8/ 外 灰色 10V5/1 内 上 灰色 10V5/1 内 上 灰色 2.5V6/3 内外 灰白色 2.5V6/3 内外 灰白色 N8/ 内外 灰白色 N8/ 内外 灰白色 N8/ 内外 灰白色 N8/ 内外 灰白色 N8/ 内外 灰白色 N8/ 内外 灰白色 N8/	重量(g) 17.72	世 Imm以下の石英 含む 0.5~5mmの石奇 以下の長石含む 地下の長石含む ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	<ul> <li>長石・雲母</li> <li>麦少量、Imm</li> <li>石わずかに</li> <li>長石含む</li> <li>長石含む</li> <li>長石含む</li> <li>長石含む</li> <li>おなる</li> <li>おなる</li> <li>外径4.0cm</li> </ul>	1/4 底部~体部 1/4 2/3 養存 日縁部 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下	6 年 7 元初
26-3 土神器     所     (9.2) (2.9) 内:ナデ     内外決政報告 10748/3     む     1/8以下     古代木が       26-4 土神器     所     - (5.3) (2.8) 外担転ナデ     内外決政報他 10748/4     の.5mm以下の石英・投石・ 実得少量含む     近部     古代木が       26-5 土神器     所付     - (6.4) (1.3) 内外・ナデ     内外決政報他 7.5748/3     0.5mm以下の需身を少量含む     近部       26-6 須恵器     裏     - (3.3) 外格子タタキ りたナデ     外級反応 10748/1     1mm以下の石英・長石含む     1/8以下       26-7 陶器     服子     - (3.3) 外発館 りたナデ     外本館 りたナデ     外本り一フ黄色 7.576/3 内反白色 1077/1     密     1/8以下       26-8 陶器     裏     - (3.0) 外地館上デ     内外に対象 内外の上が表現を大学(4.0) のでの方法・長石含む     1/8以下	16-26 17-1 1区 期載 番号 18-1 1区 21-1 21-2 21-3 21-4 21-5 21-6 23-1 25-1 25-2 25-3 1区 担機載 23-2 25-3 25-4 25-4 25-4	土飾器	面面 的 一面	金属 遺器 蓋	(6.0) 8.4 製品 // (10.8) (11.0) - - - - - - - - - - - - - - - - - - -	(1.1) (1.2) 8.1 8.1 6.5 5.5量(cm 底径 - - (5.1) 8.8 (3.4)	内国転送 内内	ナデ ナデ、回転糸切痕 ナデ、回転糸切痕 ナデ、回転・ 1.58 	編 5 手法の特徴 リ後ナデ 法量(m) 最大幅 (3.2) 外径0.9		内外 植色 7.5YR7/6   内外 板色 N6/	重量(g) 17.72	世 Imm以下の石英 含む 0.5~5mmの石 0.5~5mmの石 以下の長石含む 以下の長石含む ささ さぎ ぎ 活 20.5mm以下の長 含む き き き き 活 2mm以下の石英 き き き 1mm以下の石英 1mm以下の長石 1mm以下の日英 1mm以下の長石 1mm以下の長石 き き き 1mm以下の長石 き 1mm以下の日英 1mm以下の長石 き 1mm以下の長石 き 1mm以下の長石 き 1mm以下の長石 き き 1mm以下の長石 き 1mm以下の長石 き 1mm以下の長石 き 1mm以下の長石 き 1mm以下の長石 き 1mm以下の長石 き 1mm以下の長石 き 1mm以下の長石 き 1mm以下の長石 き 1mm以下の長石 き 1mm以下の長石 き 1mm以下の長石 き 1mm以下の長石 き 1mm以下の長石 き 1mm以下の長石 き 1mm以下の長石 1mm以下の長石 ま 1mm以下の長石 1mm以下の長石 1mm以下の長石 1mm以下の長石 1mm以下の長石 1mm以下の長石 1mm以下の長石 1mm以下の長石 1mm以下の長石 1mm以下の長石 1mm以下の長石 1mm以下の長石 1mm以下の長石 1mm以下の長石 1mm以下の長石 1mm以下の長石 1mm以下の長石 1mm以下の日 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1mm 1m	・長石・雲母 炎少量、Imm 石わずかに ・長石含む ・艮石含む ・艮石含む ・艮石含む ・艮石含む ・艮石含む ・艮石含む ・艮石含む ・艮石含む ・艮石含む ・艮石含む ・艮石含む ・艮石含む	1/4 底部-体部 1/4 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3	6c末~7c初
26-4 工庫部	16-26 17-1 1区 期數 番号 18-1 1区 21-1 21-2 21-3 21-4 21-5 21-6 23-1 25-1 25-2 25-3 1区 期報 25-2 25-3 25-4 25-4 25-4 25-4 26-1 26-1 26-1 26-1 26-1 26-1 26-1 26-1	土飾器 朝鮮系 面より、 種類 温 表 KKO1 3 3	皿 面白	金属 遺器種 蓋 环	(6.0) 8.4 8製品	(1.1) (1.2) 8.1 8.1 6.5 5.5量(cm 底径 - (5.1) - 8.8 (3.4) - -	内国転換 外国転列 内国転列 内内国転列 (3.2) PP (4.9) PP (5.5) PP (5.5) PP (6.8) PP (7.3) PP (7.3) PP (7.3) PP (4.0) 4.6	ナデ ナデ、回転糸切痕 ナデ、回転糸切痕 ナデ、回転糸切痕 ナデ、2条の沈線 最大 1.55 調整・ ・ ペラケズ りの取すナデ ・ ペラケズ りのいかけで ・ 大発付: 竹葉文 り外・ナデ ・ 外・施軸 ・ 佐藤軸 ・ 胎上目 ・ りか・ かん ・ トロータタキ ・ トロータタキ ・ トロータタキ ・ トレータタキ ・ トレーター ・ トレー ・ トレー ・ トレーター ・ トレーター ・ トレーター ・ トレーター ・ トレーター ・ トレー ・ トレー ・ トレーター ・ トレーター ・ トレーター ・ トレー ・ トレー ・ トレーター ・ トレー ・ ト ・ ト	編 5 手法の特徴 リ後ナデ 法量(m) 最大幅 (3.2) 外径0.9		內外 植色 7.5YR7/6	重量(g) 17.72	世 Imm以下の石英 含む 0.5~5mmの石 以下の長石含む 以下の長石含む ときむ 密 密 活む の5~5mm以下の長 含む 密 密 活 を 密 活 を を 密 活 を を を を を を を を を を を を を	・長石・雲母  を少量、Imm  たり量、Imm  におすかに  ・長石含む	1/4 底部-体部 1/4 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3	6 年
26-5 土牌部	16-26 17-1 1区 18-1 1区 21-1 21-2 21-3 21-4 21-5 21-6 23-1 25-1 25-1 25-2 25-3 1区 規載 23-2 25-1 25-2 25-3 25-2 25-3 26-6 26-6 27-6 28-6 28-6 28-6 28-6 28-6 28-6 28-6 28	土飾器 朝鮮系 企属製品 連 参 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素	面面 的 一面 不	金属 遺器種 蓋 环	(6.0) 8.4 (10.8) (10.8) (10.8) (11.0) (16.2) 土製品	(1.1) (1.2) 8.1 8.1 底径 (5.1) 8.8 (3.4) - - - - - - - - - - - - - - - - - - -	内国転送 内内 内内 内内 内内 内内 内内 内内 内内 内内 内	ナデ ナデ、回転糸切痕 ナデ、回転糸切痕 ナデ、回転糸切痕 ナデ、2条の沈線 	編 5 手法の特徴 リ後ナデ 法量(m) 最大幅 (3.2) 外径0.9		内外 植色 7.5YR7/6 内外 灰色 N6/  厚さ 1.1	重量(g) 17.72	世	・長石・雲母 を少量、Imm 石わずかに ・長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石含む ・日かような ・日かまる。 ・日かなる。 ・日かな。 ・日かなる。 ・日かなる。 ・日かなる。 ・日かなる。 ・日かなる。 ・日かなる。 ・日かな。 ・日かな。	1/4 底部-体部 1/4 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3	6c末~7c初
26-6   須思部   類   -	16-26 17-1 1区 18報 番号 18-1 21-1 21-2 21-3 21-4 21-5 21-6 23-1 25-1 25-1 25-1 25-2 25-3 1区 38-8 48-9 23-2 25-4 26-1 26-2 26-3 26-2 26-3	土飾器 朝鮮系 種類 金属	皿 面台	金属 遺器種 蓋 环	(6.0) 8.4 (2.10) 8.4 (	(1.1) (1.2) 8.1 8.1 6.5 (5.1) - - (5.1) - - 8.8 (3.4) - - - - - - - - - - - - - - - - - - -	内国転換 内内外に対象 高。 タリー 第二。 3.2 リー (1.6) リー (1.6) リー (1.7) リー	ナデ ナデ、回転糸切痕 ナデ、回転糸切痕 ナデ、2条の沈線	編 5 手法の特徴 リ後ナデ 法量(m) 最大幅 (3.2) 外径0.9		内外 植色 7.5VR7/6 内外 灰色 N6/  厚さ 1.1  -	重量(g) 17.72	世 Imm以下の石英 含む 0.5~5mmの石倉 以下の長石含む 以下の長石含む を 密 密 部 1mm以下の石英 密 密 1mm以下の石英 密 密 1mm以下の石英 密 1mm以下の石英 密 1mm以下の石英 密 1mm以下の石英 の 5.5mm以下の石英 密 1mm以下の石英 の 5.5mm以下の石英 の 1mm以下の石英 1mm以下の石英 1mm以下の石英 2mm以下の石 2mm以下の石 2mm以下の石 2mm以下の石 2mm以下の石 2mm以下の石 2mm以下の石 2mm以下の石 2mm以下の石 2mm以下の石 2mm以下の石 2mm 2mm 2mm 2mm 2mm 2mm 2mm 2m	・長石・雲母 変少量、Imm 石わずかに ・長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石っと ・長石っと ・長石っと ・長石っと ・長石っと ・長石っと ・長石っと ・長石っと ・長石っと ・たち、一大、一大、一大、一大、一大、一大、一大、一大、一大、一大、一大、一大、一大、	1/4 底部-体部 1/4 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3	66末~7c初 備考 - 古墳後期 出雲5~6期(7cft) 古墳後期 出雲5~6月(7cft) 古墳8項 出雲5~6月(7cft) 広東線 西丁園V期 (19c) 震器系 5型(13c前半) 在地 (6左2) 大学府編年 IV類 (11c末~12c後期) 中世 古墳 - 古墳 - 古墳 - 古墳 - 古墳 - 古墳 - 古墳 古墳 - 古墳 - 古墳 - 古代末か
26-7   剛部	16-26 17-1 1区 18報 番号 18-1 21-1 21-2 21-3 21-4 21-5 21-6 23-1 25-1 25-1 25-1 25-2 25-3 1区 38-8 48-9 23-2 25-4 26-1 26-2 26-3 26-2 26-3	土飾器 ・	面白 医器 數 体 理 與 政 成 級 两 两 两 器 器 器 器 器 数 段 與 成 機 種 製 製 製	金属 遺器種 蓋 环	(6.0) 8.4 (2.10) 8.4 (	(1.1) (1.2) 8.1 8.1 8.1 (5.1) - - - (5.1) - - - - - - - - - - - - - - - - - - -	内国転送 (4.0)	ナデ ナデ、回転糸切痕 ナデ、回転糸切痕 ナデ、2条の沈線	編 5 手法の特徴 リ後ナデ 法量(m) 最大幅 (3.2) 外径0.9		内外 植色 7.5YR7/6 内外 灰色 N6/ 厚さ 1.1	重量(g) 17.72	世	・長石・雲母 を少量、Imm  「長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石合む ・長石合む ・長石合む ・長石合む ・長石合む ・長石っ雲 石丘・雲母合 英・長石・雲	1/4 底部一体部 1/4 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3	66年~7c初
	16-26 17-1 1区 18-1 18-1 18-1 18-1 18-1 21-1 21-2 21-3 21-4 21-5 21-6 23-1 25-1 25-3 1区 25-4 23-2 25-3 1区 25-4 25-6 23-1 25-7 25-7 25-7 25-7 25-7 25-7 25-7 25-7	土飾器 ・	面 的 一	金属 遺器種 蓋 环	(6.0) 8.4 (2.10) 8.4 (	(1.1) (1.2) 8.1 8.1 6.5 (5.1) 	内国転換 内内 内内 内内 内内 内内 内内 内内 内内 内内 内	ナデ ナデ、回転糸切痕 ナデ、回転糸切痕 ナデ、2条の沈線	編 5 手法の特徴 リ後ナデ 法量(m) 最大幅 (3.2) 外径0.9		内外 植色 7.5VR7/6 内外 灰色 N6/  厚さ 1.1  -	重量(g) 17.72 (17.	世	・長石・雲母 を少量、Imm  「長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石合む ・長石合む ・長石合む ・長石合む ・長石合む ・長石っ雲 石丘・雲母合 英・長石・雲	1/4 底部~体部 1/4 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3	66年~7c初
	16-26 17-1 1区 18年	土飾器	面白 医	金属 遺器種 蓋 环	(6.0) 8.4 (2.10) 8.4 (	(1.1) (1.2) 8.1 8.1 6.5 度極 (5.1) - 8.8 (3.4) 	内国転換 内国転換 内内 内内 内内 内内 内内 内内 内内 内内 内内 内	ナデ ナデ、回転糸切痕 ナデ、回転糸切痕 ナデ、2条の沈線	編 5 手法の特徴 リ後ナデ 法量(m) 最大幅 (3.2) 外径0.9		内外・板色 7.5YR7/6 内外・灰色 N6/  厚さ 1.1	重量(g) 17.72 (17.	世	・長石・雲母 を少量、Imm  「長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石含む ・長石合む ・長石合む ・長石合む ・長石合む ・長石合む ・長石っ雲 石丘・雲母合 英・長石・雲	1/4 底部~体部 1/4 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 2/3 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8	66末~7c初 備考 占項後用 出選5~6期(r)cf(と) 占項後用 出選5~6期(r)cf(と) 比京60 肥前 九駒 V 期 (19c) 愛器系 5型(13c前半) 在地 (が走分) 大字府編年 IV 類 (11c末~12c後第) 中世 古墳 備考 備考

26-9	陶器	甕	-	-		k:施釉 B:ナデ		外:オリーブ黄 内:暗褐色 7.51		密		頸部 1/8以下	瓷器系 常滑7型式(14c前半)	
26-10	陶器	鉢	(31.2)	-		1外:ナデ		内外:暗褐色 7.		l mm前 量含む	後の石英・長石を少	口縁部~胴部 1/8	瓷器系 越前 Ⅲ-1期か(1290~1320年)	
26-11	陶器	描鉢	(34.2)	-		:回転ナデ		内外:暗褐色 5	YR3/4	密		口縁部	備前 乗岡編年	
26-12	土師器	坏	_	(5.0)	(3.4) 外	1:回転ナデ、5本以上の擂目 1:回転ナデ、回転糸切痕		内外:浅黄橙色	7 5YR8/4	石英・長	石を若干含む	1/8	中世5~6期(15c後半~16c末) 八峠編年	
26-13	土師器	Ш		(5.0)	I P	1:回転ナデ  :回転ナデ、回転糸切痕		内外:浅黄橙色			以下の石英・長石含	底部~体部	中世Ⅲ期(13c~14c)	
			-		[A	3:回転ナデ  -:回転ナデ、回転糸切痕				む 0.5mml)	以下の・石英・長	1/5 底部~胴部	八峠編年	
26-14	土師器	坏	-	(5.1)	44	3:回転ナデ  :回転ナデ、回転糸切痕		内外:浅黄色 2. 外:灰白色 10Y		石・雲母 1mm前行	ł含む 後の石英・砂粒を若	2/5	中世Ⅱ期(12c~13c)	
26-15	土師器	坏	12.0	6.8	3.4 内	3:回転ナデ 4:回転ナデ、回転糸切痕		内:浅黄橙色 10	DYR8/3	干含む			八峠編年 中世Ⅲ期(13c~14c)	
26-16	土師器	坏	12.0	6.2	3.3 内	回転ナデ :回転ナデ :回転ナデ、回転糸切痕		内外:浅黄橙色	四年(英典恒世 10186/3			完形	八峠編年 中世Ⅲ期(13c~14c)	
26-17	土師器	坏	11.9	7.0	3.5	!:回転ナデ		内外:浅黄橙色	10YR8/3	少々含む	後の石英・砂粒を ♪	完形	八峠編年 中世Ⅲ期(13c~14c)	
26-18	土師器	Ш	(7.2)	(5.6)	1.6	l:回転ナデ、回転糸切痕、条線 l:回転ナデ		内外:橙色 5YR	6/6	長石を着	汗含む	1/3		
26-19	土師器	Ш	(7.4)	5.8	1.5 内	ł:回転ナデ、回転糸切痕、条線 3:回転ナデ		内外:橙色 5YR	6/8	黒・赤色	の砂粒を若干含む	2/5		
26-20	土師器	Ш	(7.6)	(6.2)		-回転ナデ、回転糸切痕  :回転ナデ		外:橙色 5YR6/ 内:橙色 5YR7/		砂粒を老	汗含む	1/5		
26-21	土師器	Ш	(7.3)	(5.5)	13 外	:回転ナデ、回転糸切痕 3:回転ナデ		内外:橙色 5YR		石英・長	石を少し含む	2/5		
26-22	土師器	Ш	(7.7)	(4.6)	1 15 外	:回転ナデ、回転糸切痕  :回転ナデ		内外:浅黄橙色	10YR8/4	0.5mm以 量含む	以下の石英・長石少	□縁部~底部 1/6		
26-23	土師器	Ш	(7.8)	(5.6)	1 15 外	:回転ナデ、回転糸切痕		内外:橙色 5YR	6/6	0.5mml	以下の長石少量、雲	1/3		
26-24	土師器	ш	(8.4)	(6.8)	10 外	3:ナデ -:回転ナデ、回転糸切痕		内外:浅黄橙色			5英1点、1mm以下	1/3		
26-25	土師器		(7.2)	(5.8)	n 9 外	1:回転ナデ 1:回転ナデ、回転糸切痕		内外:浅黄橙色		1mm以	雲母含む 下の石英・長石・雲	1/3	底部の一部に煤?付着	
26-26	土師器	III.	7.4	3.2	P:	3:回転ナデ h:ナデ、指頭圧痕		内外:浅黄橙色		母少量含	む 下の石英・長石含む	完形	手づくね	
				3.2	1.9 内	l:ナデ、ナデ上げ l:指頭圧痕					大下の石英・長石さむ	口縁部~胴部		
26-27	土師器	III.	(11.1)	-	(2.3) JA	l:ナデ k:染付 菊花文		内外:灰白色 10		雲母少量		1/8以下 底部~胴部	手づくね	
27-1	磁器	碗	-	-	(2.0) 内	:・飛り 初心人  :施軸  :染付 草文		素地:灰白色 N		密		1/3	肥前 九陶IV期 18c代	
27-2	磁器	碗	-	(3.5)		1:施釉		素地:灰白色 N	8/	密		1/3	肥前 九陶IV期 18c代	
27-3	陶器	碗	(10.3)	-	(4.8) 内	9外:施釉		内外:明緑灰色		密		口縁部~胴部 1/8以下	布志名 19c~	
27-4	陶器	Ш	8.2	4.5		k:施釉、回転糸切痕 k:施釉		5YR5/8	YR3/3 明赤褐色	0.5mml) ව	以下の石英・長石含	完形	布志名(来待釉) 近世~近代	
2区	1面より。	上層出土	金属	製品		3-DE-718		内:暗赤褐色 5YR3/3		_	-		ALI- ALIX	
掲載番号	種類	器種			口径	法量(cm) 底径		器高 重量(g)		備考			備考	
28-1	金属 製品				5.6	1.8		2.4 13.83						
2区 掲載		上層出土	石製	品		法量(cm)								
番号	種類	器種		Ę	大長	最大幅		更量(g)					備考	
						(10.8)								
29-1		金床石か		(	15.6)	(10.8)		(9.5)	(2.285)					
1区 掲載	1面より	上層出土	3	法量(cm)				(9.5)			胎土	残存	備者	
1区 掲載 番号	1面より	上層出土 器種	口径		器高	(10.8) 調整・手法の特徴 *ナデ、縦方向のハケメ、5条の凹筋	t	(9.5) 外:にぶい黄橙	色調	1mm以	胎土	残存 □縁部~頸部	備考 松本N様式	
1区 掲載 番号 30-1	1面より 種類 弥生土器	上層出土 器種 広口壺	) 口径 (23.0)	法量(cm) 底径	器高 (4.8) 外	調整・手法の特徴	ī Īt文	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙	色調 色 10YR6/4 色 10YR5/3	母を少量	下の石英・長石・雲	口縁部~頸部 1/8以下	松本IV様式 弥生中期後葉	
1区 掲載 番号 30-1	種類 が生土器 弥生土器	上層出土 器種 広口壷 高坏	) 口径 (23.0)	法量(cm)	器高 (4.8) 外 (3.6) 外	   調整・手法の特徴   東ナデ、縦方向のハケメ、5条の凹絡   東ナデ、横方向のハケメ後ナデ、1条   4名の沈線文   ましばり目あり	ī Īt文	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙 内外:浅黄橙色	色調 色 10YR6/4 色 10YR5/3 10YR8/4	母を少量 2mm以 粒多く含	下の石英・長石・雲 計含む 下の石英・長石・砂	口縁部〜頸部 1/8以下 1/8以下	松本IV様式 弥生中期後葉 弥生中期	
1区 掲載 番号 30-1 30-2 30-3	種類 種類 弥生土器 弥生土器 土師器	上層出土 器種 広口壷 高坏	) 口径 (23.0)	法量(cm) 底径 - -	器高 (4.8) 外 (3.6) 外 (3.0) 外	調整・手法の特徴 ホナデ、縦方向のハケメ、5条の凹筋 北ナデ、横方向のハケメ後ナデ、1条 4条の沈解文 ましぼり目あり ホナデ ペーラケズリ	ī Īt文	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙 内外:浅黄橙色 内外:浅黄橙色	色調 色 10YR6/4 色 10YR5/3 10YR8/4	母を少量 2mm以 粒多く含 3mm以 含む	下の石英・長石・雲 は含む 下の石英・長石・砂 たむ	口縁部〜頸部 1/8以下 1/8以下 野部 1/8以下	松本V様式 弥生中期後葉 弥生中期 単純口縁 古墳中期	
1区 掲載 番号 30-1	種類 が生土器 弥生土器	上層出土 器種 広口壷 高坏 裹	) 口径 (23.0)	法量(cm) 底径 - -	(4.8) 外 (3.6) 外 (3.0) 内 (5.8) 外	調整・手法の特徴 ホナデ、縦方向のハケメ、5条の凹筋 ホナデ、横方向のハケメ後ナデ、1条 4名条の沈線文 ましばり目あり ホナデ	ī Īt文	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙 内外:浅黄橙色 内外:浅黄橙色 外:橙色 7.5YRi 内:黄橙色 10Y	色調 色 10YR6/4 色 10YR5/3 10YR8/4 10YR8/4 6/6 R8/6	母を少量 2mm以 粒多く含 3mm以 含む 0.5mm以 雲母含む	下の石英・長石・雲 社合む 下の石英・長石・砂 おむ 下の石英・長石・し 以下の石英・長石・	口縁部〜頸部 1/8以下 1/8以下 頸部	松本IV様式 弥生中期後葉 弥生中期 単純口縁	
1区 掲載 番号 30-1 30-2 30-3	種類 種類 弥生土器 弥生土器 土師器	上層出土 器種 広口壷 高坏	) 口径 (23.0)	法量(cm) 底径 - -	(4.8) 外 (3.6) 外 (3.0) 外 (5.8) 外 (4.6)	調整・手法の特徴 ホナデ、縦方向のハケメ、5条の凹筋 ホナデ、横方向のハケメ後ナデ、1条 4条の辻際グ ましぼり目あり ナナデ ネーラケズリ ナナデ ホナデ、絞り目	ī Īt文	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙 内外:浅黄橙色 内外:浅黄橙色 外:橙色 7.5YRi	色調 色 10YR6/4 色 10YR5/3 10YR8/4 10YR8/4 6/6 R8/6	母を少量 2mm以 粒多く含 3mm以 含む 0.5mm以 雲母含む	下の石英・長石・雲 は含む 下の石英・長石・砂 はむ 下の石英・長石・砂 大の石英・長石少し 以下の石英・長石・	口縁部~頸部 1/8以下 1/8以下 頸部 1/8以下 脚部	松本IV様式 弥生中期後葉 弥生中期 単純口縁 古墳中期 古墳	
1区 掲載 番号 30-1 30-2 30-3 30-4	1面より。 種類 弥生土器 弥生土器 土師器 土師器	上層出土 器種 広口壺 高坏 褒 高坏	; 口径 (23.0) - -	法量(cm) 底径 - -	器高 (4.8) 外 (3.6) 外 (3.0) 内 (5.8) 内 (4.6)	調整・手法の特徴 ホナデ、縦方向のハケメ、5条の凹略 ホナデ、横方向のハケメ後ナデ、1条 キイ条の沈線文 としばり目あり ホナデ ホナデ ホナデ、数り目 上回転ナデ、回転へラケズリ 上回転ナデ、回転へラケズリ	ī Īt文	外:にぶい黄橙 内:にぶい黄橙 内外:浅黄橙色 内外:浅黄橙色 外:橙色 7.5YRi 内:黄橙色 10Y	色調 色 10YR6/4 色 10YR5/3 10YR8/4 10YR8/4 6/6 R8/6	母を少量 2mm以 粒多く含 3mm以 含む 0.5mm以 雲母含む 1mm以	下の石英・長石・雲 社合む 下の石英・長石・砂 おむ 下の石英・長石・し 以下の石英・長石・	口縁部~頸部 1/8以下 1/8以下 頸部 1/8以下 脚部 1/2	松本IV様式 弥生中期後葉 弥生中期 単純口縁 占墳中期 占墳 占墳 (7c中薬-第3四半期)	
1区 掲載 番号 30-1 30-2 30-3 30-4 30-5	種類 添生土器 弥生土器 土師器 土師器 土師器	上層出土 器種 広口壺 高坏 喪 高坏 土製支	; 口径 (23.0) - -	法量(cm) 底径 - - (10.0)	器高 (4.8) 外 (3.6) 外 (3.0) 外 (5.8) 外 (4.6) (1.5) 外 (3.5) 外 (4.6)	調整・手法の特徴  ホナデ、縦方向のハケメ、5条の凹略  北ナデ、横方向のハケメ後ナデ、1条  北イ深の沈線文  よしばり目あり  ホナデ  ホナデ  ホナデ  北ナデ、数り目  上回転ナデ、回転ヘラケズリ  上回転ナデ、ヘラケズリ  上回転ナデ、ヘラケズリ	ī Īt文	外にぶい黄橙 内にぶい黄橙 内外:浅黄橙色 内外:浅黄橙色 内・浅黄橙色 10Y 橙色 7.5YRG/6	色調 色 10YR6/4 色 10YR5/3 10YR8/4 10YR8/4 6/6 R8/6 5	母を少量 2mm以 粒多くさ 3mm以 含む 0.5mm以 要母さむ 1mm以 母含む 密	下の石英・長石・雲 含む 下の石英・長石・砂 たち 下の石英・長石少し 以下の石英・長石・雲 下の石英・長石・雲 以下の長石少量含む	口縁部~頸部 1/8以下 1/8以下 頸部 1/8以下 脚部 1/2 1/8以下	松本IV様式 弥生中期後葉 弥生中期 単純口縁 古墳中期 古墳 古墳 古墳 古墳 西墳後期 出雲6b~6c	
1区 掲載 番号 30-1 30-2 30-3 30-4 30-5	1面より 種類 弥生土器 弥生土器 土師器 土師器 土師器	上層出土 器種 広口壺 高坏 悪 高坏 土製支 脚 蓋	; 口径 (23.0) - - -	法量(cm) 底径 - - (10.0)	(4.8) 外 (3.6) 外 (3.0) 外 (5.8) 外 (4.6) (1.5) 外 (4.3) 内	調整・手法の特徴 まナデ、縦方向のハケメ、5条の凹筋 まナデ、横方向のハケメ、5条の凹筋 まナデ、横方向のハケメ後ナデ、1条 44条の沈線と ましばり目あり まナデ メナデ、絞り目 **回転ナデ、回転ヘラケズリ は回転ナデ、回転ヘラケズリ は回転ナデ と回転ナデ、参止ナデ を持ちます。ヘラケズリ	ī Īt文	外にぶい黄橙 内にぶい黄橙 内外・浅黄橙色 内外・浅黄橙色 内外・浅黄橙色 10Y 橙色 7.5YR6/6 内外・灰白色 N	色調 色 10YR6/4 色 10YR5/3 10YR8/4 10YR8/4 66 676 676 677/	母を少量 2mm以 粒多くさ 3mm以 含む 0.5mm以 要母さむ 1mm以 母含む 密	下の石英・長石・雲 注合む 下の石英・長石・砂 だ 下の石英・長石少し 以下の石英・長石・雲 下の石英・長石・雲	口縁部~頸部 1/8以下 1/8以下 頸部 1/8以下 脚部 1/2 1/8以下	松本IV様式 旁生中期後葉 旁生中期 単純口縁 古墳中期 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳	
1区 掲載 番号 30-1 30-2 30-3 30-4 30-5 30-6	1面より 種類 弥生土器 弥生土器 土師器 土師器 土師器 土師器 丸恵器 須恵器	上層出土 器種 広口壺 高环 裹 高环支脚 蓋 蓋 裹 裹	) 口径 (23.0) - - - - (9.8)	法量(cm) 底径 - - (10.0)	(4.8) 外 (3.6) 外 (3.0) 内 (5.8) 外 (4.6) (1.5) 外 (4.3) 内 (4.3) 内 (9.2) 列	調整・手法の特徴 ホナデ、縦方向のハケメ、5条の凹筋 ホナデ、横方向のハケメ、5条の凹筋 オナデ、横方向のハケメ後ナデ、1条 4人条の沈線と よしばり目あり ホナデ ホーラケズリ まナデ、較り目 上回転ナデ、回転へラケズリ と回転ナデ、のラケズリ に回転ナデ、がラケズリ	ī Īt文	外にぶい黄橙内:にぶい黄橙内:にぶい黄橙内外:浅黄橙色 内外:浅黄橙色 10Y 橙色 7.5YR6/6 内外:灰白色 N 内外:灰白色 N 内外: 英灰色 2.	色調 色 10YR6/4 色 10YR5/3 10YR8/4 10YR8/4 66 68/6 87/ 57/	母を少量 2mm以 粒多く含 3mm以 含む 0.5mm以 雲母含む 1mm以 母含む で 0.5mm以 日含む	下の石英・長石・雲 含む 下の石英・長石・砂 たち 下の石英・長石少し 以下の石英・長石・雲 下の石英・長石・雲 以下の長石少量含む	口縁部〜頸部 1/8以下 1/8以下 頸部 1/8以下 脚部 1/2 1/8以下 蓋部1/6	松本IV様式 弥生中期後葉 弥生中期 甲純口緑 古墳中期 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳後期 出雲6b~6c (7c中楽・第3四半期) 古墳後期 出雲6期(7c代) 古墳	
1区 掲載 30-1 30-2 30-3 30-4 30-5 30-6 30-7	1面より 種類 弥生土器 弥生土器 土師器 土師器 土師器 土師器 須恵器 須恵器	上層出土 器種 広口竜 高环 裹 高环 支脚 蓋 蓋 裹	   口径   (23.0)   -   -   -   -   (9.8)   -	去量(cm) 底径 - - (10.0) - -	器高 (4.8) 外 (3.6) 外 (5.8) 外 (5.8) 外 (4.6) (1.5) 外 (4.3) 内 (4.3) 内 (8.2) 外 (8.2)	調整・手法の特徴 まナデ、縦方向のハケメ、5条の四筋 まナデ、横方向のハケメ、5条の四筋 まナデ、横方向のハケメ後ナデ、」条 ましばり目あり ナナデ シーラケズリ ・ナデ というが、カード ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ī Īt文	外にぶい黄橙 内外:浅黄橙色 内外:浅黄橙色 内外:浅黄橙色 10Y 樹色 7.5YR6/4 内外:英田色 N 内外:黄灰色 2	色調 色 10YR6/4 色 10YR5/3 10YR8/4 10YR8/4 6/6 R8/6 3 7/ 5Y6/1 .5Y6/1	母を少量 2mm以 粒多く含 3mm以 含む 0.5mm以 雲母含む 1mm以 母含む で 0.5mm以 日含む	下の石英・長石・雲 合む 下の石英・長石・砂 むた。長石・砂 で下の石英・長石・砂 での石英・長石・雲 以下の石英・長石・雲 以下の長石少量合む 下の石英・長石・型 以下の長石少量合む	口縁部~頸部 1/8以下 1/8以下 頸部 1/8以下 脚部 1/2 1/8以下 蓋部1/6 1/4	松本IV様式 旁生中期後葉 旁生中期 単純口緑 古墳中期 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳	
1区 掲載 番号 30-1 30-2 30-3 30-4 30-5 30-6 30-7 30-8	1面より 種類 外生土器 外生土器 土師器 土師器 土師器 丸恵器 須恵器 須恵器	上層器種 広 高 聚 高 聚 聚 高 好 高 聚 聚 高 好 喜 蒸 聚 聚 高 好 高 新 聚 聚 高 好 高 新 聚 聚 高 好 高 新 聚 聚 高 好 高 新 图 表 一 表 表 表 图 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表	   口径   (23.0)   -   -   -   -   (9.8)   -	底径 - - (10.0)	(4.8) 外内外内(3.6) 外内外内(5.8) 内内内内(5.8) 内内内内内(5.8) 内内内内内(5.8) 内内内内内(6.3) 内内内内内(6.3) 内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内	調整・手法の特徴 ホナデ、縦方向のハケメ、5条の四筋 まナデ、横方向のハケメ、5条の四筋 まナデ、横方向のハケメ後ナデ、1条 まとばり目あり ナナデ メーラケズリ ナナデ 、シーラケズリ 上回転ナデ、回転ヘラケズリ 上回転ナデ、ペラケズリ 担手デ・、ベラケズリ 担手デ・デ、かけ、アラケズリ 担手デ・デ・ルーデーが を称う日クタキ 上回心円タタキ 上四心円タタキ	ī Īt文	外にぶい黄檀 内にぶい黄檀 内外、浅黄檀色 内外、浅黄檀色 外、檀色 7.5YR 6/6 内外、灰白色 N 内外、黄灰色 2 内外、黄灰色 2	色調 色10YR6/4 位10YR5/3 10YR8/4 10YR8/4 10YR8/4 6/6 77/ 5Y6/1 .5Y6/1 .5Y6/1 .5Y6/1	母を少量 2mm以 粒多く含 3mm以 含む 0.5mm以 母合む 1mm以 母合む 密 0.5mm以 母合む 密 0.5mm以 母合む 密 0.5mm以 母合む 密 0.5mm以 日本 0.5mm 1.	下の石英・長石・雲 合む 下の石英・長石・砂 むた。長石・砂 で下の石英・長石・砂 での石英・長石・雲 以下の石英・長石・雲 以下の長石少量合む 下の石英・長石・型 以下の長石少量合む	口縁部~頸部 1/8以下 1/8以下 頸部 1/8以下 脚部 1/2 1/8以下 蓋部1/6 1/4 1/8以下	松本IV様式 弥生中期後葉 弥生中期 単純口縁 古墳中期 古墳 古墳 古墳後期出雲65~6c (7c中葉・第3四半期) 古墳後明 出雲6期(7c代) 古墳 同府第7~8型式か (10c~11:前半) 国府第7~8型式か	
1区 掲載 番号 30-1 30-2 30-3 30-4 30-5 30-6 30-7 30-8 30-9 30-10	1面より 種類 弥生土器 土師器 土師器 土師器 須恵器 須恵器 須恵器 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	上層 器種 広口	   口径   (23.0)   -   -   -   -   (9.8)   -	底径 - - ((10.0)	(4.8) 内外 (3.6) 内外 (5.8) 内外 (4.6) (4.5) 内外 (4.6) (4.3) 内外 (4.6) (4.3) 内外 (4.7)	調整・手法の特徴 まナデ、縦方向のハケメ、5条の凹筋 まナデ、横方向のハケメ、5条の凹筋 まナデ、横方向のハケメ後ナデ、」条 ましばり目あり ナナデ セヘラケズリ キナデ、シーカースリ 担利転ナデ、回転ハラケズリ 担利転ナデ、のラケズリ とは対すデ、ヘラケズリ とは対すデ、ヘラケズリ とは対すデ、ヘラケズリ と対域ナデ、発止ナデか を格子目タタキ に対いカリタタキ は別心円タタキ は別い円タタキ	ī Īt文	外にぶい黄橙 内内に次、黄橙 内外、浅黄橙色 内外、浅黄橙色 7.5 YR6/6 内外、炭白色 N 内外、黄灰色 2 内外、黄灰色 2 内外、黄灰色 2	色調 色 10YR6/4 色 10YR5/3 10YR8/4 10YR8/4 6/6 R8/6 5 5 77/ 5Y6/1 .5Y6/1 .5Y6/1 YR7/6	母を少量 2mm以 粒多く含 3mm以 含む 0.5mm以 母含む 密 0.5mm以 日本 0.5mm 日本 0.5mm 日本 0.5mm 日本 0.5mm 日本 0.5mm 日本 0.5mm 日本 0.5mm 日本 0.5mm 日本 0.5mm 日本 0.5mm 日本 0.5mm 日本 0.5mm 日本 0.5mm 日本 0.5mm 日本 0.5mm 0.5mm 日 0.5mm 日本 0.5mm 日本 0.5mm 日本 0.5mm 日本 0.5mm 日本 0.5mm 日本 0.5mm 日本 0.5mm 日本 0.5mm 日本 0.5mm 日本 0.5mm 日本 0.5mm 日本 0.5mm 日本 0.5mm 日本 0.5mm 0.	下の石英・長石・雲 含む 下の石英・長石・砂 たの石英・長石・砂 たの石英・長石・安 大の石英・長石・雲 以下の石英・長石・雲 以下の長石少量合む 下の石英・長石少量	口縁部~頸部 1/8以下 1/8以下 頸部 1/2 1/8以下 頸部 1/2 1/8以下 蓋部1/6 1/4 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下	松本IV様式 崇生中期後葉 崇生中期 単純口縁 古墳中期 古墳 古墳 古墳後期 出雲6b~6c (7c中豪・第3四半期) 古墳後期 出雲6期(7c代) 古墳 国府第7~8型式か (10c~11c前半) 国府第7~8型式 (10c~11c前半)	
1区 掲載 番号 30-1 30-3 30-4 30-5 30-6 30-7 30-8 30-9 30-10	1面より 種類 弥生土器 土師器 土師器 土師器 須恵器 須恵器 須恵器 土師器	上層器種 広口 店 褒 斯 製脚 蓋 蓋 褒 褒 高好高好	   口径   (23.0)   -   -   -   -   (9.8)   -	底径 - - (10.0)	器高 (4.8) 内内 (3.6) 内内 (3.0) 内内 (5.8) 内 (4.6) (1.5) 内内 (4.6) (4.7) 内内 (8.2) 内内 (8.2) 内内 (1.7) 内 (1.9) 内内 (1.1) 内内 (1.1) 内内 (1.1) 内内 (1.1) 内内 (1.1) 内内	調整・手法の特徴 まナデ、縦方向のハケメ、5条の凹筋 まナデ、横方向のハケメ、5条の凹筋 まナデ、横方向のハケメ後ナデ、1条 まとばり目あり ナナデ セーラケズリ ナナデ、 回転ハラケズリ 上列転ナデ、 同転ハラケズリ 上列転ナデ、 一 別町転ナデ、 一 別町転ナデ、 一 別・一 アナスリ 上列転ナデ、 一 のカースリ 上列転ナデル トナデ トナデ・インタース トナース トナース トナース トナース トナース トナース トナース トナ	ī Īt文	外にぶい黄檀 内水: 表い黄檀 内外: 浅黄檀色 内外: 浅黄檀色 10y 核檀色 10y 核磨色 10y 内外: 英原色 2 内外: 黄灰色 2 内外: 黄灰色 2 内外: 黄灰色 2 内外: 黄灰色 2 内外: 黄灰色 2	色調 色 10YR6/4 色 10YR5/3 10YR8/4 10YR8/4 6/6 6/6 77/ 5Y6/1 .5Y6/1 1.5Y6/1 YR7/6	母を少量 2mm以 枚多く含 3mm以 含む 0.5mm以 母含む 0.5mm以 母含む 0.5mm以 母含む 0.5mm以 母合む 0.5mm以 名の 2mm以 名の 2mm以 名の 2mm以 名の 2mm以 2mm以 2mm以 2mm以 2mm以 2mm以 2mm以 2mm	下の石英・長石・雲 含む 下の石英・長石・砂 む 下の石英・長石・砂 大下の石英・長石・雲 下の石英・長石・雲 大下の長石少量合む 下の石英・長石少量 大下の長石少量合む 大下の長石少量合む ま石の長石と 大下の長石と 大下の長石と 大下の石英・長石を 大下の石英・長石を 大下の石英・長石を	口縁部~頸部 1/8以下 1/8以下 頸部 1/8以下 脚部 1/2 1/8以下 蓋部1/6 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下	松本IV樣式 崇生中期 華純口解 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 西墳 西墳 西墳 西墳 西墳 西墳 西墳 西墳 西墳 西	
1区 掲載 番号 30-1 30-2 30-3 30-4 30-5 30-6 30-7 30-8 30-9 30-10 30-11 30-12	種類 種類 種類	器種 広口壺 高环 费 高环 土製脚 蓋 蓋 養 费 及后付环商环 费 是台足台付环商	(23.0)   -   -   -   (9.8)   -   -   -	底径	(4.8) 外内 (3.6) 内外内 (3.6) 内外内内 (5.8) 外内 (4.6) (4.5) 内内 (4.7) 内内 (4	調整・手法の特徴 まナデ、縦方向のハケメ、5条の凹筋 まナデ、横方向のハケメ、5条の凹筋 まナデ、横方向のハケメ後ナデ、1条 44条の沈線と ましばり目あり まナデ ペーラケズリ といず とオデ、絞り目 上回転ナデ、回転ヘラケズリ 回転ナデ、回転ペラケズリ に回転ナデ、ペラケズリ に回転ナデ、帰止ナデ、 を移子日タタキ は同心円タタキ は同心円タタキ 外・ナデ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ī Īt文	外にぶい黄檀 内外に高い黄檀 内外・浅黄檀色 外・積色 7.5 YR 内 東黄檀色 107 内外・黄灰色 2 内外・黄灰色 2 内外・黄灰色 2 内外・黄灰色 2 内外・黄灰色 2 内外・黄灰色 2 内外・青灰色 5 内外・青灰色 5	色調 色 10YR6/4 色 10YR8/3 10YR8/4 10YR8/4 6/6 R8/6 3 7/ 5Y6/1 .5Y6/1 .5Y6/1 .YR7/6 B8/1	母を少量 2mm以 教多く含 3mm以 含む 0.5mm以 母含む 0.5mm以 母含む 0.5mm以 合む 0.5mm以 合む 0.5mm以 1mm以 2 2 2 1mm以 1mm以 1mm以 1mm以 1mm以	下の石英・長石・雲 合む 下の石英・長石・砂 む下の石英・長石・砂 は下の石英・長石・火 下の石英・長石・雲 「下の石英・長石・雲 以下の長石少量合む 下の石英・長石・雪 以下の長石少量合む 「下の石英・長石合む 以下の石英を含む いて石英を含む いて石英を含む いの石英、長石の英	口線部~頸部 1/8以下 1/8以下 頸部 1/8以下 脚部 1/2 1/8以下 蓋部1/6 1/4 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下	松本IV様式 崇生中期後葉 崇生中期 単純口縁 古墳中期 古墳 古墳後期 出雲65~6c (7c中葉・第3四半期) 古墳後期 出雲6期(7c代) 古墳 周南第7~8型式か (10c~11c前半) 国府第7~8型式 (10c~11c前半) 国府第5で3型式 (10c~11c前半) 国府第5型式 (8c末~9c前第)	
1区 掲載 番号 30-1 30-2 30-3 30-4 30-5 30-6 30-7 30-8 30-9 30-10 30-11 30-12	種類 殊生土器 外生土器 土飾器 土飾器 土飾器 須恵器 須恵器 須恵器 丸恵器 丸恵器 丸恵器 須恵器 丸恵器 丸恵器 丸恵器 丸恵器 丸恵器 丸恵器 丸恵器 丸	上層出土 器種 広口壺 高环 要 高环 工业 脚 蓋 蓋 要 要 足台瓦奇付环 蓋 坏	(23.0)   -   -   -   (9.8)   -   -   -	底径	(4.8) (4.8) (4.8) (4.8) (4.8) (4.8) (4.8) (4.8) (4.8) (4.8) (4.8) (4.8) (4.8) (4.8) (4.8) (4.8) (4.8) (4.8) (4.7) (4.3) (4.7) (4.9) (4.7) (4.9)	調整・手法の特徴 ホナデ、縦方向のハケメ、5条の四筋 ホナデ、横方向のハケメ、5条の四筋 ホナデ、横方向のハケメ後ナデ、1条 4とほり目あり ナナデ メーラケズリ ナナデ、  は四転ナデ、回転ハラケズリ 上回転ナデ、のラケズリ 上回転ナデ、ボータンでリ 上回転ナデ、ボータンでリ 上回転ナデ、ボータンでリ 上回転ナデ、ボータンでリ 上回転ナデ、ボータンでは 上回心円タタキ 平行タタキを横方向のかき目 上回心円タタキ 外・ナデ 3外、回転ナデ	ī Īt文	外にぶい黄檀 内水、炭黄檀色 内外、浅黄檀色 外、橙色 7.5 YR 6/6 内外、炭白色 N 内外、炭白色 N 内外、黄灰色 2 内外、黄灰色 2 内外、黄灰色 2 内外、黄灰色 2 内外、黄灰色 2 内外、黄灰色 2	色調 色 10YR6/4 色 10YR8/3 10YR8/4 10YR8/4 6/6 R8/6 3 7/ 5Y6/1 .5Y6/1 .5Y6/1 .YR7/6 B8/1	母を少量 2mm以 執多く含 3mm以 含む 0.5mm以 母含む 6 0.5mm以 合む 0.5mm以 合む 0.5mm以 1mm以 合む 0.5mm以 1mm以 1mm以 1mm以 1mm以 1mm以 1mm以 1mm以	Fの石英・長石・雲 合む Fの石英・長石・砂 はFの石英・長石・少 はFの石英・長石・と Fの石英・長石・雲 以下の長石少量合む なFの石英・長石少量 なFの石英・長石少量 なFの石英・長石の量 なFの石英・長石の量 なFの石英・長石の量 なFの石英を含む いの石英を含む いの石英・雲母含む	口縁部~頸部 1/8以下 9 9 1/8以下 9 9 1/2 1/8以下 2 1/8以下 3 4 1/4 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下	松本IV様式 崇生中期 乗生中期 車軽口縁 吉墳中期 吉墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 西古墳後期 出雲6ト-6c (7c中域~第3四半期) 吉墳後期 出雲6期(7c代) 吉墳 古墳 同府第7-8型式 (10~11-向半) 国府第7-8型式 (10~11-向半) 国府第7-8型式 (10~11-向半) 国府第7-8型式 (10~11-向半) 国府第7-8型式 (10~11-向半) 国府第7-8型式 (10~11-向半)	
1区 掲載 番号 30-1 30-2 30-3 30-4 30-5 30-6 30-7 30-8 30-9 30-10 30-11 30-12	種類 種類 種類	上層出土 器種 広口	(23.0)   -   -   -   (9.8)   -   -   -	底径	(4.8) 内外 (3.6) 外外 (3.6) 外外 (4.8) 内外 (5.8) 内外 (4.6) (1.5) 内外 (4.7) 内外 (4.3) 内外 (4.3) 内外 (4.3) 内外 (4.4) 内外 (1.4) 内 (1.4) 内 (1.4	調整・手法の特徴 まナデ、縦方向のハケメ、5条の凹筋 まナデ、横方向のハケメ、5条の凹筋 まナデ、横方向のハケメをサデ、1条 まとばり目あり ナナデ セペラウズリ キナデ、 回転ハラケズリ 上担転ナデ、 のラケズリ 上担転ナデ、 のラケズリ 上担転ナデ、 のラケズリ 上担転ナデ、 のラケズリ 上担転ナデ、 のラケズリ 上担転ナデ、 のラケズリ は四転ナデ・ へラケズリ は四転ナデ・ へラケズリ は四転ナデ・ へラケズリ は四転ナデ・ スランブ は一般・対象 は一般・対象 は一般・大学 は一般・対象 は一般・大学 は一般・対象 は一般・大学 は一般・対象 は一般・大学 は一般・対象 は一般・対象 は一般・対象 は一般・対象 は一般・対象 は一般・大学 に一般・対象 は一般・対象	ī Īt文	外にぶい黄檀 内外に高い黄檀 内外・浅黄檀色 外・積色 7.5 YR 内 東黄檀色 107 内外・黄灰色 2 内外・黄灰色 2 内外・黄灰色 2 内外・黄灰色 2 内外・黄灰色 2 内外・黄灰色 2 内外・青灰色 5 内外・青灰色 5	色調 色 10YR6/4 色 10YR5/3 10YR8/4 10YR8/4 6/6 6/6 8/7// 5/96/1 .5Y6/1 .5Y6/1 YR7/6 B6/1	母を少数 2 mm以	下の石英・長石・雲 作の石英・長石・砂・ が下の石英・長石・砂・ は下の石英・長石・ツ・ は下の石英・長石・雲 大下の長石・雲 大下の長石・墨 大下の長石少量合む 大下の石英・長石合む 大下の石英を含む いの石英、 いの石英、 いの石英、 な目の石英や な目の石英や な目の石英を含む いの石英、 な目の石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英、 な日の石英・ な日の日本 な日本	口縁部~頸部 1/8以下 1/8以下 頸部 1/2 1/8以下 嚢部1/6 1/4 1/8以下	松本IV様式 崇生中期後葉 崇生中期 單純口縁 古墳中期 古墳 古墳 古墳後期 出雲6b~6c (7c中樂-第3四半期) 古墳後期 出雲6期(7cf()) 古墳 同府第7~8型式か (10c~11c前半) 国府第5型式 (0c~11c前半) 国府第5型式 (0c~11c前半) 国府第5型式 (0c~91c前半)	
1区 掲載 番号 30-1 30-2 30-3 30-4 30-5 30-6 30-7 30-8 30-10 30-11 30-12 30-13	種類 種類 落生土器 落生土器 落生土器 大生土器 大生土器 大生土器 大生・器 大生・器 大生・器 大生・器 大生・器 大生・器 利恵と器 利恵と器 利恵と器 利恵と器 利恵と器 利恵と器 利恵と器 利恵と器 土飾器 土飾器 土飾器 利恵と器 土飾器 利恵と器 土飾器 利恵と器 土飾器 利恵と器 土飾器 利恵と器 土飾器 利恵と器 土飾器 利恵と器 土飾器 利恵と器 土飾器 利恵と器 土飾器 利恵と器 土飾器 土飾器 土飾器 土飾器 土飾器 土飾器 土飾器 土飾	上層出土 器種 広口症 高坏 聚 高环 土製更 蓋 蓋 聚 聚 高环红黄色 自足合行高所不 套 水 人名科西西科	1   口径   (23.0)   -   -   -   -     -     -	ま量(m) 底径 - (10.0) (5.9) (8.6)	(4.8) 内外 (5.8) 内外 (5.8) 内外 (5.8) 内外 (5.8) 内外 (5.8) 内外 (5.8) 内外 (6.8)	調整・手法の特徴 ホナデ、縦方向のハケメ、5条の四勝 ホナデ、横方向のハケメ、5条の四勝 オナデ、横方向のハケメをナデ、1条 4人名の沈線と よしばり目あり ホナデ メーラケズリ まカデ、回転ハラケズリ 上回転ナデ、ルラケズリ 上回転ナデ、ルラケズリ 上回転ナデ、からケズリ 上回転ナデ、からケズリ 上回転ナデ、からケズリ 上回転ナデ、からケズリ 上回転ナデ、からかでは にのようない。 はから方向のかき目 と同心円タタキ は明心円タタキ は明心円タタキ は明心円タタキ は明・デ・対象は が、すが、1条では はいまった。 はないまった。 はないまた。 はないま	ī Īt文	外にぶい黄檀 内水、炭黄檀色 内外、浅黄檀色 外、橙色 7.5 YR 6/6 内外、炭白色 N 内外、炭白色 N 内外、黄灰色 2 内外、黄灰色 2 内外、黄灰色 2 内外、黄灰色 2 内外、黄灰色 2 内外、黄灰色 2 内外、黄灰色 2 内外、黄灰色 5 内外、栗色 NG/6 内外、灰色 NG/6 内外、栗色 NG/6 内外、栗色 NG/6 内外、栗色 NG/6	色調 色 10YR6/4 色 10YR5/3 10YR8/4 10YR8/4 10YR8/4 66 68 68 67 7/ 5Y6/1 1.5Y6/1 YR7/6 986/1	母を少数 2 mm以	Fの石英・長石・雲 合む Fの石英・長石・砂 は Fの石英・長石・砂 は Fの石英・長石・空 以下の石英・長石・雲 以下の長石少量合む Fの石英・長石少量 な Fの石英・長石分量 な Fの石英・長石合む は Fの石英・長石合む に Fの石英・長石含む Fの石英を含む Fの石英・雲母含む Fの石英を含む Fの石英・雲母含む Fの石英を含む Fの石英を含む Fの石英を含む Fの石英を含む Fの石英を含む Fの石英を含む Fの石英・雲母含む Fの石英を含む Fの石英を含む Fの石英を含む Fの石英を含む Fの石英を含む Fの石英を含む Fの石英を含む Fの石英を含む Fの石英を含む Fの石英を含む Fの石英・雲母含む Fの石英・雲母含む Fの石英・雲母含む Fの石英・雲母含む Fの石英・雲母含む Fの石英・雲母含む Fの石英・雲母合 Fの石英・雲母合 Fの石英・雲母合 Fの石英・雲母合 Fの石英・雲母合 Fの石英・雲母合 Fの石英・雲母 Fの石英 Fの石英 Fの石英 Fの石英 Fの石英 Fの石 Fの石英 Fの石英	口縁部~頸部 1/8以下 1/8以下 頸部 1/8以下 頸部 1/2 1/8以下 蓋部1/6 1/4 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下	松本IV様式 弥生中期後葉 弥生中期後葉 弥生中期 世華口縁 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 西墳後期 出雲6b~6c (7c中楽・第3四半期) 古墳を期 出雲6期(7c代) 古墳 国府第7~8型式か (10~~11c前半) 国府第7~8型式 (10~11c前半) 国府第7~8型式 (10~11c前半) 国府第7・8型式 (10~11c前半) 国府第1型式(7c後集) 中世 (16cまでのところ) 八齢編年	
1区 掲載 番号 30-1 30-2 30-3 30-6 30-7 30-8 30-10 30-11 30-12 30-13 30-14	種類 種類 外生土器 外生土器 大生物器 土師器 利息器 利息器 利息器 利息器 利息器 利息器 利息器 利息器 利息器 利息	上層出土 器種 広口電 高环 要 高环 支 高环 支 整 養 要 要 高所 数 養 養 養 要 着 后 向 行 后 行 行 后 行 行 后 行 任 行 任 合 行 任 合 任 行 任 合 任 合 任 方 任 方 任 方 任 方 任 方 任 方 任 方 任 方	1   口径   (23.0)   -   -   -   -   -   -   -   -   -   -	底径 (10.0) (5.9) (8.6)	(4.8) 内外 (4.6) 内外 (4.7) 内外 (4.2) 内外 (4	調整・手法の特徴 まナデ、縦方向のハケメ、5条の凹筋 まナデ、横方向のハケメ、5条の凹筋 まナデ、横方向のハケメをサデ、1条 まとばり目あり ナナデ セペラウズリ キナデ、 回転ハラケズリ 上担転ナデ、 のラケズリ 上担転ナデ、 のラケズリ 上担転ナデ、 のラケズリ 上担転ナデ、 のラケズリ 上担転ナデ、 のラケズリ 上担転ナデ、 のラケズリ は四転ナデ・ へラケズリ は四転ナデ・ へラケズリ は四転ナデ・ へラケズリ は四転ナデ・ スランブ は一般・対象 は一般・対象 は一般・大学 は一般・対象 は一般・大学 は一般・対象 は一般・大学 は一般・対象 は一般・大学 は一般・対象 は一般・対象 は一般・対象 は一般・対象 は一般・対象 は一般・大学 に一般・対象 は一般・対象	ī Īt文	外にぶい黄檀 内外、浅黄檀色 内外、浅黄檀色 外、橙色 7.5YR6/6 内外、炭质色 2. 内外、黄灰色 2. 内外、黄灰色 2. 内外、黄灰色 2. 内外、黄灰色 5YR 橙色 7.5 内外、青灰色 5 内外、灰色 4.5 内外、灰色 5.5 内外、灰色 2.5	色調 色 10YR6/4 色 10YR5/3 10YR8/4 10YR8/4 10YR8/4 66 68 68 67 7/ 5Y6/1 1.5Y6/1 YR7/6 986/1	最を少報 2mm以	下の石英・長石・雲 作の石英・長石・砂・ が下の石英・長石・砂・ は下の石英・長石・ツ・ は下の石英・長石・雲 大下の長石・雲 大下の長石・墨 大下の長石少量合む 大下の石英・長石合む 大下の石英を含む いの石英、 いの石英、 いの石英、 な目の石英や な目の石英や な目の石英を含む いの石英、 な目の石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英、 な日の石英・ な日の日本 な日本	口縁部~頸部 1/8以下 1/8以下 9頭部 1/8以下 9頭部 1/2 1/8以下 2 1/8以下 3 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 2 1/8以下 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8 1/8	松本IV様式 弥生中期後葉 弥生中期 東純口縁 古墳中期 古墳 古墳後期 出雲65~6c (7c中楽・第3四半期) 古墳後明 出雲6期(7c代) 古墳 高月(7c代) 古墳 高月(7c代) 古墳 同府第7~8型式 (10~~11c前半) 同府第7~8型式 (10~11c前半) 同府第5型式 (8c末~9c前第) 同府第1型式(7c後葉) 中世 (16cまでのところ) 小珍編年 中世N~V 期か(14c~15c)	
1区 掲載 番号 30-1 30-2 30-3 30-6 30-7 30-8 30-9 30-10 30-11 30-12 30-13 30-14 30-15 30-16	種類 種類 外生土器 外生土器 土師器 土師器 土師器 利恵器 利恵器 利恵器 利恵器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 利恵器 土師器 土師器 土世師器 土世師器 土世師器 土世師器 土世師器 土世師器	上層出土 器種 広口報 高环 要 高好 支 高野 蓋 蓋 要 要 高的环 章 要 高的环 章 要 高的环 章 要 系 の 方 の 合 行 の 合 行 の 合 の を 方 の を 方 の の の の の の の の の の の の の の	(9.8) 	志量(m) 底径 - (10.0) - - (5.9) (8.6) - 4.5	日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本	調整・手法の特徴  ホナデ、縦方向のハケメ、5条の四筋  ホナデ、横方向のハケメ、5条の四筋  ホナデ、横方向のハケメをサデ、」条  北上 (本)	ī Īt文	外にぶい黄檀 内外、浅黄檀色 内外、浅黄檀色 外、橙色 7.5YR6/6 内外、炭质色 2. 内外、黄灰色 2. 内外、黄灰色 2. 内外、黄灰色 2. 内外、黄灰色 5YR 橙色 7.5 内外、青灰色 5 内外、灰色 4.5 内外、灰色 5.5 内外、灰色 2.5	色調 色 10YR6/4 色 10YR8/3 10YR8/4 10YR8/4 6/6 R8/6 3 7/ 5Y6/1 .5Y6/1 YR7/6 B6/1 // YR7/6	母を少数 ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (	下の石英・長石・雲 作の石英・長石・砂・ が下の石英・長石・砂・ は下の石英・長石・ツ・ は下の石英・長石・雲 大下の長石・雲 大下の長石・墨 大下の長石少量合む 大下の石英・長石合む 大下の石英を含む いの石英、 いの石英、 いの石英、 な目の石英や な目の石英や な目の石英を含む いの石英、 な目の石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英、 な日の石英・ な日の日本 な日本	口縁部~頸部 1/8以下 第1/8以下 頸部 1/2 1/8以下 蓋部1/2 1/8以下 蓋部1/6 1/4 1/8以下 1/8以下 五/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8 以下	松本IV様式 弥生中期後葉 弥生中期 単純口縁 古墳中期 古墳 古墳を期出雲65~6c (7c中葉・第3四半期) 古墳後期出雲6期(7c代) 古墳 同府第7~8型式か (10c~11-c前半) 国府第78型式 (10c~11-c前半) 国府第3世式(7c後葉) 中世 (16cまでのところ) 八峰編年 中世Ⅳ~V期か(14c~15c)	
1区 掲載 番号 30-1 30-2 30-3 30-4 30-5 30-6 30-7 30-10 30-11 30-12 30-13 30-14 30-15 30-16	種類 種類 外生土器 外生土器 土師器 土師器 紅恵器 須恵器 須恵器 須恵器 須恵器 丸原器 土師器 土師器 土師器 土師器 土師器 丸恵器 須恵器 カ恵器 土師器 土師器 大上師器 カ恵と カ東島 カ東島 カ東島 カ東島 カ東島 カ東島 カ東島 カ東島 カ東島 カ東島	上層出土 器種 広口派 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	(23.0) (10.0)	底径 - (10.0) - (5.9) (8.6) - 4.5	接続   (4.8)   (4.8)   (4.8)   (4.8)   (4.8)   (4.8)   (4.6)   (5.8)   (4.6)   (4.6)   (4.6)   (4.6)   (4.7)	調整・手法の特徴 ホナデ、縦方向のハケメ、5条の凹筋 ホナデ、横方向のハケメ、5条の凹筋 オナデ、横方向のハケメ後ナデ、1条 4名外の沈線と ましばり目あり トナデ、シーク・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア	ī Īt文	外にぶい黄檀 内外、浅黄檀色 内外、浅黄檀色 外、橙色 7.5YR 6/6 内外、黄灰色 2 内外、黄灰色 2 内外、炭色 0.5 内外、灰色 0.5 内外、灰色 0.5 内外、灰色 0.5 内外、板色 0.5 内外 0.5 内 0.5 内外 0.5 内 0.5 内 0.5 内 0.5 内 0.5 内 0.5 内 0.5 内 0.5 内 0.5 内 0.5 内 0.5 内 0.5 内 0.5 内 0.5 内 0.5 内 0.5 内 0.5 内 0	色調 色 10YR6/4 色 10YR8/4 10YR8/4 10YR8/4 6/6 R8/6 3 7/ 5Y6/1 .5Y6/1 .5Y6/1 .7Y7/6 YR7/6 B6/1 / YT/1 YT/1 YT/1 8/	接を少様 Zemml以 校多く含 Zemml以 校多く含 Zemml以 校多く含 Zemml以 対 の Zemml以 対 な の Zemml以 対 な の Zemml以 は な の Zemml以 は な の Zemml に Zemm	下の石英・長石・雲 作の石英・長石・砂・ が下の石英・長石・砂・ は下の石英・長石・ツ・ は下の石英・長石・雲 大下の長石・雲 大下の長石・墨 大下の長石少量合む 大下の石英・長石合む 大下の石英を含む いの石英、 いの石英、 いの石英、 な目の石英や な目の石英や な目の石英を含む いの石英、 な目の石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英、 な日の石英・ な日の日本 な日本	口縁部~頸部 1/8以下 第1/8以下 頸部 1/2 1/8以下 三十/8以下 三十/8 三十/8 三十/8 三十/8 三十/8 三十/8 三十/8 三十/8	松本IV様式 弥生中期後葉 弥生中期 単純口縁 古墳中期 古墳 古墳を期出雲6b~6c (7c中楽・第3四半期) 古墳を明出雲6b(7c代) 古墳 園府第7~8型式か (10c~11c前半) 園府第7~8型式 (10c~11c前半) 園府第7~8型式 (10c~11c前半) 園府第7を8型式 (10c~11c前半) 園府第7型式 (8c末~9c前第) 園府第1型式(7c後葉) 中世 (16cまでのところ) 八砂編年 中世1V~V期か(14c~15c)	
1区 掲載 番号 30-1 30-2 30-3 30-4 30-5 30-7 30-10 30-11 30-12 30-14 30-15 30-16 30-17 30-18 30-19	種類 種類 外生土器 外生土器 外生土器 上師器 土師器 須恵器 須恵器 須恵器 須恵器 須恵器 人師器 土師器 土師器 土師器 土師器 大郎器 大郎器 大郎器 大郎器 大郎器 大郎器 大郎器 大郎器 大郎器 大郎	上層出土 器種 広口派 系 縣 孫 野 縣 高环 聚 縣 高环 數 數 聚 縣 高环 电台程序	(23.0) 	底径 (10.0) (5.9) (8.6) 4.5 (6.2)	接続   (4.8)   (4.8)   (4.8)   (4.8)   (4.8)   (4.8)   (4.6)   (5.8)   (4.6)   (4.6)   (4.6)   (4.6)   (4.7)	調整・手法の特徴 ホナデ、縦方向のハケメ、5条の凹筋 ホナデ、横方向のハケメ、5条の凹筋 ホナデ、横方向のハケメ後ナデ、1条 4とほり目あり ナナデ、シーナ・ナナデ メーラ・ア・ファンリ 上回転ナデ、「回転へラケズリ 上回転ナデ、「ラケスリ 上回転ナデ、「ラケスリ 上回転ナデ、「ラケスリ 上回転ナデ、「カーナー 上回転ナデ、かり上・デか 上回転ナデス・「カーナー に回へリタタキ 上回心円タタキ 上回心円タタキ ・ 194、上回転ナデ ・ 3外、回転ナデ ・ 3外、回転ナデ ・ 3外、回転ナデ ・ 3外、回転ナデ ・ 3外、回転ナデ ・ 3外、回転サデ ・ 3外、回転サデ ・ 3外、回転サデ ・ 3外、回転サデ ・ 3外、原転 ・ 3中、回転系切痕 ・ 3中、原本系切痕 ・ 3中、原本系 ・ 3中・原本系 ・ 3中・原	ī Īt文	外にぶい黄檀色 内外、浅黄檀色 内外、浅黄檀色 外、黄檀色 10 大 外、黄斑色 2 大 内外、黄灰色 2 内外、黄灰色 2 大 内外、灰色 2.5 大 内外、斑 2 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	色調 色 10YR6/4 色 10YR8/4 10YR8/4 10YR8/4 6/6 R8/6 3 7/ 5Y6/1 .5Y6/1 .5Y6/1 .7Y7/6 YR7/6 B6/1 / YT/1 YT/1 YT/1 8/	接を少量 Zemmk/ 検多く含 Zemmk/ をく含 Zemmk/ をと Zemmk/ をと Zemmk/ Zemmk/ Zemmk/ Zemmk/ な	下の石英・長石・雲 作の石英・長石・砂・ が下の石英・長石・砂・ は下の石英・長石・ツ・ は下の石英・長石・雲 大下の長石・雲 大下の長石・墨 大下の長石少量合む 大下の石英・長石合む 大下の石英を含む いの石英、 いの石英、 いの石英、 な目の石英や な目の石英や な目の石英を含む いの石英、 な目の石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英、 な日の石英・ な日の日本 な日本	口縁部~頸部 1/8以下 1/8以下 頸部 1/2 1/8以下 蓋部1/6 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/3 に部 1/2 口縁部 1/3 に解け 1/3 に 1/3 1/3 に 1/3 1/3 1/3 1/3 1/3 1/3 1/3 1/3 1/3 1/3	松本IV様式 崇生中期 東生中期 ・ 電車 ・ 車車 ・ 車車 ・ ・ 車車 ・ 車車 ・ 車車 ・ 車車 ・ ・ 車車 ・ 車車 ・ 車 ・ 車 ・ 車 ・ 車 ・ 車 ・ 車 ・ 車 ・ 車 ・ 車 ・ 車 ・ 車 ・ 車 ・ 車 ・ ・ 車 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	
1区 掲載 番号 30-1 30-2 30-3 30-6 30-7 30-8 30-9 30-10 30-11 30-12 30-13 30-14 30-15 30-16 30-17 30-18 30-18	種類 種類 外生土器 外生土器 外生土器 上師器 土師器 須恵器 須恵器 須恵器 須恵器 須恵器 人師器 土師器 土師器 土師器 土師器 大郎器 大郎器 大郎器 大郎器 大郎器 大郎器 大郎器 大郎器 大郎器 大郎	上層出土 器種 広口報 高 呼 高 呼 高 呼 蓋 蓋 要 要 高 所 列 数 要 数 要 の る う 日 石 ら わ し 石 ら わ し 石 ら ら り 石 に の の の の の の の の の の の の の の の の の の	回径 (23.0) - - - - - - - - - - - - - - - - - - -	底径 (10.0) (5.9) (8.6) 4.5 (6.2)	接続   (4.8)   (4.8)   (4.8)   (4.8)   (4.8)   (4.8)   (4.6)   (5.8)   (4.6)   (4.6)   (4.6)   (4.6)   (4.7)	調整・手法の特徴 ホナデ、縦方向のハケメ、5条の凹筋 ホナデ、横方向のハケメ、5条の凹筋 ホナデ、横方向のハケメをナデ、1条 4とほり目あり ナナデ、シーナ・ナナデ シーラケズリ とはずり目を かっラケズリ とはデナデ、一切を に回転ナデ、一のラケズリ に回転ナデ、一のラケズリ に回転ナデ、一のラケズリ に回転ナデ、ルラケスリ に回転ナデ、ルラケスリ に回転ナデ、ルラケスリ に回転ナデ、ルラケスリ に回転ナデ、カーナーナル に回転ナル・カード・カート・カート・カート・カート・カート・カート・カート・カート・カート・カート	ī Īt文	外にぶい黄檀色 内外、浅黄檀色 内外、浅黄檀色 外、橙色 7.5YR 6/4 内外、炭质色 2.5YR 6/4 内外、炭质色 2.5YR 6/4 内外、黄灰色 2.5YR 6/4 内外、黄灰色 2.5YR 6/4 内外、黄灰色 2.5YR 6/4 内外、灰色 2.5YR 6/4 内外、灰色 2.5YR 6/4 内外、灰色 1.5YR 6/4 内外、灰色 1.5YR 6/4 内外、灰色 1.5YR 6/4 内外、板色 5/4 内外、脚对 1 リー 素地灰白色 Ni 素地灰白色 Ni	色調 色 10YR6/4 色 10YR8/4 10YR8/4 10YR8/4 6/6 R8/6 3 7/ 5Y6/1 .5Y6/1 .5Y6/1 .7Y7/6 YR7/6 B6/1 / YT/1 YT/1 YT/1 8/	接を少量 Zemmk/ 検多く含 Zemmk/ をく含 Zemmk/ をと Zemmk/ をと Zemmk/ Zemmk/ Zemmk/ Zemmk/ な	下の石英・長石・雲 作の石英・長石・砂・ が下の石英・長石・砂・ は下の石英・長石・ツ・ は下の石英・長石・雲 大下の長石・雲 大下の長石・墨 大下の長石少量合む 大下の石英・長石合む 大下の石英を含む いの石英、 いの石英、 いの石英、 な目の石英や な目の石英や な目の石英を含む いの石英、 な目の石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英、 な日の石英・ な日の日本 な日本	口縁部~頸郎 1/8以下 1/8以下 9部 1/8以下 9部 1/2 1/8以下 蓋部1/6 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/3 底部 1/2 口縁部 1/3 に第 1/3 に解す (2 に解す (2 に解す (3 に解す (4 (4 ) (4 (4 ) (4 (4 ) (4 ) (4 ) (4 (4 ) (4 (4 ) (4	松本IV様式 崇生中期 東生中期 ・ 電車 ・ 車車 ・ 車車 ・ ・ 車車 ・ 車車 ・ 車車 ・ 車車 ・ ・ 車車 ・ 車車 ・ 車 ・ 車 ・ 車 ・ 車 ・ 車 ・ 車 ・ 車 ・ 車 ・ 車 ・ 車 ・ 車 ・ 車 ・ 車 ・ ・ 車 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	
1区 掲載 番号 30-1 30-2 30-3 30-6 30-7 30-8 30-10 30-11 30-12 30-13 30-14 30-15 30-16 30-17 30-18 30-18 30-19 1区 7月	種類 種類 弥生土器 非年七器 土師器 土師器 利恵器 利恵器 利恵器 利恵器 利恵器 利恵器 利恵器 利恵	上層出土 器種 広口報 高 呼 高 呼 高 呼 蓋 蓋 要 要 高 所 列 数 要 数 要 の る う 日 石 ら わ し 石 ら わ し 石 ら ら り 石 に の の の の の の の の の の の の の の の の の の	(23.0) 	広量(cm) 直径 (10.0) (10.0) (5.9) (8.6) - 4.5 (6.2) - 3.9 (5.6)	接続   (4.8)   (4.8)   (4.8)   (4.8)   (4.8)   (4.8)   (4.6)   (5.8)   (4.6)   (4.6)   (4.6)   (4.6)   (4.7)	調整・手法の特徴 ホナデ、縦方向のハケメ、5条の四筋 ホナデ、横方向のハケメ、5条の四筋 ホナデ、横方向のハケメをサデ、1条 ましてり目あり ナナデ、レナデ トンテブ、リートンデ、回転ハラケズリ 上回転ナデ、向上ナデ、放り目 上回転ナデ、ホークケズリ 上回転ナデ、ボークケズリ 上回転ナデ、かりとする に回転ナデ、かりとする に回転ナデ、かりとする に回転ナデ、かりとする に回転ナデ、かりとする に回転ナデ、かりとする に回転ナデ、がりに対している はいかりなります。 はいかりないかります。 はいかりないかりないかります。 はいかりないかりないかります。 はいかりないかります。 はいかりないかりないかります。 はいかりないかりないかりないかります。 はいかりないかりないかりないかりないかりないかりないかりないかりないかりないかりな	東文の四線文	外にぶい黄檀性 内外、浅黄檀色 内外、浅黄檀色 内外、浅黄檀色 内外、炭黄檀色 10 内外、黄灰色 2 内外、黄灰色 5 下 内外、黄灰色 2 大	色調 色 10YR6/4 色 10YR8/4 色 10YR8/4 10YR8/4 10YR8/4 6/6 R8/6 3 7/ 5Y6/1 .5Y6/1 .5Y6/1 .7Y7/6 YR7/6 B6/1 / YT7/1 YR7/6 6/6 88/8	最を少量 Zemm以	下の石英・長石・雲 作の石英・長石・砂・ が下の石英・長石・砂・ は下の石英・長石・ツ・ は下の石英・長石・雲 大下の長石・雲 大下の長石・墨 大下の長石少量合む 大下の石英・長石合む 大下の石英を含む いの石英、 いの石英、 いの石英、 な目の石英や な目の石英や な目の石英を含む いの石英、 な目の石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英を含む にの石英、 な日の石英・ な日の日本 な日本	口縁部~頸郎 1/8以下 1/8以下 9部 1/8以下 9部 1/2 1/8以下 蓋部1/6 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/3 底部 1/2 口縁部 1/3 に第 1/3 に解す (2 に解す (2 に解す (3 に解す (4 (4 ) (4 (4 ) (4 (4 ) (4 ) (4 ) (4 (4 ) (4 (4 ) (4	松本IV様式 弥生中期後 弥生中期 毛球中期 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 西墳後期 出雲6b~6c (7c付柴~第3四半期) 古墳 田宮6期(7c代) 古墳 国府第7~8型式 (10~11-6前半) 国府第7-8型式 (10~11-6前半) 国府第7-8型式 (10~11-6前半) 国府第7-8型式 (10~11-6前半) 国府第7-8型式 (10~11-6前半) 国府第7-8型式 (10~11-6前半) 国府第7-8型式 (10~11-6前半) 国府第1型式(7c後糱) 十世 (16cまでのところ) 人峰編年 中世N~V開か(14c~15c) 布志名 19c~ 東前 くらわんか手 九駒V期 18c後半 肥前 九駒V期	
1区 掲載 30-1 30-2 30-3 30-4 30-5 30-6 30-7 30-8 30-10 30-11 30-14 30-15 30-16 30-17 30-18 30-19 1区 番号 31-1	種類 種類 弥生土器 ・ 上師器 ・ 土師器 ・ 主師器 ・ 利恵器 ・ 日本語 ・ 日本語	上層出土 器種 広口派 系 要 高 路 致 要 高 路 致 要 蓋 蓋 要 要 高 路 の を う を う 日 石 ら り 石 ら ら 付 足 ら り に の の の の の の の の の の の の の の の の の の	(23.0) 	広量(m) (10.0) (10.0) (5.9) (8.6) (6.2) (5.6)	接続   (4.8)   (4.8)   (4.8)   (4.8)   (4.8)   (4.8)   (4.6)   (5.8)   (4.6)   (4.6)   (4.6)   (4.6)   (4.7)	調整・手法の特徴 ホナデ、縦方向のハケメ、5条の四筋 ホナデ、横方向のハケメ、5条の四筋 ホナデ、横方向のハケメ、5条の四筋 よナデ、横方向のハケメ後ナデ、1条 よとぼり目あり ナナデ、シークテズリ といず・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	   放文   の四線文	外にぶい黄種性 内外、浸黄種色 内外、浸黄種色 内外、浸黄種色 内外、炭質性色 内外、黄灰色 2 内外、黄灰色 3 内外、黄灰色 4 内外、黄灰色 3 内外、黄灰色 3 内外、黄灰色 3 内外、黄灰色 4 内外、黄灰色 4 内外 黄灰色 4 内外 黄灰色 4 内外 黄灰色 4 内外 黄灰色 4 内外 黄灰色 4 内外 黄灰色 4 内外 黄灰色 4 内外 黄灰色 4 内外 黄灰色 4 内外 黄灰 4 内 野 4 内 春 大 春 大 春 大 春 大 春 大 春 大 春 大 春 大 春 大 春	色調 色 10YR6/4 色 10YR8/4 10YR8/4 10YR8/4 6/6 R8/6 3 3 7// 5Y6/1 .5Y6/1 .5Y6/1 .5Y6/1 /YR7/6 B6/1 /Y7/1 YYR7/6 6/6 5/6 8/8	競を少量	Fの石英・長石・雲 合む Fの石英・長石・砂 はFの石英・長石・砂 はFの石英・長石・型 以Fの石英・長石・雲 以下の長石少量合む 以下の石英・長石少量 以下の長石少量合む 以下の石英を含む いの石英を含む いの石英を含む いの石英を含む いの石英、張石今里 いの石英を含む いの石英を含む いの石英・長石名等	口縁部~頸郎 1/8以下 1/8以下 9部 1/8以下 9部 1/2 1/8以下 蓋部1/6 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/3 底部 1/2 口縁部 1/3 に第 1/3 に解す (2 に解す (2 に解す (3 に解す (4 (4 ) (4 (4 ) (4 (4 ) (4 ) (4 ) (4 (4 ) (4 (4 ) (4	松本IV様式 弥生中期後 弥生中期 毛球中期 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 西墳後期 出雲6b~6c (7c付柴~第3四半期) 古墳 田宮6期(7c代) 古墳 国府第7~8型式 (10~11-6前半) 国府第7-8型式 (10~11-6前半) 国府第7-8型式 (10~11-6前半) 国府第7-8型式 (10~11-6前半) 国府第7-8型式 (10~11-6前半) 国府第7-8型式 (10~11-6前半) 国府第7-8型式 (10~11-6前半) 国府第1型式(7c後糱) 十世 (16cまでのところ) 人峰編年 中世N~V開か(14c~15c) 布志名 19c~ 東前 くらわんか手 九駒V期 18c後半 肥前 九駒V期	
1区 掲載 30-1 30-2 30-3 30-4 30-5 30-6 30-7 30-8 30-10 30-11 30-14 30-15 30-16 30-17 30-18 30-19 1区 31-1 31-1 31-1	種類 種類 弥生土器 ・ 上師器 ・ 土師器 ・ 主師器 ・ 利恵器 ・ 日本語 ・ 日本語 日本	上層出土 器種 広口派 系 要 高 路 致 要 高 路 致 要 蓋 蓋 要 要 高 路 の を う を う 日 石 ら り 石 ら ら 付 足 ら り に の の の の の の の の の の の の の の の の の の	(23.0) 	広量(m) (10.0) (10.0) (5.9) (8.6) (6.2) (5.6) (5.6)	接続   (4.8)   (4.8)   (4.8)   (4.8)   (4.8)   (4.8)   (4.6)   (5.8)   (4.6)   (4.6)   (4.6)   (4.6)   (4.7)	調整・手法の特徴 ホナデ、縦方向のハケメ、5条の四筋 ホナデ、横方向のハケメ、5条の四筋 ホナデ、横方向のハケメ、5条の四筋 よナデ、(横方向のハケメ後ナデ、) 3条 よとほり目あり ナナデ、(シーナン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	東文 の四線文 厚さ(m	外にぶい黄種性 内外、浸黄種色 内外、浸黄種色 内外、浸黄種色 内外、炭質を 内外、炭灰色 2 内外、黄灰色 2 内外、黄灰色 2 内外、黄灰色 2 内外、黄灰色 2 内外、青灰色 2.5 内外、黄灰色 2.5 内外、黄灰色 2.5 内外、黄灰色 2.5 内外、黄灰色 2.5 内外、灰色 2.5 内外、横色 7.5 内外、横色 9.5 内外、横色 9.5 内外、横向 9.5 内外 9.5 内 9.5 内外 9.5 内 9.5 内 9.5 内 9.5 内 9.5 内 9.5 内 9.5 内 9.5 内 9.5 内 9.5 内 9.5 内 9.5 内 9.5 内 9.5 内 9.5 内 9.5 内 9.5 内 9.5 内	色調 色 10YR6/4 色 10YR8/4 10YR8/4 10YR8/4 10YR8/4 6/6 R8/6 3 3 7/ 5Y6/1 .5Y6/1 .5Y6/1 .5Y6/1 .7Y7/6 986/1 // Y7/1 Y77/6 6/6 6/6 3 8/ 8/ 8/ 8/ 8/ 8/ 8/ 8/ 8/ 8/ 8/ 8/ 8/	接を少量 Zmm以 検多く含 Smm以 を 会 で の Smm以 の Smm以 の 会 で の Smm以 合 を を の Smm以 る を を を を を を を を を を を を を を を を を を	Fの石英・長石・雲 合む Fの石英・長石・砂 は下の石英・長石・少 よ下の石英・長石・ツ と下の石英・長石・雲 大下の長石少量合む 大下の石英・長石の量 な下の石英・長石の量合む 下の石英を含む にの長石の異合む は下の石英を含む にの日本で、雲 にの日本で、一本で、一本で、一本で、一本で、一本で、一本で、一本で、一本で、一本で、一	口縁部~頸郎 1/8以下 1/8以下 9部 1/8以下 9部 1/2 1/8以下 蓋部1/6 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/3 底部 1/2 口縁部 1/3 に第 1/3 に解す (2 に解す (2 に解す (3 に解す (4 (4 ) (4 (4 ) (4 (4 ) (4 ) (4 ) (4 (4 ) (4 (4 ) (4	松本IV様式 弥生中期後 弥生中期 毛球中期 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 古墳 西墳後期 出雲6b~6c (7c付柴~第3四半期) 古墳 田宮6期(7c代) 古墳 国府第7~8型式 (10~11-6前半) 国府第7-8型式 (10~11-6前半) 国府第7-8型式 (10~11-6前半) 国府第7-8型式 (10~11-6前半) 国府第7-8型式 (10~11-6前半) 国府第7-8型式 (10~11-6前半) 国府第7-8型式 (10~11-6前半) 国府第1型式(7c後糱) 十世 (16cまでのところ) 人峰編年 中世N~V開か(14c~15c) 布志名 19c~ 東前 くらわんか手 九駒V期 18c後半 肥前 九駒V期	
1区 掲載 30-1 30-2 30-3 30-4 30-5 30-6 30-7 30-8 30-10 30-11 30-12 30-13 30-14 30-17 30-18 30-17 30-18 30-19 1区 1区 31-1 31-1 31-1 31-1 31-1 31-1 31-	面より 種類 薬生土器 非年七器 上師器 土師器 土師器 利恵器 利恵器 利恵器 利恵器 利恵器 利恵器 利恵器 利恵	上層出土 器種 広口派 系 要 高 路 致 要 高 路 致 要 蓋 蓋 要 要 高 路 の を う を う 日 石 ら り 石 ら ら 付 足 ら り に の の の の の の の の の の の の の の の の の の	(23.0) 	成量(mm) (10.0) (10.0) (5.9) (8.6) (5.6) (6.2) (5.6)	接続   (4.8)   (4.8)   (4.8)   (4.8)   (4.8)   (4.8)   (4.6)   (5.8)   (4.6)   (4.6)   (4.6)   (4.6)   (4.7)	調整・手法の特徴 ホナデ、縦方向のハケメ、5条の四筋 ホナデ、横方向のハケメ、5条の四筋 ホナデ、横方向のハケメ、5条の四筋 よナデ、(株方向のハケメ後ナデ、1条 よとぼり目あり ナナデ、(おり) に回転ナデ、(のもの・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	   検文   の四線文   厚さ(m   1.90   2.01	外にぶい黄檀色 内外、浅黄檀色 内外、浅黄檀色 内外、黄斑色 2 内外、黄灰色 3 内外、黄灰色 3 内外、野水 3 内外 野水 3 内外、野水 3 内外 野水 3 内外 野水 3 内外 野水 3 内外 野水 3 内外 野水 3 内外 野水 3 内外 野水 3 内外 野水 3 内外 野水 3 内外 野木 3 内外 野木 3 内外 野木 3 内外 野木 3 内外 野木 3 内外 野木 3 内 野木 3 内 り り り り り り り り り り り り り り り り り り	色調 色 10YR6/4 色 10YR8/4 10YR8/4 10YR8/4 10YR8/4 6/6 R8/6 3 3 7/ 5Y6/1 .5Y6/1 .5Y6/1 .5Y6/1 .YR7/6 986/1 // YR7/6 6/6 88/8 88/8 33.340 33.40 33.6	接を少量 Zmm以 検多く含 Smm以 を 会 で の Smm以 の Smm以 の 会 で の Smm以 合 を を の Smm以 る を を を を を を を を を を を を を を を を を を	Fの石英・長石・雲 合む Fの石英・長石・砂 は下の石英・長石・砂 は下の石英・長石・型 以下の石英・長石・雲 「下の石英・長石・雪 以下の長石少量合む 下の石英・長石の量 以下の長石少量合む 下の石英を含む にの石英・長石名干	口縁部~頸郎 1/8以下 1/8以下 9部 1/8以下 9部 1/2 1/8以下 蓋部1/6 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/8以下 1/3 底部 1/2 口縁部 1/3 に第 1/3 に解す (2 に解す (2 に解す (3 に解す (4 (4 ) (4 (4 ) (4 (4 ) (4 ) (4 ) (4 (4 ) (4 (4 ) (4	松本IV様式 弥生中期後 弥生中期 ・ 車崎口縁 ・ 古墳 ・ 古墳 ・ 古墳 ・ 古墳 ・ 古墳 ・ 古墳 ・ 古墳 ・ 古墳 ・ 古墳 ・ 田田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田	

# 写 真 図 版



調査開始前状況 (1 区東端から)



調査終了状況 (2 区西端から)



2区4SP土層堆積状況(北壁)



2区7SP土層堆積状況(北壁)



1 区 8SP 土層堆積状況 ( 北壁 )



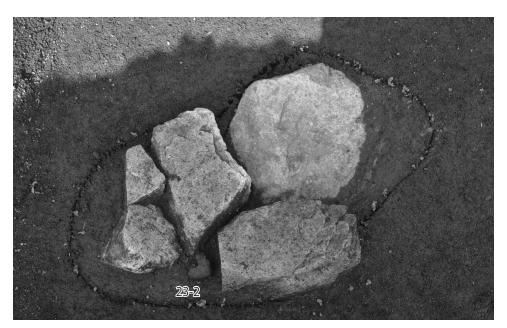
2区 1SP 検出状況 (南西から)



1区 5SP 検出状況 (南東から)



1区1面SK05 完掘状況 (北から)



1区1面P9検出状況 (南から)



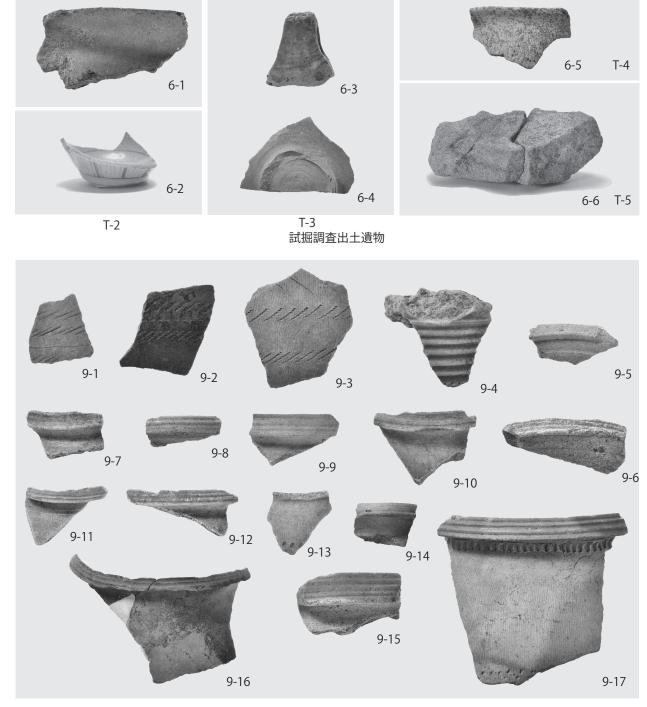
1区1面集石検出状況 (北西から)



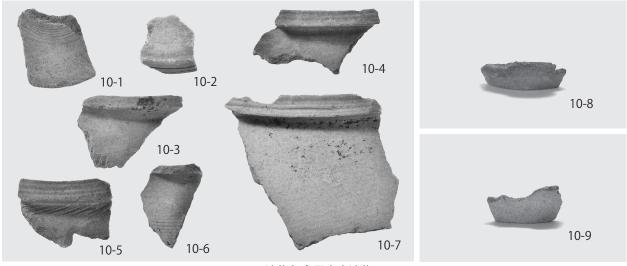
1区 7SP1 面 完掘状況 (南から)



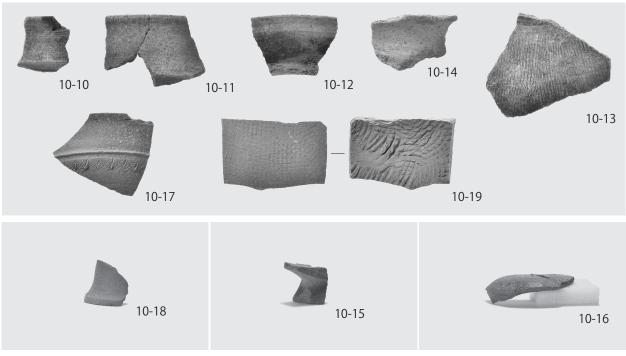
1区 3SP1 面 完掘状況 (東から)

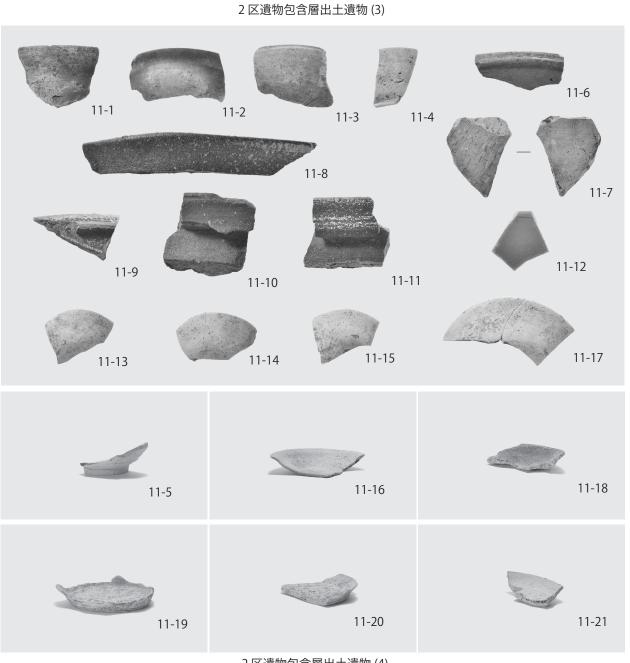


2 区遺物包含層出土遺物 (1)

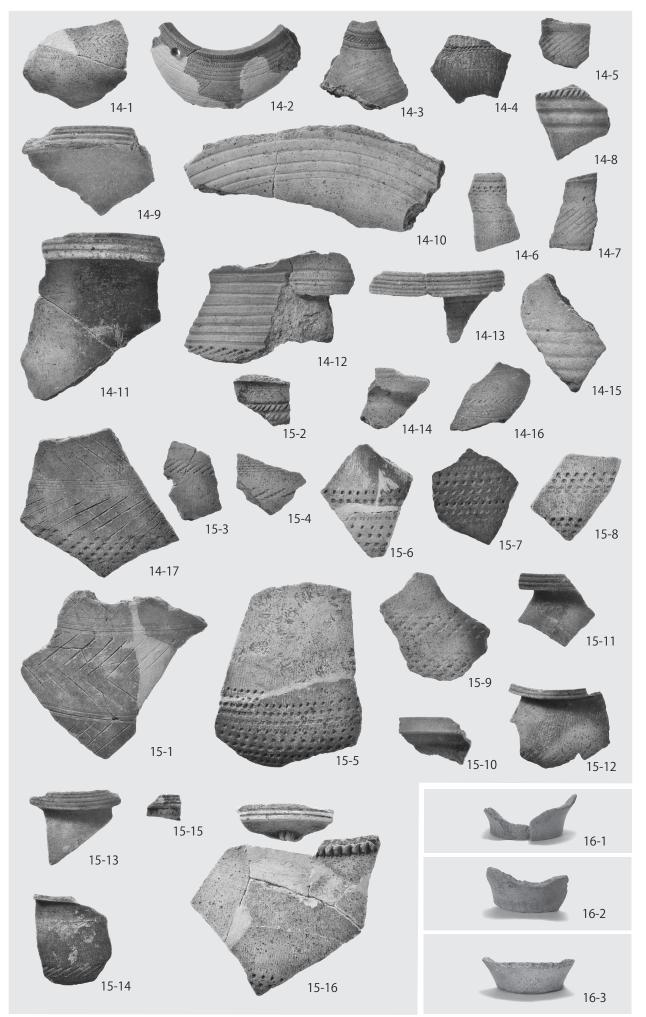


2 区遺物包含層出土遺物 (2)

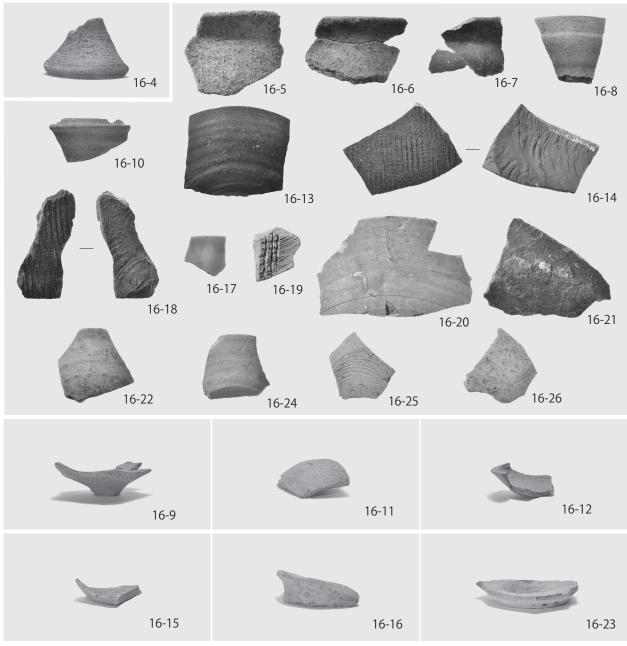




2 区遺物包含層出土遺物 (4)



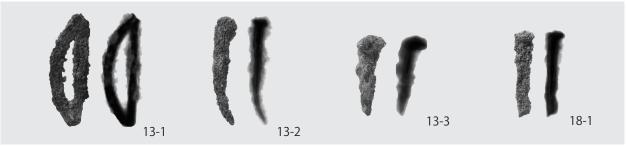
1 区遺物包含層出土遺物 (1)



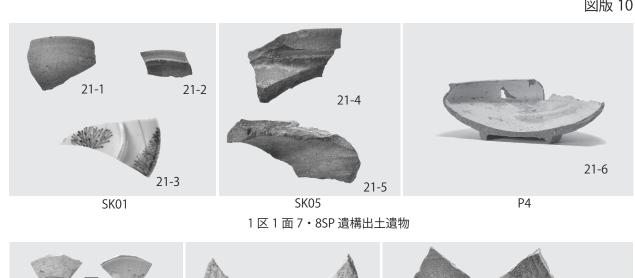
1 区遺物包含層出土遺物 (2)

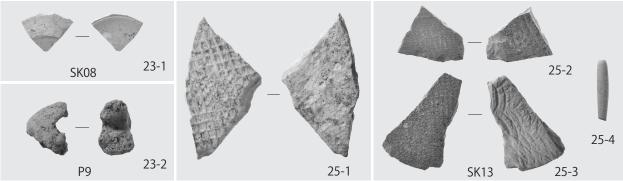


遺物包含層出土 朝鮮半島系土器

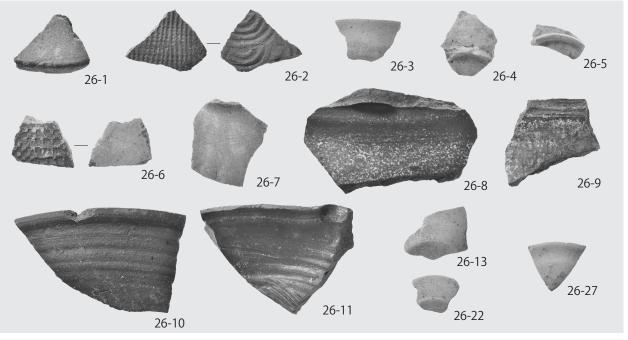


遺物包含層出土 金属製品 (右側は X 線写真)





1区1面1·2SP遺構出土遺物

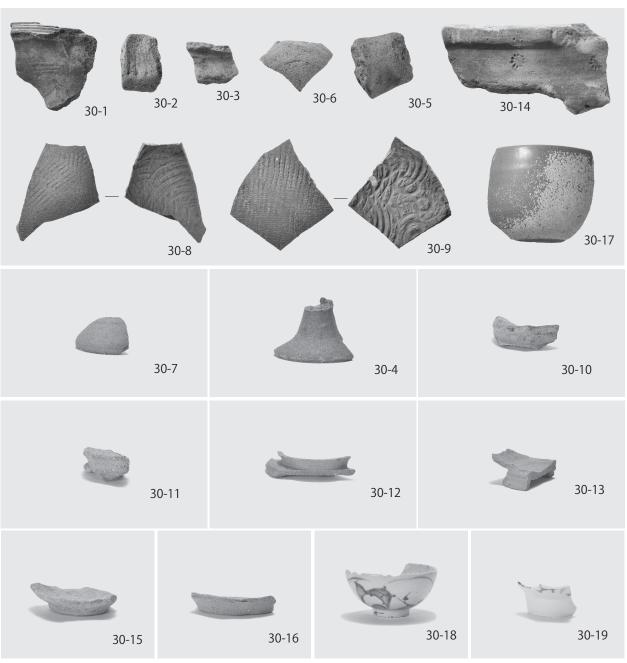




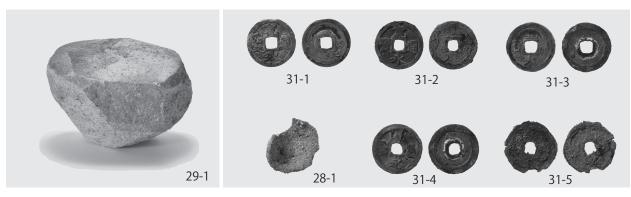
2区1面より上層出土遺物(1)



2区1面より上層出土遺物(2)



1区1面より上層出土遺物



2区1面より上層出土石製品

1区1面より上層出土金属製品

# 報告書抄録

ふりがな	もりやしきいも	せき						
書名	森屋敷遺跡							
副書名	宍道複合施設法	進入路整備事	<b>耳業に伴う埋蔵</b>	文化則	調査報告	書		
巻  次								
シリーズ名	松江市文化	財調査報告	上書					
シリーズ	第 176 集							
編著者名	徳永桃代	渡辺正巳	徳永隆					
編集機関	松江市歴史 〒690-8540 公益財団法 〒690-0401	島根県松 人松江市ン	江市末次町	86 番 文化振	地 まち	づくり文化	財課	52-55-5284 52-85-9210
発 行 年 月	2016(平成	2016(平成 28) 年 7 月						
   所収遺跡名	所在地	7-	ード	4	上緯	調査期間	調査面積	調査原因
771-12201 [	/// 11.25	市町村	遺跡番号	5	<b>東経</b>	µ-д_Е./УЛП-	MAE MAIS	四旦/八旦
tpやLitvititi 森屋敷遺跡	************************************	32201	Н-332		24′ 30″ 54′ 29″	20151021 ~ 20151124	302.4 m <sup>2</sup>	進入路 整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺植	構	主な	遺物	特記事	項
the Land to the tent to the t	集落遺跡	弥生時代 ~ 近世	土坑溝			、土師器 陶器、磁器	弥生中期土器 朝鮮半島系土	
要約	森屋敷遺跡は松 弥生中期から近 周知の遺跡で、 このほか、塩町 跡が古くから交	世にかけて <i>の</i> ここまで多く 式系土器、卓	D遺跡で、特に くの弥生中期 d 明鮮半島系土器	こ弥生中 上器が出	中期土器、 出土したの 也地域との	は森屋敷遺跡 交流を示す遺	<b>が初めてである</b>	<b>5</b> 。

## 松江市文化財調査報告書 第 176 集

宍道複合施設進入路整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書

### 森屋敷遺跡

平成 28(2016) 年7月

編集・発行 島 根 県 松 江 市 教 育 委 員 会 公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団

印 刷 千鳥印刷株式会社 島根県松江市春日町 344-2